ニューズムック THE CAMP STYLE BOOK vol.14 2019年12月2日発行
発行人：星野 邦久 編集人：竹下 充 発行所：株式会社三栄 〒160-8461 東京都新宿区新宿6-27-30 新宿イーストサイドスクエア7F 広告 TEL03-6897-4622 受注センター TEL048-988-6011 FAX048-988-7651 販売 TEL03-6897-4611

ISBN978-4-7796-4022-3

C9476 ¥1000E

9784779640223

定価：本体1000円＋税

雑誌 66729-61
SAN-EI CORPORATION
PRINTED IN JAPAN 図書印刷

1929476010001

ニューズムック THE CAMP STYLE BOOK vol.14 2019年12月2日発行
別冊 GO OUT
THE CAMP STYLE BOOK
14
ゆるくておしゃれな、
キャンプスタイルサンプル。
2019秋
三菱のデリカ スターワゴン
ノルディスクの
カーリ ダイヤモンド
コールマンの
オアシス ミニ
オガワの
トリアングロ
ヒルバーグのサイタリス
フォードのE150
ウィーアーノットブランドの
Cテント
ヘリノックスの
Tac. Vタープ
ファウデのバダヴィ4P
ヒルバーグのウナ
ロータスベルの
エアビームバッド
ゴーライトのシャングリラ４
タトンカの2TC
サバティカルの
モーニンググローリー
TheArthの幕男
MSRのジング
シエラデザインの
ティロス
トヨタの
ランドクルーザー
サバティカルの
スカイパイロット
ザ・ノース・フェイスの
エクスペディション25
ヒルバーグのケロン4GT
ヒルバーグのアルタイ XP

grn outdoor

ジーアールエヌ・アウトドア

Good Rainbow Next

“アイディア“と“遊びゴコロ“で『ソトアソビを楽しくする』アウトドアブランド。

ワクワクするギアやウェアを開発。

https://grn-outdoor.com/

@grn_outdoor

CONTENTS

THE CAMP STYLE BOOK 14

004 THE CAMP STYLE COLLECTION 2019 Autumn

LOCATION

EVENT

Tiny Garden Festival 2019
@無印良品カンパーニャ嬬恋キャンプ場

GO OUT CAMP vol.15
@ふもとっぱら、富士オートキャンプ場ふもと村

CAMP SITE

西湖自由キャンプ場
@山梨県南都留郡

ならここの里
@静岡県掛川市

不動の滝自然広場オートキャンプ場
@静岡県榛原郡

ふもとっぱら
@静岡県富士宮市

本栖レークサイドキャンプ場
@山梨県南都留郡

山伏オートキャンプ場
@山梨県南都留郡

BOCH a camp by campers
@山梨県南都留郡

115 アウトドアラバーが選んだ、自慢のクルマ。
キャンプな、愛車。

LOCATION

EVENT

Tiny Garden Festival 2019

8/28 ~ 9/1
@無印良品カンパーニャ嬬恋キャンプ場

人気セレクトショップ『アーバンリサーチ』が主催するキャンプイベント。衣・食・住・遊にまつわるコンテンツやショップが集まり、ファミリーからも人気。

GO OUT CAMP vol.15

9/28 ~ 9/30
@ふもとっぱら、富士オートキャンプ場ふもと村

弊誌が主催する、日本最大級のキャンプイベント。豪華アーティストによるライブやアクティビティ、人気ブランドの出店ブースなどコンテンツが充実。

CAMP SITE

西湖自由キャンプ場

@山梨県南都留郡

富士五湖のひとつ、西湖の湖畔に位置するキャンプ場。カヌーやSUP、釣りといったシーアクティビティが楽しめるだけでなく、眺望のよさも人気の理由。

ならここの里

@静岡県掛川市

掛川の山間部に位置するならここの里は、キレイに整備されたキャンプ場のほかにバンガローや源泉100％の温泉といった施設も併設されている。

不動の滝自然広場オートキャンプ場

@静岡県掛川市

不動の滝へと続く清流のそば、川根の山間に作られたキャンプ場。夜にはバーが開かれお酒が楽しめ、テントのレンタルは〈ノルディスク〉が用意されている。

ふもとっぱら

@静岡県富士宮市

東京ドーム約5個分という広大な敷地面積を誇るキャンプ場。富士山の麓から頂上までを望める絶好ポイントでも知られ、週末は予約で埋まるほど。

本栖レークサイドキャンプ場

@山梨県南都留郡

本栖湖の湖畔にあるキャンプ場。春から夏までの期間限定で営業しており、特に夏季はカヌーやSUPといった水遊びを楽しむ大勢のキャンパーで賑う。

山伏オートキャンプ場

@山梨県南都留郡

道志村の中でも山中湖に最も近く、清流道志川が流れる緑豊かな環境のキャンプ場。林間サイトは夏も涼しく、利用料無料の釜風呂を楽しめるのも人気。

BOCH a camp by campers

@山梨県南都留郡

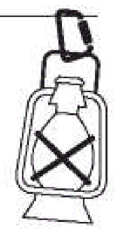
道志みち沿いにあるレストラン「ホロホロ」が管理する、会員制の隠れ家的キャンプ場。インテリアにもこだわったトイレや炊事場、ピザ窯と設備も充実。

THE CAMP STYLE COLLECTION

2019 Autumn

今回で14冊目となるCAMP STYLE BOOK。全国各地のキャンプ場を回り1000組近くのキャンパーさんを見てきましたが、最近はキャンプ歴に関係なくテントサイトの作り込みを楽しんでいる人が増えてきたように感じます。それはキャンプが「オシャレに楽しめる遊び」としてたくさんの人に認知されてきている証拠ではないでしょうか。一方で、オシャレのハードルが上がっているように思う人もいるかもしれませんが、ギアの好みもアイテム選びの背景も異なる人が集まっているので、サイトのスタイルも多種多様。それぞれ好きなアイテムを使い、思い思いにキャンプを楽しんでいます。そんな今だからこそ、自分の好きなスタイルで外遊びを満喫できるようになっているのではないでしょうか。そこで今回も、GO OUT的視点で選んだいろんなスタイルのテントサイト80組をスナップしてきました。

Style No. **01**



MEMBER

sandberg819さん
natsukoさん
soutaさん

LOCATION

@BOCH a camp by camper

SITE SPEC

■テント：ヒルバーグ／ケロン 4GT、アルタイ XP　■テーブル：TheArth／刷り次郎、刷り美　■チェア：カーミットチェア、ホリデーインザマウンテン／アナルコマウンテンチェア　■ランタン：コールマン／243A　■クーラーボックス：オリオン／クーラーボックス 25 ロックフィッシュ、イエティ／ホッパーフリップ　■バーナー：コベア／キューブ　■コット：ヘリノックス／タクティカルコット

2

1

1. インパクト大の個性派クーラー、アメリカ発の〈オリオンクーラーズ〉は圧倒的な保冷力と堅牢性で注目のブランド。上部はEVA樹脂製なので滑りにくくスツールとしても使える。ボトルオープナー付きで便利。　**2.**〈サンゾクマウンテン〉のデルタスに、ノルディック柄の〈フロンティスター〉の焚き火台。

Photo／Taizo Shukuri　Text／Mihoko Odamaki

遊牧民の雰囲気も醸し出すレアものポイント使いが秀逸。

まず注目したいのが〈ヒルバーグ〉のアルタイ XP。遊牧民が使用する移動式の住居「ユルト」がモデルとなっている珍しい形のテント。これまでは定番カラーのグリーンのみで、2019年に限定モデルのサンドカラーモデルがリリースされたが、発売数はたったの15張。sandberg819 さんは問い合わせをしたタイミングで在庫があり、運良く購入できたそう。このサンドカラーで統一されたレイアウトの中でも特に目を引くのがタイダイ柄のクーラーボックス。『アマゾン』で偶然見つけたというが、このクーラーボックスを見て声を掛けられることが多いそう。ほかにも、ホワイトアッシュのシンプルなキッチンラックは〈チリングキャンピープス〉の CC スタンダードシェルフで、手前に取り付けられたバーの使い勝手が抜群にいいアイテム。こうした珍しいギア使いにセンスが光る。

4

3

3.キッチンギアはアナログ感のあるモデルが集合。CCスタンダードラックの上には〈コベア〉のバーナー、〈イナウト〉のドリッパーセット、〈カマノ〉のコーヒーミル、〈アキヒロジンウッドワークス〉のジンカップをスタンバイ。　**4.**六角テーブルは〈グラインドロッジ〉とのコラボ。〈ホリデーインザマウンテン〉のアナルコチェア、カーミットチェアは〈オールドマウンテン〉のレザー製に張り替え。

タープは張らず、大きなふたつのテントの間にリビングをレイアウト。風が強いなど天候が不安定な時はリビングセットを丸ごとアルタイの中へ格納できる。中央にある六角テーブルは〈TheArth〉の刷り次郎と刷り美だ。

8

5

9

7

6

8.タンカラーのアルタイは〈エイアンドエフ〉別注カラーのサンド。 15張限定ということで、かなり話題になったモデル。ダメ元で問い合わせたところ、奇跡的に在庫があった店舗が見つかり九州から取り寄せて手に入れた。
9.ケロンGTはあらゆる状況下に対応する最強テント。居住スペースの広さはもちろん自転車を収納できるほどの広さがある前室も魅力。

5.〈コールマン〉のランタンは1937年製のヴィンテージ。グローブはアンバータイプに変えているのでボディカラーとのコントラスト、雰囲気もいい感じ。台にしているテーブルは〈ヘリノックス〉×〈ネイバーフッド〉。　**6.**軍モノのコンテナに〈イエティ〉のホッパーフリップソフトクーラーをオン。保温性はハード同様優れているがクッション性のよさを活かし小物入れとして使う人が多い。
7.〈バリスティクス〉のSBSキットに〈シュプリーム〉の板を付けサイドテーブルとして活躍。奥のグロウラーは〈ドリンクタンクス〉。

Style No. **02**

MEMBER

絹谷さん
上野さん
仲佐さん

LOCATION

@GO OUT CAMP vol.15

SITE SPEC

■テント：ザ・ノース・フェイス／バスティオン、ドーム８　■タープ:MSR ／アウトフィッター、ランデヴー　■テーブル：バイヤーオブメイン／ロールトップテーブル、スノーピーク／マイテーブル　■チェア：カーミットチェア　■ランタン：コールマン／ 200A、スノーピーク／ほおずき　■クーラーボックス：コールマン／ヴィンテージ　■コット：ワイルドワン／アルミ GI コット　■ジャグ：コールマン／ヴィンテージ　■バーナー：コールマン／ 413G、スピードマスター 500

ひと目で ギア好きがわかる 玄人ドームキャンパー。

サンドや OD といったミリタリーテイストやアースカラーのテントが多くを占める中、ひと際目立っていたのがこのイエローで統一された絹屋谷さんグループ。しかも、日本では数張しかないと言われるドーム８や現行でも販売されているバスティオン４の希少な旧カラーモデルが２幕も設営され、タープ下を覗けばコレクター涎垂モノの〈コールマン〉のゴールドボンドカラーのギアがあちこちに。只者ではないギア選びだ。さらに、キッチンラックに別ブランドのボックスを入れ引き出し風に設置していたり、テーブルの脚をペイントしていたりと、キャンプに小慣れた工夫も多く見受けられる。ただのギア好きに留まらず、キャンプ中の快適さも追及された、アウトドアの達人とも言える完成度。このサイトは一見の価値あり。

2

1

1.〈ザ・ノース・フェイス〉が受注生産していた8人用テント。前室やインナーが付き、シェルター以外でも使用可能。スカートが付くため冬場は特に活躍してくれそうだ。　**2.**ドーム8と同様、山岳用エクスペディションシリーズの4人用で前室が長い初期モデル。どちらもチリから個人輸入したとか。

リビングを作り出していた〈MSR〉のアウトフィッターだが、よく見ると2枚重ねているのがわかる。実は下に同ブランドの現行モデル、ランデヴーを遮光性アップのために張っているのだ。同規格のためサイズはピッタリ。

5

4

3

8

7

6

3.リビングに置いた〈カーミットチェア〉は、〈バリスティクス〉×〈ナチュラルマウンテンモンキーズ〉のマイスターシートに張り替えている。　**4.**こちらはヴィンテージの火器が置かれたコーナー。ストーブはどちらも〈POD〉で、左が1996年製7K、右が2007年製の8K。ゴールドボンドのジャグは1971年のもの。　**5.**1971～'73年の間しか作られなかったため、玉数が少なく希少価値の高いマスタードカラーが、ゴールドボンドと呼ばれるモデル。200Aは'73年と'71年のもの。**6.**整理整頓されたキッチンは、2枚の棚板を4段階に調整できる〈テンマクデザイン〉のワークラック。〈ホリデーインザマウンテン〉のボックスをそれぞれに入れ、引き出しのように使っていた。　**7.**サイドテーブル代わりに配置した〈スノーピーク〉のマイテーブル。脚を黒に塗装し、〈マックアウトドア〉の収納を取り付けた。　**8.**ドームテント内にさり気なく置かれていた〈プリムス〉の2バーナーP251は、ガス缶が本体下に取り付けできるデザイン、かつ持ち運び時のコンパクトさから、廃盤モデルながら未だに人気。後ろに置かれた収納ボックスは〈プラノ〉のコンテナ。

Style No. **03**

MEMBER

ユウイチロウさん
ミユキさん
キヨラちゃん
アイラちゃん
アオハちゃん

LOCATION

@GO OUT CAMP vol.15

フラッグシップモデルのひとつスカイパイロットは、TCコットンを使った大型シェルター。メインポールのほか4本のサブポールで4辺を広げているため、720×440×270cmという広さを実現した。

今季イチ話題の新作テントは、超快適空間なコスパ良好モデル。

次々と話題のギアを提案し続ける『エイアンドエフ』から、今季最もホットなテントがデビューした。その名も〈サバティカル〉で、同ショップがプロデュースするだけでなく、今年春にデビューした〈ゼインアーツ〉の代表がデザイナーを務めた点でも注目度が高い。そんな〈サバティカル〉の大型シェルター、スカイパイロットでくつろいでいたファミリーは、室内にリビング、寝室すべてを入れ込みお籠りスタイルでのキャンプ。今回が初張だが、ペグダウン箇所が少なく設営は簡単だそう。家族５人が余裕で入る広さがあり手間もかからないとなれば、ファミリーには嬉しい限り。手頃な価格という点でも優秀すぎるモデルである。これからのファミリーテントの定番になりそうだ。

SITE SPEC

■テント：サバティカル／スカイパイロットTC　■テーブル：ハイランダー／ウッドロールトップテーブル、テントファクトリー／スチールワークス FD テーブル　■チェア：ヘリノックス ／コンフォートチェア、ザ・ノース・フェイス／キャンプチェア、キャンプアウト／アルミ背付きベンチ　■ランタン：コールマン／ 2019 シーズンズランタン、ベアボーンズリビング／エジソンストリングライト　■クーラーボックス：コールマン／スチールベルトクーラー　■焚き火台：スノーピーク／焚き火台 M

Photo／ Taizo Shukuri　Text ／ GO OUT

室内入って左側はリビング、ダイニングスペースに使用。センターポールがちょうどいい仕切り役となっていた。家族5人分のチェアやテーブルのほか小物を収納したボックスを配置しても余裕の広さ。

寝室はラグを敷いてお座敷仕様に。靴を脱いでくつろげるのが嬉しい。また、いつでも昼寝ができるよう〈コールマン〉のコットをスタンバイ。メッシュの窓から風が入り気温が高い日もこれで快適。

出入り口になる大きな窓のほか、合計4ヶ所の窓がメッシュ素材になっているため風通しも良好。巻き上げ可能なスカートが付き、1年中使用できるスペック。定番カラーのベージュのほか、限定色のグリーンも発売された。

1

2

3

4

5

6

1.テントの外には〈コールマン〉のコンフォートマスター キャンバスリングチェアを置きのんびり焚き火を楽しむ。ステンレスの台は、〈アイアンクラフト〉のイザナミハーフ。アイアン素材より軽量なモデル。**2.**2019年度のシーズンズランタンは'70年代のアメリカンコーヒーショップがコンセプト。カラーがテントサイトとマッチしている。 **3.**『デバイスワークス』のステッカーを貼った〈ミンテージ〉のジャグ。 **4.**ランタンや水筒など細々したものを配置したラックは、脚だけメルカリでゲット。天板はホームセンターで集合材の板を購入して組み合わせた。 **5.**〈コールマン〉のスチールベルトクーラ、2バーナーはサイトの雰囲気と統一させるためベージュと黒で塗装した。こうしたひと手間でサイトインテリアがグッとオシャレに。クーラーボックスの台は同ブランドのものだが、2バーナーは〈テンマクデザイン〉のワークテーブルの上にセット。高さがピッタリ揃う。**6.**テントの天井にはハンガーテープが付き、ランタンなど照明を吊り下げることができる嬉しい仕様。〈ジェントス〉のエクスプローラのほか、〈ベアボーンズリビング〉のエジソンストリングライトで明り採り。

アーバンな色使いのワンポールテントで秋キャンプ仕様に。

Style No. **04**

MEMBER

epitaphさん
リオナさん

LOCATION

@GO OUT CAMP vol.15

SITE SPEC

■テント：テンティピ／オニキス７ライト ■タープ：MSR ／ 19ft パラウィング ■チェア：カーミットチェア／ネイタルデザイン別注、ヘリノックス／チェアワン ネイタルデザイン別注、ネイタルデザイン／ El スツール ■テーブル：ブラックデザイン／ハコブネ、ハレテーブル ■ランタン：ジェントス／エクスプローラ、ゲニオール／ HK250 ■クーラーボックス：イエティ／ローディ ■ジャグ：アムパム ■バーナー：スノーピーク／フラットバーナー

グレーを基調にしたepitaph さんのテントサイトは、ポイントに〈ネイタルデザイン〉のトリコロール柄を取り入れたアーバンな印象。この時に張っていたのはコットン素材のワンポールテントで有名な〈テンティピ〉のオニキス７ライトだが、これは幕の素材がナイロン製で、軽量化に特化したモデルだ。天井のベンチレーションのほか、入口はメッシュドアが付く。撮影したイベントが開催されたのは９月だが、この時期は日中まだ暑く、夜は寒いという装備に悩む季節。しかし、このモデルなら夜はストーブをインストールでき暖かな空間を確保、日中は風を通し涼しく過ごせるという優れモノ。１年中キャンプを楽しみたいキャンパー必見のモデルだと言える。

寝床に使用したコットは〈バイヤーオブメイン〉のカタディンコット。同ブランド定番のメインヘリテージコットよりひと回り小さいサイズ。廃番モデルだが、デッドストックとユーズドを購入。

〈ヨカ〉のパネルシェルフは脚部分をグレーに塗装。上段には〈プリムス〉のIP-200LA、IP-100LA、〈コールマン〉の242C、〈ケーラー〉の209とヴィンテージ品が並んでいた。

1

2

1.オニキス7ライトは、あまり見掛けない7というサイズ。実は9と7の価格に大きな差がないため、9を選ぶ人が多いとか。直径4.5m、高さ2.7mと4人家族が十分くつろげる広さ。　**2.**室内にはコットのほか〈ブラックデザイン〉のハレテーブル、発売したばかりの〈ヘリノックス〉×〈ネイタルデザイン〉のイスを配置していた。

約10年前に惜しまれつつも廃番となってしまったパラウィングタープ。その張り姿の美しさから、今もファンが多いモデル。2本のポールで設営するが、片方はテントのトップに付け、前室としての役割も果たしている。

7.〈スノーピーク〉のパイルドライバーには、〈ネイタルデザイン〉と〈ハーフトラックプロダクツ〉がコラボしたカバーが。即完売した超人気アイテムだ。　8.リビングの照明用スタンドには〈ブラックデザイン〉のシダレザクラを。3本のポールで構成され、高さの調整が可能に。テーブル天板には、ポールを通す穴が空いているのも注目ポイント。

3.リビングはウッドファニチャーで統一。〈ヨカ〉と〈シカク〉がコラボしたランドリーボックスをゴミ箱に、収納は〈カウブックス〉のウッドボックスを使用。　4.じわじわと利用者が増えている台湾発ブランド〈ブラックデザイン〉のテーブル、ハコブネ。1枚の天板が三段階に展開でき、中央には同ブランドの天板パーツ、〈スノーピーク〉のバーナーを載せた。開き具合が調整できる点も使い勝手バツグン。　5.〈バイヤーオブメイン〉のパンジーン フォールディングテーブルに、〈ネイタルデザイン〉と〈バリスティクス〉のギアコンテナをセット。クーラーボックスの台も〈ハイランダー〉のウッド製と徹底してテイストを統一。　6.〈ブラックデザイン〉のXスタンドは『ニトリ』のカゴを載せカトラリーや食器類の収納。ツールケースも同ブランドで。

タープポールに取り付けた〈コールマン〉のランタンもグリーンでまとめた。手前は観音さんが乗るハーレーの年代に合わせ'50年代製造の220D。奥はノスタルジアで、実はLEDランタン。2マントルのデザインがユニーク。

Style No. 05

MEMBER

観音さん
micaさん
suzuちゃん
harutoくん
arataくん

LOCATION

@GO OUT CAMP vol.15

SITE SPEC

■テント：ヨーレイカ／ECWT　■タープ：TheArth／幕男　■テーブル：ブルーリッジチェアワークス／ボイジャーテーブル、キャンプマニアファクトリー／STグリルスタンド　■チェア：ヘリノックス／コンフォートチェア、カーミットチェア、ステューシー×コールマン／リラックスフォールディングベンチ　■ランタン：コールマン／200D、ノスタルジア　■クーラーボックス：アイスランドクーラー　■焚き火台：スノーピーク／焚き火台M　■ジャグ：マルキジオ／オイルドラム　■バーナー：プリムス／オンジャ

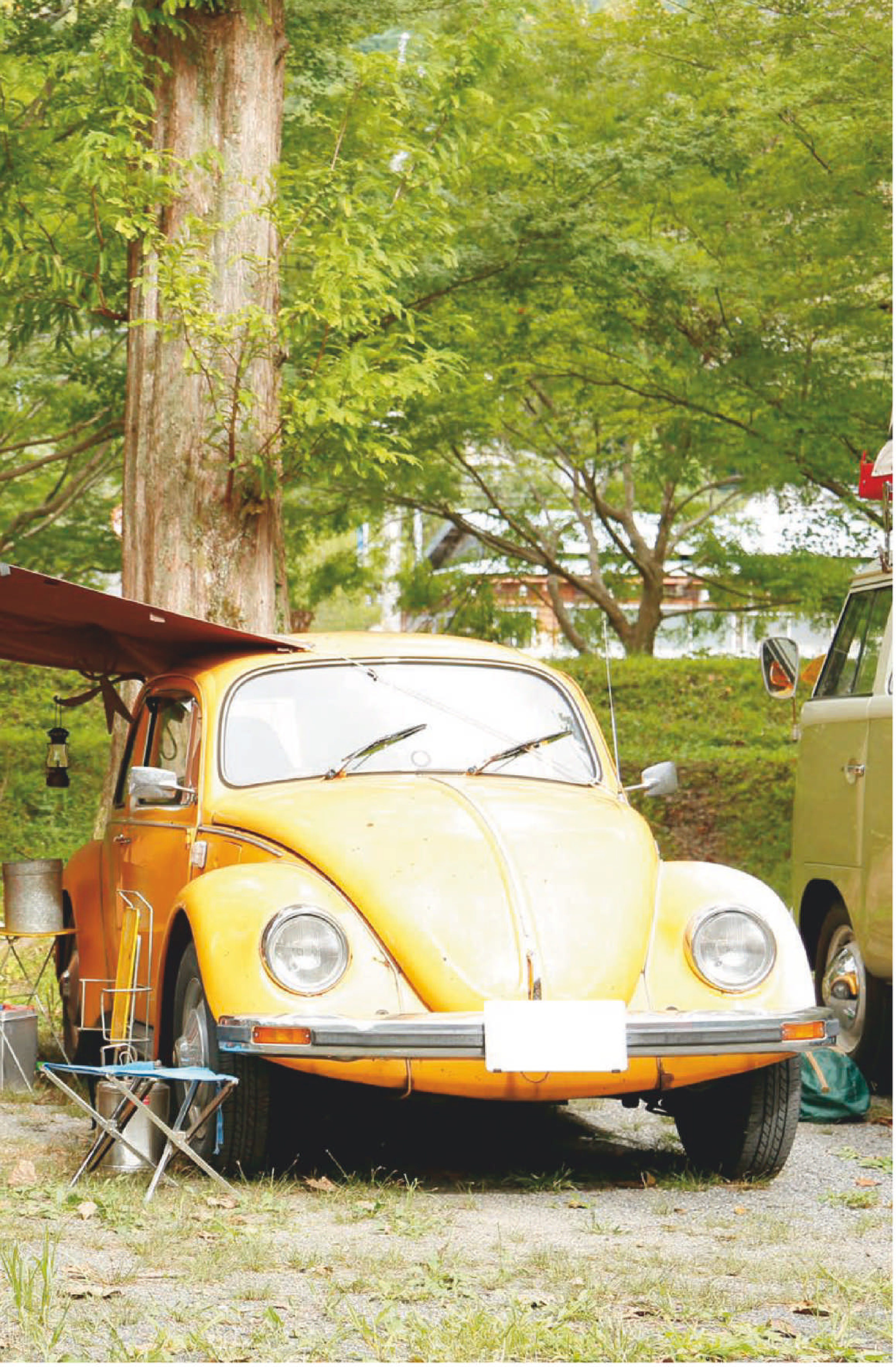
〈カーミットチェア〉は〈ナチュラルマウンテンモンキーズ〉×〈バリスティクス〉マイスターシートのブラックをチョイス。無骨すぎないサイト作りのポイントは、グリーンや迷彩を多用しすぎないことだ。また、〈ステューシー〉と〈コールマン〉コラボのベンチなど、ファッション要素もプラス。

ミリタリーとウッド、組み合わせの妙を楽しむ。

主流のミリタリーテイストでも、やはり実物の軍モノは男心をくすぐられる。観音さんファミリーもレアな軍幕を寝室に使用していた。極寒地対応のハイスペックモデルで、生産期間前期は〈ザ・ノース・フェイス〉が、後期は観音さんが使う〈ヨーレイカ〉が担当していたもの。使っているウッドランド迷彩はカジュアルさもある迷彩パターンのため、無骨になりすぎないのも取り入れやすいポイントだ。そんなテントに合わせ、存在感のあるタープは幕男のグリーンで統一感を出す。一方で、リビングやダイニングはウッドファニチャーを多用。木のぬくもりがミリタリーの重苦しい雰囲気を中和し、男臭くなりすぎない点に好感が持てる。絶妙なバランスの取り方がお手本になる。

1.このECWTは、エクストリームコールドウェザーテントの略。入り口のジップが凍って開かない場合や、急な敵の襲撃に備え緊急脱出口が付く。　**2.**室内には人気の〈ネイバーフッド〉×〈ヘリノックス〉のコットをセット。日中は子どもが遊ぶための場所となっているそう。　**3.**キッチンに使っていたヴィンテージのアイロン台は名古屋のヴィンテージショップ『ジャムデイ』で購入した'50年代のもの。隣は〈キャプテンスタッグ〉のラックを置き、ウッドでまとめた。

4.実は夫婦揃ってヴィンテージハーレー乗り。そのためバイクカルチャーを感じさせるアイテムも多数。ジャグにしているオイル缶もサインペインターにカスタムしてもらった。　**5.**テーブルの下にはウッド製のミニスツールを置き、ティッシュなど何かと必要になるけどかさばりがちなアイテムを収納。　**6.**キャンプの醍醐味、焚き火エリアはタープから少し離れた場所に配置。焚き火台横の〈アイアンクラフト〉のイザナミハーフは、ダッチオーブンやフライパンなどがすぐ置けるような動線に。　**7.**コーヒー用のグラインダーや計量スプーン、ドリッパーは〈ステューシーリビン〉で統一。インテリアとしても優秀なデザインで、サイトを彩る。　**8.**愛車は2002年式の8人乗り〈ダッヂ〉バンで、黒のボディにシルバーのラインを入れている。荷物を入れるスペースを潰すことなく後部座席がフルフラットになる。キャンプでの遠征時も移動しながら車中泊可能だ。



Style No. 06

MEMBER

Radinさん
chamamaさん
RUNAさん

LOCATION

@ならここの里

SITE SPEC

■テント：アンドレ・ジャメ　■テーブル：ピクニックテーブル／ヴィンテージ　■タープ：自作　■チェア：ヴィンテージ　■ランタン：デイツ　■クーラーボックス：サーモス／ヴィンテージ　■ジャグ：軍モノ　■バーナー：コベア／キューブ

ギアの世界観を揃えオールディーズなムード全開に。

1975年式のビートル タイプ1でキャンプを楽しんでいたRadinさん夫婦。ヴィンテージカーの世界観を損なわないレトロなテントサイトの作り込みは、まるでそこだけ時代が止まったかのよう。ドイツ発の〈フォルクスワーゲン〉に似合うのはやはりヨーロッパ製のデザインではあるが、使っているギアを見せてもらうとアメリカ製のモノもいくつか混ざっている。それでも統一感が出るのはギアの製造年代を合わせているからだろう。また、黄色のボディカラーに合わせ、オレンジや赤、茶色を多用することでサイトコーディネートにもまとまりが生まれた。一度は憧れるヴィンテージギア。年代を揃えて買うことが、レトロコーディネートを成功させる鍵のようだ。

〈アンドレ・ジャメ〉は、現在も〈ジャメ〉というブランド名で存続するフランスのメーカー。コンパクトに見えるテントだが、実は高さが170cmほどあり2ポールなので室内も広い。

ピクニックテーブルは知人から譲り受けたもので、'60～'70年代のドイツで作られたヴィンテージ品。手前のアイロン台はアメリカ製で、子ども用の小さいサイズがかわいらしい。

イスはどちらも名古屋の『ジャムデイ』で購入したヴィンテージ品。ウッドチェアはアメリカ製のもので、アルミフレームのチェアはニットを編み込んで作られた座面がお気に入り。

コンパクトにまとめられたテントサイト。タープのガイラインをサイドミラーなどにくくり、クルマと一体感を持たせているのも参考になる。テント入口も近く、これなら雨が降っても濡れることなく移動・撤収ができそうだ。

4

3

2

1

1.タープはRadinさんの自作で、もとは〈フォルクスワーゲン〉のタイプ2のカーサイドタープとして作った。帆布生地を使い、撥水加工を施している。　**2.**1975年式のビートル。ボンネットが収納になっていて、コンパクトながら収納力がある。　**3.**'70年代に作られた〈サーモス〉のクーラーボックス。ポップなカラーが珍しい。隣は〈レッドモン〉のバスケットでこちらも年代物。　**4.**イギリスのメーカー〈ハゴ〉のキッチンラックは、6つセットで風除けも付いていたそう。ほかにもバケツなど、オプション品が充実しているのもこのブランドの特徴。2段目に付けたキッチンツールケースは、バスのカーテンと同じ当時モノのリプロダクト生地を使用。

話題のタンカラーとヴィンテージギアのミックステイスト。

Style No. **07**

たけしさん夫婦の寝室、〈ヒルバーグ〉のアルタイは今年発売されたばかりの限定15張りというかなりの希少アイテム。またリビングに設営したタープもテントと同じシルナイロン素材を採用した軽量モデルかつ最近主流のタンカラーで、まさに最先端のギアが揃う。そんな流行りのアイテムを取り入れつつ、リビングはヴィンテージのアイテムで統一。これらはまったく正反対のテイストにも関わらず、上手にミックスされて見えるのは、愛車のクラシックレンジのおかげ。レトロなボディデザインはリビングに置かれたヴィンテージギアとも相性バツグンで、ボディーカラーはサイト全体の色味と見事にマッチ。このクルマの存在が最新ギアと古いギアを違和感なく共存させて見せているのだろう。

MEMBER

たけしさん
ゆいさん

LOCATION

@GO OUT CAMP vol.15

SITE SPEC

■シェルター：ヒルバーグ／アルタイXP ■タープ：ローカスギア ／デュオ シル ■チェア：チリングキャンピープス／チリンズローバーチェア ■テーブル：ヴィンテージ ■ランタン：コールマン／LQ427、242B、200A ■クーラーボックス：コールマン／ヴィンテージ ■ジャグ：スタンレー／軍モノ ■バーナー：コールマン／502、ピークワン

愛車はイギリス〈ランドローバー〉のレンジローバー。'92年式のクラシックレンジと呼ばれるモデル。既に24万kmも走行しているが、自らメンテを施し大きな故障もないそう。

1.リビングに置かれたテーブルは、イギリスのキャンプ道具を輸入販売するインスタグラムアカウント『ブリッキングUK』にて購入。ガレージブランド〈チリングキャンピープス〉のチェアと合わせてハイスタイルに仕上げた。　**2.**〈ザ・ノース・フェイス〉のギアコンテナバッグはメインスペースに3枚の稼働式の仕切りが付く便利なアイテム。バッグタイプなので未使用時は小さく畳んで収納。　**3.**テーブル下には〈キャンプマニアプロダクツ〉の小さめサイズのSTOテーブルをセットし、キッチン道具置きに。動線を考慮したレイアウトだ。

2.9×2.9mのタープは、デュオキャンプでの使用を想定されたサイズ。クルマの横幅よりやや長さはあるが、カーサイドタープとして使用中。劣化に強いシルナイロン素材は、雨の日でも素早く撤収作業ができる点が優秀。

7

6

5

4

9

8

4.メインテーブルは小さいサイズのため、使用頻度の高い水筒などは取り出しやすく別テーブルにスタンバイ。〈バイヤーオブメイン〉のパンジーンフォールディングテーブルは、サイドテーブルとして高さも大きさも理想的だ。　**5.**裏面に年代が記されていることから年代別のコレクターが多い〈スタンレー〉のヴィンテージアイテム。こちらのジャグは珍しいミリタリーモデルで、表面にはロゴが入っていない。台には〈チリングキャンピープス〉のミリタリーモチーフのスツールを使いテイストを揃えた。　**6.**〈七輪本舗〉のちびちび七輪は能登切り出しの職人技が光る逸品で、その堅牢さから生産が追いつかないほどの人気。　**7.**タンカラーのアルタイは『エイアンドエフ』限定で発売されたばかりの、今季最もホットなアイテム。　**8.**〈コールマン〉製の火器類はすべてヴィンテージ。ゴミ箱にした緑のフレームも同ブランドのヴィンテージスツールの骨組みを流用し、キャンバス製のバッグを引っ掛けている。　**9.**アルタイの室内には〈クオルツ〉のライトビームコットを配置し、快適な寝床を作っていた。6人が寝られる広さがあり、寒い時期は夫婦のリビングとしても活躍する。

Style No. **08**

MEMBER

シンさん
ユリさん

LOCATION

@ふもとっぱら

SITE SPEC

■テント：ノルディスク／アスガルド 12.6 ■タープ：ノルディスク／カーリ ■テーブル：ハイランダー、キャンプマニアプロダクツ／グリルスタンド、尾上製作所／囲炉裏テーブル ■チェア：ハイランダー、コールマン／インフィニティチェア ■焚き火台：トリパス／グルグルファイアーソロストーブ／キャンプストーブ ■ランタン：ペトロマックス／ HK500、ソーラーパフ、ベアボーンズリビング／ビーコンライト ■クーラーボックス：オルカクーラーズ／ 40QT、AOクーラーズ／クーラーバッグ ■ジャグ：ミンテージ ■バーナー：イワタニ／タフまる

2

1.メイン照明は〈ペトロマックス〉のHK500。手間のかかるランタンだが、だからこそ趣味性の高さはひとしお。サイトの格を高めてくれる逸品だ。ホヤは〈マウンテンリサーチ〉製にチェンジ。 **2.**ほかを抜きん出る圧倒的な高火力で人気を誇る〈オムニバーナー〉。中でもこちらはマットオリーブドラブを纏った特注カラー。ストーブとしても使えるのでオールシーズン重宝しているそう。

シロクマ印のホワイトサイトに無骨な焚き火ギアが大集結。

大型ワンポールテントの火付け役として、今も熱狂的なファンを持つ北欧生まれのテントメーカー〈ノルディスク〉。中でも代表的なモデルが、おふたりが使用するアスガルドとカーリ。抜けのいいふもとっぱらの景色とも相まって、まさにスカンジナビアデザインたるクリーンなベースセッティングを完成させた。一方でそこに合わせられるギア類は、オトコの匂いがぷんぷん。特に焚き火には相当のこだわりがあるようで、ヘビーデューティーなブラックアイアンを主軸とした、ガレージブランドものを所狭しと展開。チェアにはリラックス効果の高い大型モデルをセレクトし、全体的にグラマラスな志向でありつつ、男性目線のマニアックなこだわりも投影したサイト作りに。

一時のワンポールブームが落ち着いた昨今でも、数少ない『憧れテント』の一角として君臨する〈ノルディスク〉のアスガルド。その美しく逞しい佇まいにコアな焚き火グッズを集約した、オトコマエなグランピンスタイル。

5

3

4

3.ホームセンターで購入した鉄杭を3本使い、ハンガーを自作。スキレットに加えプロ仕様のアイアンフライパンが吊り下げられているあたりからも、オーナーのこだわりぶりが伺い知れる。　**4.**優れた空気対流設計で素早い火付けを実現する〈ソロストーブ〉の焚き火台は、主に炭や薪の焚き付け用に使用しているそう。**5.**有機的なラインが特徴的なこちらは、北海道のガレージブランド〈トリパス〉の焚き火台。別売りの同ブランド天板と併用し、主に肉焼き場として活躍。吊り下げられた湯沸かし用のボトルは〈パスファインダー〉。

上述の焚き火台を〈尾上製作所〉の囲炉裏テーブルで囲んだ、こだわりの焚き火スペース。ハンガーは〈サンゾクマウンテン〉。そこにかけられたトングにハンマー、そして火吹き竹もブラックにD.I.Y.塗装を施した。

8

7

6

10

9

6.キッチンシェルフは、ホームセンターで購入した天板と市販のアイアンフレームを組み合わせて。ハンガー部分に引っ掛けたツールケースは〈ダイス〉。キッチンペーパーホルダー付きで便利。　**7.**〈コールマン〉のインフィニティチェアはお昼寝用に。座ったままでもリクライニング可能なので、超のんびりできるそう。おかげで爆睡し過ぎてしまうこともあるとかないとか。　**8.**キッチンテーブルは〈ハイランダー〉。インド生まれの銀ピカジャグ、〈ミンテージ〉のウォータージャグの存在感が冴え渡る。　**9.** 広いテント内はご覧のとおり。表の焚き火特化型ヘビーデューティースタイルとは打って変わって極めてクリーン&ポップなコーディネートは、まるでどこかのグランピング施設さながら。ベッドは〈シートゥーサミット〉のエアフレータブルを2台導入。　**10.** 万が一の雨に備え、テント&タープは小川張りでセッティング。さらにタープは片流れで張り、雨の落とし道も計算済み。

注目の新作テントと便利なギア選びで快適空間をメイク。

Style No. 09

日本発の老舗アウトドアブランド、〈オガワ〉の新作ワンポールテントを張っていたトモヒコさんファミリー。そのテントは、二又ワンポールを採用したことでこれまでと違ったフォルムのワンポールテントに仕上がっている。そのポールによる居住性のアップのほかに、エントランスは前後に２カ所設けられていたり、側面と上部に大型ベンチレーションが備わっていたりと快適性を追求したテントになっている。最大収容人数は６人なので、３人家族にとってはゆったり使え、エアベッドとコットを設置しても、まだまだ余裕がある。選んでいるギアは、高さを変えられたり、スタッキングできたりする便利なものが多く、ブランドネームにとらわれず、使いやすいギアで快適な空間を作り上げた。

MEMBER

トモヒコさん
リエさん
フタバちゃん

LOCATION

@ふもとっぱら

SITE SPEC

■テント：オガワ／アテリーザ　■タープ：フィードア／ヘキサタープ　■テーブル：ヤマゼン　■チェア：ヘリノックス／タクティカルチェア、コールマン／コンフォートマスター キャンバススリングチェア　■焚き火台：ユニフレーム／ファイアグリルＬ　■ランタン：ソト／ ST-233　■クーラーボックス：イグルー／マックスコールド　■コット：ワイルドワン／アルミ GI コット　■ジャグ：ノーブランド　■バーナー：イワタニ／焼き上手さん α

GOOD IDEA
このテクいただき！

100均のボックスで簡易の棚を作って収納場所をプラス！

〈ダイソー〉の折り畳み式ボックスの短辺をあえて繋がずに開けておき、ひっくり返して棚をメイク。上は調理中のフライパンなどを置く場所として、下は収納場所として、限られたスペースを無駄なく活用しているアイデアが秀逸。

1. 2019年発売モデル〈オガワ〉の新作ワンポールテント、アテリーザ。設営は簡単で、ひとりでも張ることができる。耐久性の高いリップストップ生地の採用で、同時に軽量化にも成功した。ワンポールテントだが、てっぺんは2つの角が生えているようなフォルムが特徴的。　**2.**外観のてっぺんが2つに分かれている理由がこちら。Y字型ポールを採用し室内空間に広がりが生まれ、窮屈感が軽減された。まさにワンポールの進化系と言えるデザイン。　**3.**寝室は〈コールマン〉のエアベッドと〈ワイルドワン〉のコットをインストールした。

Photo ／ Taizo Shukuri　Text ／ Showgo Komatsu

えんじ色のタープ、〈フィールドア〉のヘキサタープは、以前使っていたテントに合わせて買ったものを流用しているそうだが、〈オガワ〉のテントがホワイトなのでしっくりなじんでいる。偶然にもコーディネートと色がリンク。

6

5

4

9

8

7

4.レイアウトはコンパクトにまとめて、無駄な動きをなくす。チェアは〈ヘリノックス〉のタクティカルチェアと、〈コールマン〉の背もたれが高いモデルを使用。焚き火台は、大きめの〈ユニフレーム〉ファイアグリルL。　**5.**高さ調節ができる便利な〈ヤマゼン〉のキッチン台。立ったまま調理ができるように、ハイテーブルに。天板は熱に強く、ダッチオーブンも直置きできるのが便利。カラーはブラックなので、どんなスタイルにもマッチ。　**6.**長年愛用しているというCDプレイヤーで音楽を楽しむ。この日も10枚ほどCDを持参していた。ラジオも聴くことができるので、飽きることはなさそう。　**7.**収納ボックスに使っているのは、100均で購入した組み立て式のボックス。その隣に置いてある白と水色のクーラーボックスは、〈イグルー〉。　**8.**〈ロゴス〉の六角囲炉裏ラックテーブル。焚き火台を囲むテーブルとしての使い方はもちろん、重ねることでラックとして機能する。折り畳みできキャリーバッグも付属しているので持ち運びに便利。　**9.**ゴミ箱にしているバケツはヴィンテージの〈エースハードウェア〉。古着屋で購入し、アメリカらしいデザインがお気に入り。

室内の照明には〈ベアボーンズリビング〉のエジソンストリングライトを使い、外にはキャンプを始めた10年前から愛用中という〈コールマン〉286Aをセット。新旧のアイテムがうまく融合している点も実にお見事。

Style No. **10**

MEMBER

岩下裕人さん
寛子さん

LOCATION

@GO OUT CAMP vol.15

小さいながらも快適な、オールインワンのワンポールテント。

新しく登場したばかりの〈サバティカル〉のテント、モーニンググローリーに、リビング・キッチン・寝室とすべてを集約していた岩下さん夫婦のサイト。こちらは２〜４人の使用を想定したシェルターで、別売りのインナーを取り付けるとテントとしても使用可能に。大人３人程度が寝られる広さのため、夫婦で使うにはぴったりのサイズだとか。「あまりギアを多く持ち込まない」と話すように、前室部分にレイアウトしたリビングを見ると、日本ブランド〈スノーピーク〉のギアを中心に最低限のアイテムでスッキリとまとめていた。こうした定番ブランドのアイテムの中に、さり気なくレアなギアをプラスするサイト作りは、キャンプ初心者でも参考にできそう。

SITE SPEC

■シェルター：サバティカル／モーニンググローリー　■チェア：スノーピーク／ローチェア30　■テーブル:アウトプットライフ／ウッドロールトップテーブル　■ランタン：コールマン／ 286A、スノーピーク／ノクターン、ベアボーンスリビング／エジソンストリングライト　■クーラーボックス：イエティ／タンドラ　■焚き火台：コールマン／ファイヤーディスク　■ジャグ：スタンレー／ウォータージャグ　■バーナー：スノーピーク／ヤエンストーブ ナギ

2

1

1.〈スノーピーク〉のローチェア30と〈アウトプットライフ〉のテーブルがぴったり収まるリビング。防寒で持参した〈トヨトミ〉のレインボーストーブは、〈スノーピーク〉と初コラボした際のカラーでブラックだ。　**2.**メインポールのほか、3本のサブポールで室内空間を最大限に広げている。大型フロントパネルのため出入りもスムーズ。

6

5

4

3

3.お馴染み『コーナン』の3段ウッドラックに細々したアイテムを整理整頓。〈ソー〉のコンテナ、バスケットとそのまま配置しても絵になる収納アイテム選びも秀逸。　**4.**〈スノーピーク〉のヤエンストーブ ナギは、強い火力と風防が付きこれひとつでキャンプ中の調理がまかなえる。素材はステンレスとアルミなのでサビに強いのもポイント。　**5.**〈コールマン〉のファイアーボウルは、円盤状のデザインがユニークな焚き火台。脚を広げるだけで設営が完了し、灰の片付けや掃除が簡単なので撤収もラク。　**6.**モーニンググローリーの別売りインナー。前面のドアはメッシュにでき、後ろにも出入り口が付く構造なのも使い勝手よし。

定番ギアを個性派カスタム。

テント、タープともに〈ヒルバーグ〉の同系色のギアを使い、スタイリッシュにまとめられたサイト。一方でリビングスペースはウッド素材のギアで構築していることで、全体に柔らかい印象となっていた。その中でも特に注目したいのは、テーブルとチェアをカスタムしているガレージブランド〈グッドフォーナッシング〉のギアだ。〈カーミットチェア〉にはバックパック型ティッシュケースとゴミ箱を、〈ホリデーインザマウンテン〉のアナルコテーブルには特注で製作してもらったというテーブルクロスを装着。テントサイト内の生活感を軽減させつつ、使い勝手を大幅にアップさせている。定番アイテムに機能性とオリジナリティーを加えるギアセレクトはぜひ見習いたいところだ。

〈カーミトチェア〉の座面はマイスターシートに張り替え、左は〈グッドフォーナッシング〉のバックパック型ギアでカスタム。背もたれ側はゴミ箱、アームレスト側はティッシュケース。

金色の真鍮タンクがレトロ感を漂わせるランタンとヒーターは〈ヴェイパラックス〉。

2

1

4

3

1.バーナーは、OD缶とガソリン両方を使える〈ソト〉のストームブレイカーを愛用。3.5kwと十分な火力を持ちながら、重量はバーナー部とノズル部を合わせても500g以下と軽い。　**2.**キッチンエリアはスツールやテーブルをラック代わりに使用。手前から〈バリスティクス〉のSBSキットにスケートデッキを付けたスツール、〈ネイタルデザイン〉のEIスツールチェア、〈ホリデーインザマウンテン〉のアナルコテーブル。　**3.**アナルコテーブルはリビングのメインテーブルにも使用する。テーブルクロスは〈グッドフォーナッシング〉に製作を依頼した特注品。ヨットの帆に使われる頑丈で防水性の高いX-パックを生地に用いており、テーブルを汚れから守ってくれる。　**4.**長い前室と広い居住スペースを持つ〈ヒルバーグ〉のサイボ。こちらは旧モデルだが、現行モデルではベンチレーションが追加されている。

Style No. **11**

MEMBER

ハヤブサさん

LOCATION

@BOCH a camp by camper

SITE SPEC

■テント：ヒルバーグ／サイボ　■タープ：ヒルバーグ／タープ 10XP　■テーブル：ホリデーインザマウンテン／アナルコテーブル　■チェア:カーミットチェア　■ランタン：ヴェイパラックス／ M320　■クーラーボックス：イエティ／ローディ　■バーナー：ソト／ストームブレイカー　■ストーブ：ヴェイパラックス／ボウルファイヤー R510

レクタ型のタープは角ではなく、辺の中央を4ヵ所持ち上げて設営していたハヤブサさん。こうすることで天井の圧迫感が減り有効面積が増える。また暑い時期は風通りがよくなるのでタープ下が過ごしやすくなる点も参考になる。

　Photo／Taizo Shukuri　Text／Mitsuto Matsunaga

必要最低限とも言うべきギアのみで構成された塚原さんのサイトは、まさにシンプル・イズ・ベスト。このシンプルさゆえに幕男のシルエットの美しさが際立ち、さらにはミリタリーを基調としたギアの男臭さも引き立っている。

Style No. **12**

MEMBER

塚原 学さん

LOCATION

@本栖レークサイドキャンプ場

SITE SPEC

■タープ：TheArth／幕男　■テーブル：軍モノ／USアーミー メディカルテーブル、バリスティクス／SBSキット　■チェア：カーミットチェア　■クーラーボックス：イエティ／ヴィンテージ　■コット：ヘリノックス／タクティカルコット　■バーナー：ソト／ST-310 ブラック

1.キャンパー御用達とも言うべき〈イエティ〉のクーラーボックスは、ヴィンテージを購入したというオールドモデル。保冷力は劣るが、容量に関しては現行品に勝る。そしてバケツ型のフォルムが使いやすいクーラーバッグは〈シアトルスポーツ〉のアイテム。　**2.**ミリタリー好きの塚原さんとあって、こちらは野戦病院用のベッドテーブル。天板の角度が変えられるという利便性の高さは、さすが軍モノ。　**3.**収納時のコンパクトさと組み立てやすさに定評のある〈ヘリノックス〉のタクティカルコット。ブラウンの枕は〈バッキー〉のプロダクトだが、そば殻入り。小さいながら快適だそう。　**4.**こちらが〈TheArth〉の幕男。シェードが描く緩やかな曲線が目を引き、広さも十分。ソロキャンなら、より贅沢気分を味わえる。　**5.**カモフラ柄の着せ替えジャケットをまとったカーミットチェア。ジャケットは〈バリスティクス〉と〈ナチュラルマウンテンモンキーズ〉によるコラボレーションモデルだ。

2

1

4

3

5

愛用者も多いだろう〈バリスティクス〉のSBSキット。お好みのデッキを取り付けられる人気のプロダクトだが、生みの親とも言うべき塚原さんは、小さめのデッキをセット。

美しくも男らしい、サイトの佇まい。

キャンパーには説明不要の〈バリスティクス〉。このブランドの代表であり、デザイナーを務める塚原さんが選んだタープが〈TheArth〉による幕男だ。幕男の魅力は、そのシルエット。緩やかにくびれる曲線が目を引くが、美しさの理由が素材の妙だ。主たる素材のポリエステルにはストレッチ性が備えられ、設営時のバランスが少々崩れたとしても持ち前の美しさをキープできる。さらにはタープに欠かせない遮光性と撥水性はもちろんのこと、ありがたいのが難燃コーティング。つまりは燃えづらい加工が施され、タープ下での焚き火もOKだ。ちなみに幕男は豊富なカラバリをそろえるが、ストレートな男臭さを狙うなら、塚原さんと同様の“ちゃいろ”をおすすめしたい。

高コスパ＆一点物の注目ギアセレクト。

TC素材を使用した風合いと、A型クロスフレームで作られるルックスがレトロな印象の〈テンマクデザイン〉のペポをはじめ、インテリアもクラシカルな印象のギアで構成。リビングはデザイン性とコスパの高い〈ハイランダー〉と〈クイックキャンプ〉でセットした。焚き火に使うローチェアは大阪発の家具ブランド〈トラックファニチャー〉のアウトドアラインのもの。職人が一点ずつ製作しているだけあり、丁寧な作りで座り心地のいいところがお気に入り。また、焚き火用ハンガーや〈スノーピーク〉シェルフコンテナ用の天板はメルカリで入手。メルカリは個人作家によるハンドメイド品が出品されており、ユニークかつ実用性の高いギアを見つけられるそう。

〈ハイランダー〉のウッドロールテーブとウッドフレームリラックスチェア、〈クイックキャンプ〉の2人掛けフォールディングベンチでリビングを構成。テーブル上のランタンは3年ほど使っている〈デイツ〉No.10。

大阪の家具メーカー〈トラックファニチャー〉のローチェアは、背もたれの上部にある傾斜がポイントで「星を見るのにちょうどいい角度」だそう。焚き火ハンガーは、ハンドメイド品をメルカリで見つけて購入。

2

1

4

3

1.A型のクロスフレームがレトロな佇まいの〈テンマクデザイン〉ペポ。跳ね上げることでキャノピー風になる前面パネルやメッシュ付きで前面開放できる背面出入り口を採用。**2.**〈キャンピグ〉の薪キャリーバッグは、「火とアウトドアの専門店」がコンセプトの『イルビフ』で購入。四方をペグで固定すれば自立式の薪置きに早変わり。　**3.**〈イエティ〉のローディを載せている台は、〈ユニフレーム〉のフィールドラック。奥に見えるオリーブ色のコンテナは、キャンパーに人気の〈トラスコ〉トランクカーゴ。蓋の裏側に載せてテーブルのように使える天板は、メルカリで入手した。　**4.**〈スノーピーク〉シェルフコンテナ用の天板もメルカリでゲットしたもの。防水仕様で丈夫な作りの〈イエティ〉のポーチは海外で購入。

Style No. **13**

MEMBER

tam.campさん
カシワダ ユウタさん
アオキ クミコさん

LOCATION

@ふもとっぱら

SITE SPEC

■テント：テンマクデザイン／ペポ　■タープ：TheArth／幕男　■チェア：ハイランダー／ウッドフレームリラックスチェア、クイックキャンプ／２人掛けフォールディングベンチ、トラックファニチャー／ローチェア　■焚き火台：モノラル／ワイヤーフレーム　■ランタン：セントラルディビジョン／レイルロードランタン、デイツ／No.10　■クーラーボックス：イエティ／ローディ　■ジャグ：コールマン／ヴィンテージ　■バーナー：イワタニ／カセットフーマーベラス

ポールにかけての傾斜が美しい張り姿のタープは、ガレージブランド〈TheArth〉の人気モデル、幕男。4層構造の生地を使用しており、防水性、遮光性に優れているのはもちろん、裏面には難燃コーティングが施され焚き火にも◎。

Vタープは日中、湖に向かってフルオープン。全体をモノトーンでまとめたことでテーブル天板の素材感が際立つが、キッチン系の小物が目立たないのでさらにスッキリとした印象に。上手なカゴ使いはぜひとも真似したい。

Style No. **14**

MEMBER

oliverさん

LOCATION

@西湖自由キャンプ場

色数を抑えたアイテム選びと、収納力のあるカゴを上手に活用。

テント、シェルター、タープのいいとこ取りをした〈ヘリノックス〉の新作、Vタープ。自立式でフロントドアは大きなオーニングになり、内部は最大高が240cmとちょっとしたコテージ並みの大きさがある。フロントドアを湖面側にしているので眺望は抜群だ。バックにはメッシュパネルも付いているので暑い時期も快適に過ごせる。室内を見ると、セレクトされているアイテムはいわゆるアウトドア的なものが少なく、キャンプというよりリゾートピクニックといった趣。ウエアや羽織もの用のハンガーラックにスピーカーを取り付けるテクニックもユニークだ。またキッチン系アイテムはカゴを多用して目立たぬよう収納、灯りも雰囲気を重視したランタンがセレクトされている。

SITE SPEC

■シェルター：ヘリノックス／Tac. Vタープ　■テーブル：キュービーング／オーダーメイド　■チェア：カーミットチェア　■ランタン：デイツ／レイルロードランタン、コールマン／ルミエールランタン　■クーラーボックス：イエティ／ローディ　■コット：バイヤーオブメイン／メインヘリテージコット　■ジャグ：リマ／ステンレスジャグ ムート10

3

2

1

6

5

4

1.Vタープは8月末に届いたばかりという新品。遮光性が高く居住空間が広い点が特に気に入っているポイントだ。　**2.**メインテーブルは〈キュービーイング〉というブランドのもので、天板はウォールナット。家具屋が手がけるアウトドア用ギアで、木材の種類やサイズ自分好みにオーダーできる。職人が依頼者のキャンプスタイルや好みを聞いて細かい部分まで調整してくれるそう。〈カーミットチェア〉の座面も友人がカスタムしてくれたもの。　**3.**〈ミニマルワークス〉のラック。両サイドに〈ボーズ〉のスピーカーを差し込んで使っていた。　**4.**ラックは友人が3年程前に作ってくれたオリジナル。ヴィンテージのトランクはのみの市にて約5000円で購入したもので、カトラリーやキッチン用の道具入れに。バスケットは〈プエブコ〉。　**5.**ヤカンとバーナーは〈シラム〉のアルミ製ピクニックケトルとウォーマー。上フタと注ぎ口がスクリューキャップ式のため、淹れたお茶がこぼれないようになっている。　**6.**棚もテーブル同様〈キュービーング〉でオーダー。こちらはアフリカンマホガニーという素材でチェアとして使えるほど強度がある。色味が深いので雰囲気がいい。

Photo／Taizo Shukuri　Text／Mihoko Odamaki

フライシート兼タープにインナーテントを吊り下げるユニークな構造の〈オガワ〉トリアングロ。5人就寝可能なテントは、前面に通気性を持つTC素材、背面は防水性に優れたポリエステルを使用。

技ありの組み合わせで異なるブランドが見事に共演。

老舗アウトドアブランドの〈オガワ〉が2018年にリリースしたトリアングロは、正統派テントに定評のある同ブランドの中ではユニークなA型テント。全長約5.3mのフライシートがタープを兼ねており、組み立てることでインナーテントの前に大きなリビングが出現するという構造だ。また、テントのグランドシートは取り外しできる仕様で、シェルターとしても利用できるという、一幕でさまざまなアレンジが楽しめるモデルである。こちらのサイトでは、インナーテントの反対側に〈ユニフレーム〉レボタープ用のオプションであるレボフラップをセット。「この組み合わせでサイトを作りたかった」という見た目にも見事な技ありカスタムは、テントサイトづくりの新たな可能性を見せてくれている。

Style No. **15**

MEMBER

しげさん
ゆみさん
あずさん
わくさん

LOCATION

@Tiny Garden Festival 2019

SITE SPEC

■テント：オガワ／トリアングロ　■タープ：ユニフレーム／レボフラップ　■テーブル：テントファクトリー／スチールワークス FDテーブル、キャプテンスタッグ／FD パークテーブル　■チェア：オンウェー／ローチェア　■ランタン：コールマン／ノーススター、コールマン／ルミエールランタン、スノーピーク／ほおずきS　■クーラーボックス：コールマン／スチールベルトクーラー　■バーナー：ソト／ ST-310

トリアングロの特徴はインナーテントの前方を広いリビングとして利用できること。〈キャプテンスタッグ〉のFDパークテーブルや〈オンウェー〉のローチェアでロースタイルにまとめた。

〈キャプテンスタッグ〉の木製3段ムーブラックにバーナーや燃料などを整理整頓。〈マーキュリー〉のキャンバスバケツは、内側がビニール加工されており薪入れやゴミ箱にピッタリ。

ステンレス製クーラーボックスの代表格とも言える〈コールマン〉のスチールベルトクーラー。3cm厚の断熱材を使用し高い保冷力を誇る。2Lのペットボトルが縦に置ける収容力も魅力。

〈オガワ〉トリアングロのタープ部分に〈ユニフレーム〉レボフラップ（手前メッシュの幕）をセットすることでプライベート空間を演出し、新たなストレージスペースも確保。サイズ感、カラーともに見事なハマリ具合の良カスタムである。

 Photo／Taizo Shukuri Text／Mitsuto Matsunaga

Style No. 16

メカニカルなポールフォールディング技術で、さらなるコンパクト化が進むキャンプファニチャーにおける今季の大注目テーブル、〈モンベル〉の新作をいち早く使用。特許出願中の独自機構「ハイローザシステム」で、3段階の高さ調節が可能なスグレモノだ。レトロデザインのチェアとの相性も◎。

カッティングエッジなギア選びで シンプルスタイルに洗練性を。

シェルジャケットやダウンジャケットなどで有名なイギリスのハイスペックアウトドアブランド〈ラブ〉のタープに、今や絶版モデルとなった『石井スポーツ』オリジナルのスタードームテントと、キャンプマニアなら必ず「それどこの!?」と食い付きたくなるようなレア幕を使用するキノシター家。そのほかのギア類にも、ガレージブランドものや有名メーカーの新作、さらにはみずから生地張り替えを施したD.I.Y.ものを組み込むなど、卓越した選球眼が光るアイテム構成は必見。余分な装飾や奇をてらったグッズに頼らず、軽量性とコンパクト性を重視しつつデザイン性も考慮したシンプル＆ミニマルなセッティングで、そこはかとないキャンプリテラシーの高さを感じさせるスタイルに。

MEMBER

キノシタさん
愛佳さん
詠野ちゃん
琴理ちゃん

LOCATION

@山伏オートキャンプ場

SITE SPEC

■テント：石井スポーツ／スタードーム ■タープ：ラブ／シルタープ 3 ■テーブル：モンベル／マルチフォールディング テーブル、モンロ×ヘリノックス／テーブルオー ■チェア：ネイタルデザイン／アウト&アバウトチェア、カーミットチェア、ロゴス／エアライトバッグインベンチ ■ランタン：ゴールゼロ／ライトハウス マイクロ ■クーラーボックス：イエティ／タンドラ ■バーナー：ジェットボイル／ミニモ、ソト／ ST-310

Photo ／ Taizo Shukuri　Text ／ Satoshi Yamamoto

座面を取り外せば、骨組みを活用したラックに早変わり。

クーラーボックスとコンテナテーブルの台には、布地を外した汎用品ベンチの骨組みを流用した。〈イエティ〉のような重さのあるハードクーラーも問題なく乗る丈夫さがあり、高さも取り出すのにちょうどいいとか。

1.〈ゴールゼロ〉LEDランタンに、気鋭のガレージブランド〈ソルワークス〉の専用設計シェード、ソルオルを装着。アンテナの高さを物語る洒落たアレンジ。　2.〈無印良品〉のメッシュバスケットに、専用設計で仕立てられた〈ウィンディーアンドレイニー〉のX-パックカバーを装着。　3.よく見る〈ロゴス〉のベンチも、〈ウィンディーアンドレイニー〉のファブリックで張り替えて個性化。同じく〈カーミットチェア〉も同ブランドファブリックで、モダンなスタイルへと刷新している。　4.リビングテーブルの上には、こちらも〈ウィンディーアンドレイニー〉の食器類がズラリ。〈ソト〉の名作シングルストーブST-310や、〈シートゥーサミット〉の耐熱シリコン製フォールディングポットとケトルなど、火器周りでもコンパクト性を重視したセレクトを実践。

必要最低限のギア構成ながら、その選択基準には一家言あり。特に一般のショップには並ばないタープとテントの存在感はひとしお。もちろん、ただ珍しいというだけではなく、キノシタさんを納得させる機能性も備えている。

〈ウィンディーアンドレイニー〉×〈バリスティクス〉のティッシュ／キッチンペーパーケースは、新作というカーボン柄。

5.テント内は、親子で寝られる大判サイズの封筒型シュラフのみ。これなら家族4人でも窮屈さを感じなそう。　6.友人から譲り受けたという『石井スポーツ』オリジナルの山岳用テント、スタードーム。簡単設営のシングルウォールながらも、ゴアテックスファブリクス仕様で結露知らず。ゴアテックスは可燃性が高く、現在ではテントに使用することができないため、今となっては極めて貴重なひと張り。　7.〈ラブ〉のシルタープ3は個人輸入で購入。シルナイロン採用で、その大きさに反して超軽量なウルトラライトウェイトモデル。

ユニークなテントと水平張りのタープで開放感溢れるサイト。

ナチュラルカラーで統一されたユウさんファミリーのテントサイト。ひときわ目を引くのが珍しい〈ファウデ〉の大型テントだ。上から見るとテトラポットのようなフォルムをしているのが特徴で、２方向に２人用のインナーテントが延び、中央から手前は大きなリビングスペースになっている。また現行のバダヴィにはてっぺんの通気口がないので、さらにレアなモデルである。リビングには同生地で揃えたチェアを並べ、テーブルには収納ボックスとしても使っている軍モノのアルミコンテナを活用。細々したものはカゴやボックスを上手に使い、カトラリーも一ヵ所にまとめられすっきりとした状態をキープできるような工夫が熟れ感を醸す。随所に置かれたヴィンテージものにも要注目。

Style No. **17**

MEMBER

ユウさん
ユキさん
ジョーくん

LOCATION

@Tiny Garden Festival 2019

SITE SPEC

■テント:ファウデ／バダヴィ4P　■タープ:タトンカ／ 2TC　■チェア：バイヤーオブメイン／パンジーンフォールディングスツール、キャプテンスタッグ／アルミ背付きベンチ、カーミットチェア　■焚き火台：ピコグリル／ 760　■クーラーボックス：イエティ／ローディー　■コット：バイヤーオブメイン／アカディアンコット　■バーナー：プリムス／ IP-2290

GOOD IDEA
このテクいただき！

焚き火の必須ギアはサクラの木で取っ手をカスタム。

焚き火に欠かせない火バサミとファイヤーブラスター。定番ギアも持ち手を変えるだけで存在感が増し、雰囲気もグッとアップする。さり気なく置かれた薪割り用の切り株もおしゃれ。ヴィンテージランタンやボックスとも好相性。

〈カーミットチェア〉と〈キャプテンスタッグ〉のベンチの座面は〈バリスティクス〉の布に張り替え、〈バイヤーオブメイン〉のスツールをセット。〈ツァーゲス〉のアルミコンテナをテーブル代わりに活用していた。

〈無印良品〉のステンレスワイヤーバスケットに食器をまとめ、キッチンツールケースを付けてカトラリーを収納した。中央のキッチンテーブルは〈シエルブルー〉のもので、天板の色を指定している特注品。

〈タトンカ〉のレクタタープを水平張りにしているので開放感抜群。デッドスペースが少なく、タープ下のレイアウトもしやすい。天井が高くなるので焚き火台を近くに置いておけるのもメリット。好天の日はぜひ真似したいレイアウト。

1.〈ピコグリル〉の焚き火台の下には〈スノーピーク〉の焚き火台ベースプレートを合わせて安定感を向上。焚き火スタンドは友人が作ってくれたフジヤマというモデル。　**2.**〈スタンレー〉の真空グロウラーの隣、オレンジラベルの〈マルキル〉と雷鳥のマークがポイントの〈グランテトラ〉の水筒が玄人感を高めていた。　**3.**個人輸入で購入した〈ファウデ〉のバダヴィはポリコットン素材の4人用テント。2人用のインナーが2つ付き、中央はお座敷スタイルのリビングとして使える仕様。天井に通気口があるタイプは珍しい。**4.**〈プリムス〉のIP-2290にコールマンのキャンプオーブンをオン。**5.**室内は大きめのラグを2枚敷き〈バイヤーオブメイン〉のテーブルをセット。まだ小さいジョーくんもごろごろできる広さが嬉しい。大きなテントなので扇風機を入れ通気性をアップ。木製フレームのコットも〈バイヤーオブメイン〉で、ヴィンテージもののアカディアン。

Style No. 18

MEMBER

sanzoさん

LOCATION

@本栖レークサイドキャンプ場

SITE SPEC

■テント：コールマン／オリンピック ミニ ■タープ：ノルディスク／カーリ ダイアモンド ■テーブル：シエルブルー／オリジナル、バリスティクス／SBSキット ■チェア：ヴィンテージ ■焚き火台：サンゾクマウンテン／マウンコス ■ランタン：デイツ／レイルロードランタン、スケーターズランタン ■クーラーボックス：コールマン／ヴィンテージ ■ジャグ：イエティ／ランブラー

木製フレームのコットは〈バイヤーオブメイン〉のアカディアンコット。すでに廃番となっており玉数も少ないレアなアイテム。同色で合わせたブランケットは〈ホースブランケットリサーチ〉。

ヴィンテージものをさり気なく活用。すべてがこなれた大人のサイト。

いまや焚き火アイテムのスタンダードとなっている〈サンゾクマウンテン〉の生みの親、sanzoさんのある日の休日スタイル。ギアは現行モデルにヴィンテージものを多めにミックス。ただし飾りではなく実用性があるという点がポイント。この上なくシンプルなデザインのクーラーボックスは〈コールマン〉のヴィンテージ。1950年代製造の初期モデルで、今でも1泊くらいなら問題なく使えるという。テントも同じく〈コールマン〉のものだが、このオリンピックリーズは'80年代に製造されていたコットンモデル。鮮やかなブルー地とルーフ部に張り出すアーチ状の棒が特徴となっているが、気になる通気性は〈マキタ〉のバッテリー式扇風機でカバーするなどの工夫も見どころ。

左にあるスケボーテーブルは〈バリスティクス〉のSBSキット。自分好みの板に取り付けできることから人気が高い。ストライプ柄のチェアはアメリカの〈ジップディー〉社のヴィンテージ品を『モーニングスター』で購入。

天井の白とさわやかな水色のコントラストが目を引く〈コールマン〉のヴィンテージテント、オリンピック。知り合いから譲り受けたそうで、小さめサイズはなかなかの巡り会えないレアもの。コットン生地なので風合いも抜群。

テントと同じコットンの風合いで統一したタープ。このカーリシリーズは菱形と四角形の2種類展開で、ダイヤモンドは開放感があり風通りがよく暑い時期に最適。サイズは小さめだが美しい曲線デザインも人気が高い理由だ。

4

3

2

1

1.〈ノルディスク〉のカーリ ダイヤモンドは素材にポリコットンを採用。　**2.**〈マキタ〉の扇風機。サイズは大きめだが風力が強く床置きできるデザイン。　**3.**テーブルは〈シエルブルー〉で作ってもらったオリジナル。脚がほかよりも長く、釘穴を埋めているため表面の手触りがつるっとしている。ヴィンテージバスケットは『モーニングスター』で購入した〈カロナンバスケット〉。年代で絵柄が異なり、おそらく'70年代のもの。調味料などを収納しているボックスは〈カタパルト〉のストレージボックス。長モノが収納できるサイズ。　**4.**焚き火台、焚き火テーブル、ランタンハンガーは〈サンゾクマウンテン〉。ヴィンテージのランタンは〈デイツ〉のレイルロードランタン。

山岳用テントが好きというHana_87.coさんさん。イエローとブルーのコントラストがカッコいい。タープ奥に取り付けているランタンカバーは〈ソルワークス〉のソルオルL。LEDの光が柔らかくなるのがお気に入りだ。

山岳テントを主役に イエローカラーで集結。

Style No. **19**

MEMBER

hana_87.coさん

LOCATION

@ふもとっぱら

ヴィンテージのユニークなフォルムの山岳テントが目を引くサイト。〈シエラデザイン〉はイエローとブルーの個性的な配色が魅力で、前後にある前室が使い勝手がよく1年を通して使いまわしが効く。20年以上前のモデルで『イーベイ』で購入したそう。〈ザ・ノース・フェイス〉のエクスペディション25は'90年代の後期モデルでフライシートにブランドロゴがプリントされているのが特徴的。どちらも加水分解があまり進んでおらず程度のいい状態だ。タープも既に廃盤となった〈MRS〉のジングで合わせ、サイト全体のカラーのトーンを統一。ハイスペックモデル揃いながら見た目にもこだわる、バランスのいいテントサイトの完成させていた。

SITE SPEC

■シェルター：シエラデザイン／ティロス、ザ・ノース・フェイス／エクスペディション25　■タープ：MSR／ジング　■テーブル：シエルブルー、ノーブランド　■チェア：カーミットチェア／ネイタルデザイン別注、アウトプットライフ×ペレグリンデザインファクトリー×ネイタルデザイン／フォールディングソファ　■ランタン：スノーピーク／GL-150A　■クーラーボックス:イエティ／タンドラ　■コット:ヘリノックス／タクティカルコット　■バーナー：イワタニ／焼き上手さんα、PIC-1、MSR／ウィンドバーナー

GOOD ITEM
このギア使える！

コットが長イスに！ 背もたれ付きの 座イスが便利。

〈ヘリノックス〉のタクティカルコットの上に〈エーライト〉のミドーレストをオン。通常は地面やレジャーシートの上などフラットな状態の上で使うものだが、コットの上に乗せて使うと背もたれができ超快適に。目からウロコのナイスアイテム。

3

2

1

1.シルバーのコンテナは〈アルテック〉のアルミコンテナで、隣のカゴは〈バリカンズ〉。市場カゴにファブリックで作られた大型ポケットがついた収納力抜群のアイテム。〈イエティ〉のクーラーを乗せている台とカゴの台は〈アディロンダック〉のマイクロチェアを活用。　**2.**メインテーブルは〈シエルブルー〉。チェアは〈ネイタルデザイン〉別注モデルの〈カーミットチェア〉とベンチで統一。　**3.**ダストボックスは楽天で購入し、ステッカーは飾りとして貼ったままにしている。アメリカンな雰囲気がいい感じ。

6

5

4

8

7

4.黄色のボトルは〈ドリンクタンクス〉のグロウラー。〈イエティ〉のランブラーステンレスジャグは朝入れた氷が夜まで溶けないので、氷入れとして重宝している。右は〈MSR〉のウインドバーナー。ジェットボイルのように1Lポット一体型のモデル。　**5.**スマートなラックは、愛知県にあるファニチャーメーカー、〈東谷〉のオリジナルブランド〈ルームエッセンス〉のマガジンラック。脚はアイアンで天板はファブリック。上段は〈イワタニ〉の焼き上手さんα、下段にはティッシュなどの小物を置いている。　**6.**スケボー型のテーブルの脚は〈バリスティクス〉のSBSキット。天板はネットでクルージング用のロングボードを購入。ランタンは〈スノーピーク〉のGL150-Aに〈マウンテンリサーチ〉のホヤをセットし、レザーのガス缶カバーをセット。　**7.**〈ザ・ノース・フェイス〉のエクスペディション25。　**8.**〈シエラデザイン〉のティロス。どちらもヴィンテージの山岳テント。

D.I.Y. ギアを中心に居心地を高めたファミリーキャンプ。

大自然の中、家族４人で水入らずの時間を過ごしていたこちらのサイトは、子どももリラックスしやすいロースタイルで構築。使用しているギアは、木材でD.I.Y. したものが多く、使いやすい絶妙な高さに仕上げている。100円ショップやホームセンターで買えるものを中心に、難しい加工がないD.I.Y. なので、参考にさせてもらいたい。そして、チェアやタープをアースカラーで合わせナチュラルな雰囲気を加速している点もお見事。サイトのテイストを左右するテントは、廃盤になった今も高い人気をキープする〈ザ・ノース・フェイス〉のトレイルヘッド６。あえてリビングスペースのアーシーなカラーとリンクさせずにホワイトを選んだことで、小綺麗な印象が加味された。

Style No. **20**

MEMBER

タカシさん
ヒロコさん
タケルくん
アタルくん

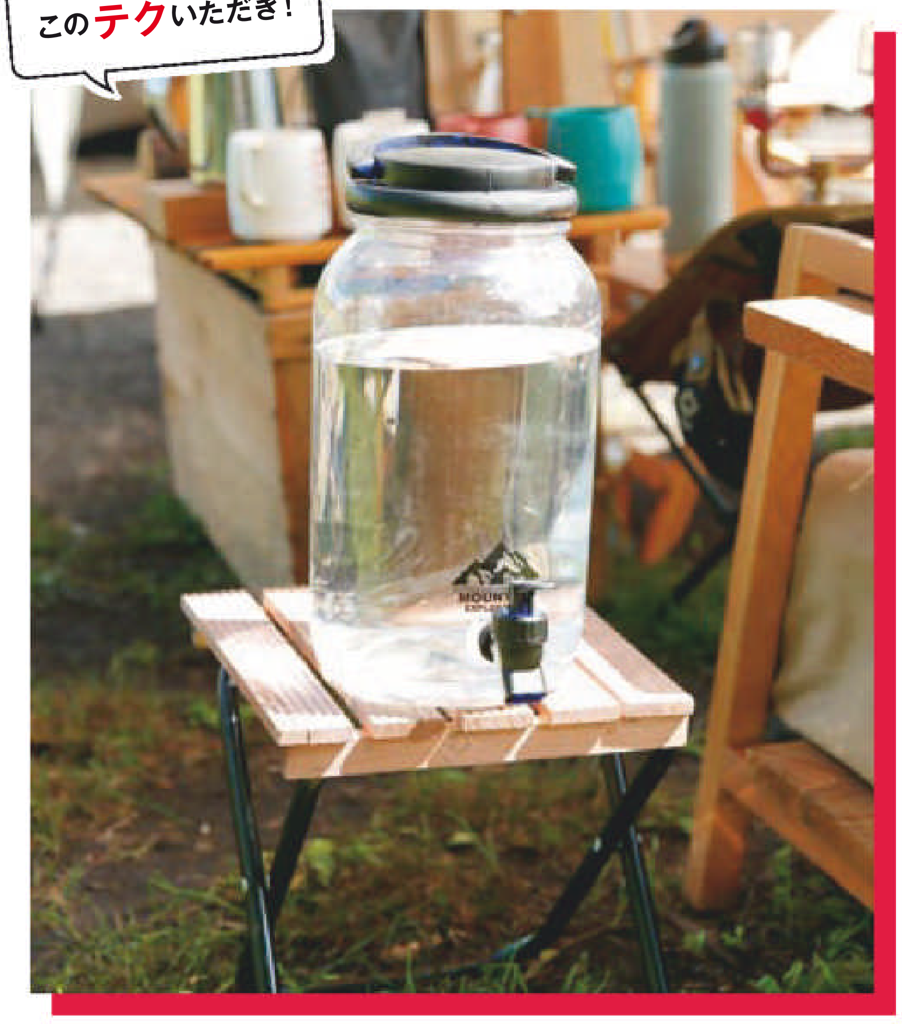
LOCATION

@Tiny Garden Festival 2019

SITE SPEC

■テント：ザ・ノース・フェイス／トレイルヘッド６　■タープ：DD ハンモック／ DD タープ　■テーブル：自作　■チェア：ヘリノックス／タクティカルチェアミニ、カーミットチェア　■ランタン：ジェントス　■クーラーボックス：コールマン　■コット：クオルツ／ 2way ライトビームコット　■バーナー：コベア／キューブ、ソト／ ST-310 ブラック

GOOD IDEA
このテクいただき！



製作費を抑えて手軽に作れるD.I.Y.のアイデア。

ジャグ置きに使っているスタンドは、スツールの座面を外して同じサイズに切り出したすのこを組み合わせたもの。ともに安価で手に入るアイテムだが、簡単に完成する秀逸なD.I.Y.のアイデア。ちなみにジャグは、100円均一で購入。

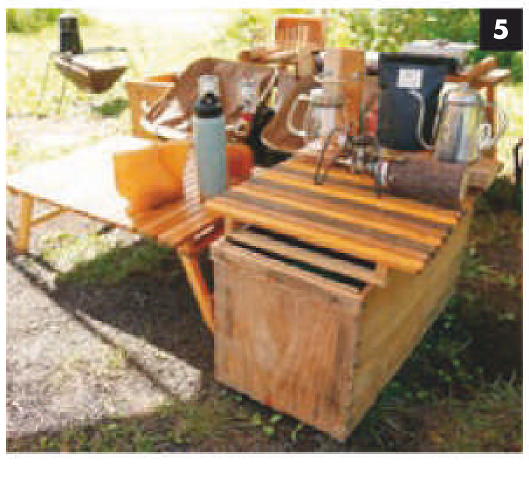
2

1

1.〈カーミットチェア〉と〈ヘリノックス〉タクティカルチェア ミニは、ベージュのカラーリングで合わせたことで、テーブルなどに使っているウッドと統一感が生まれ、温かみのある印象に。　**2.**キッチンラックは自作によるもの。ロースタイルに合わせてホームセンター買った2×4材と角材を加工し作り上げたそうだ。左に置いてあるボックスは、りんご箱を利用した。

〈DDハンモック〉DDタープはブラウンをチョイスして、全体のアーシーなカラーを決定づける。テントだけクリーンなホワイトにしたことで強調されるが、全体とうまく馴染むんでいる。

6


5

4

3

3.焚き火台にセットした五徳は、タカシさんが務める会社の人が、鉄の棒でD.I.Y.してくれたもの。既製品と見間違うほどハイクオリティ!　**4.**〈ソト〉のバーナー、レギュレーターストーブは無骨なブラックを愛用。生活感が出てしまうカセットボンベには、〈ナルゲン〉のソフトボトルケースを装着。リアルな幹と年輪がデザインされ、サイトの雰囲気を壊さない。ぜひ真似したい小技だ。　**5.**りんご箱の上に置いた、すのこもハンドメイド品。3色を使って塗装し、ウッドの雰囲気にメリハリをプラス。　**6.**〈ザ・ノース・フェイス〉のトレイルヘッド6は、ブランド初となるロッジ型テント。独特なシルエットと、充実した収納スペースで使い勝手のいい幕だ。さわやかなホワイトがアースカラーでまとめたほかのギアとマッチする。

Style No. **21**

MEMBER

Lets Play Outsideさん

LOCATION

@ならここの里

SITE SPEC

■テント：ルーフテント　■チェア：カーミットチェア　■ランタン：コールマン／カナダ製テーブルランタン、コールマン／200A　■クーラーボックス：コールマン　■ジャグ：コールマン　■バーナー：ソト／ST-310

青と白のストライプが目を引くルーフトップテントは、'50～'60年代に〈フォルクスワーゲン〉がオプションで発売していたアイテムを『フラット4』がリプロダクト。大人ひとりが寝るのにちょうどいい広さがあり、3シーズンでの使用がベストだそう。ラダーバーも付属。

Photo／Taizo Shukuri　Text／Takehiro Hakusui

乗っているのは1961年製の〈フォルクスワーゲン〉タイプ2で、車内はキャンピングカーメーカー〈ウェストウァリア〉社が内装を手がけたキャンピングカー仕様。タイプ2にこのような仕様を取り入れ正規販売し始めたのが '60年代とのことで、実は歴史ある1台だ。

当時モノに囚われすぎない、ほどよくレトロなサイト作り。

クルマひとつでキャンプを楽しむLets Play Outsideさんの相棒、通称ワーゲンバスは'61年式。そのため、テントサイトに並べられたキャンプギアも同じ '60年代製を中心に構成しているそう。また、ルーフトップについたテントは、当時純正オプションとして〈フォルクスワーゲン〉が出していたもののリプロダクト品。できるだけ年代を揃えているためか、使っているアイテムがすべてヴィンテージモノに見えてくるほど。しかしテーブルは知人の手作りだったりカゴを置く台は誰もがよく知る家具メーカーのものだったり、知識のない人でも身近に手に入るギアを多数所有。こうしたレトロな雰囲気に溶け込むアイテムチョイスも、このサイトの見どころのひとつだ。

車内はほぼ当時のままのデザイン。対面シート真ん中にあるテーブルを下げるとフルフラットのベッドになり、大人2人が寝られる。ベンチの座面は当時モノのリプロダクト生地を購入し張り替え済み。

〈コールマン〉の '50年代ダイヤロゴのヴィンテージクーラーボックス。人気が高いチョコパフェカラーだ。年代ものだが真夏以外なら問題なく使用でき、時には小物入れとして活用するときもあるそう。

バックドアを開けると両脇に棚が付き、キッチン用品など小物を収納。上の楕円型ランプは「PLEASE PASS（お先にどうぞ）」サインが現れる、'50～ '60年代に売られていたもののリプロダクト品だ。

3

2

1

6

5

4

1.〈フォルクスワーゲン〉の正規マスコットとして'60～ '70年代に登場したバブルヘッド。こちらはミスバブルヘッドの取り外し可能なランタンホルダーで、ハワイアンデザイン。引っ掛けているランタンは'62年製〈コールマン〉の200A。　**2.**車内のさまざまな場所に収納スペースが設けられているのもキャンピングカー仕様の特徴。スライドドアの横には鏡付きのクローゼットが付き、アウターなどの収納に大活躍。　**3.**ピクニックバスケットで有名なアメリカのメーカー、〈バーリントン〉社のバスケットはオークションにて入手した。下の台は、なんと『ニトリ』で買ったものだそう。　**4.** アイアンの脚を使った'50年代ヴィンテージのアメリカ製アイロン台は、キッチンコーナーに。上に載せたカラフルなタッパーは、義理の母から譲り受けた日本ブランド〈タッパーウエア〉のもので、調味料やコーヒー豆を入れて活用中。　**5.**友人からもらったドッグコットは、座面のストライプ柄がサイトの雰囲気とマッチ。　**6.**知人から譲ってもらったテーブルは、家具職人の手作りだというキャンプ用テーブル。天板や脚がバラバラになり、持ち運び時はコンパクトに。テーブルの上にはカナダ製〈コールマン〉のテーブルランタンをセットした。

 Photo／Taizo Shukuri　Text／GO OUT

Style No. **22**

2

1

1.オリーブオイル缶をジャグとして利用。水受けはブリキのバケツ。シルバーの質感が、ブラックを多く選んでいるギアの中でアクセントに。　2.奥京都発のガレージブランド〈ソマビト〉の焚き火サイドスタンド。周りにフックが付いていたり、天板の周囲がハンガーになっていたりするため、さまざまな小物を吊り下げて収納できるので便利。大きさも高さも使い勝手が◎。

デザイン性に優れた ギアが豊富なサイト。

遠くからでも、ひと際目を引く〈ヒルバーグ〉のテントと、〈ヘルスポート〉のシェルターがサイトの目印。大型モデルのバランゲルドームは、天井に通気口が備わり、薪ストーブの煙突を通すことができるため冬こそ高いポテンシャルを発揮する。さとちんさんは、冷え込む季節になると広い室内にテントを張りカンガルースタイルとして使うこともあるそうだ。このほか、注目したいのは持っているギアのチョイス。〈アイアンクラフト〉や〈サンゾクマウンテン〉など、注目の国内ガレージブランドをあらゆるところに採用。それは、日頃からアンテナを広く張っている証拠だと言えよう。その情報源となるのはインスタグラムで、そこからアイテムを見つけ出し、ネットで購入しているそうだ。

MEMBER

さとちんさん
まいちゃん

LOCATION

@ふもとっぱら

SITE SPEC

■テント：ヒルバーグ／ケロン４　■シェルター：ヘルスポート／バランゲルドーム　■テーブル：ハイランダー／ウッドロールトップテーブル、アレキサンダーリーチャン×ペレグリンデザインファクトリー／ SK8 テーブル　■イス：カーミットチェア、ダルトン／ウッデンビーチチェア　■焚き火台：サンゾクマウンテン／マウンコル　■ランタン：ヴェイパラックス／ M320、ペトロマックス／ HK350　■クーラーボックス：イエティ／ローディ、タンドラ　■ジャグ：マルキジオ／オイルドラム　■バーナー：ソト／ST-310

Photo／Taizo Shukuri　Text／Showgo Komatsu

チェアはともに〈ダルトン〉のウッデンビーチチェアで、どちらも生地を〈バリスティクス〉のカモ柄に張り替えている。もともとナチュラルな雰囲気だったが、一気に男前な印象に変化。

〈ソト〉のシングルバーナーと組み合わせているのは、無骨な焚き火ギアを中心に展開するブランド〈アイアンクラフト〉のカワセミ。安定しにくいシングルバーナーも安心して使える。

ログキャリーとスタンドは〈ハングアウト〉のもの。ハンガーは〈シーマウンテンギア〉。名前が書かれているプレートの下にフックが付属していて、それぞれの道具を引っ掛けられる。

ウッド製のトレイは〈アシモクラフト〉の蚊取り線香ホルダーで、それを横浜発の気鋭ガレージブランド〈サンゾクマウンテン〉のハンガー、ショックに引っ掛けているところに注目。

ノルウェー生まれのキャンプギアブランド〈ヘルスポート〉から、独特なフォルムに個性を感じるバランゲルドームをシェルターにチョイス。遮光性が高く、涼しく過ごすことができる。

〈ヒルバーグ〉を代表するトンネル型テント、ケロン4。高い耐久性と耐風性、ゆとりのある前室で快適な居住性。設営も簡単なので、ひとりで組み立て可能な構造も魅力のひとつ。

〈ヘルスポート〉のバランゲルドームの中と、屋外の2ヵ所にリビングスペースを設置。広めに配置しているので、開放的なサイトが完成した。デザイン性の高いギアが多く揃っているので、どうレイアウトしてもサマになりそうだ。

楕円形のテーブルは〈ペレグリンデザインファクトリー〉と〈アレキサンダーリーチャン〉のコラボレーションプロダクト、SK8テーブルで既に完売済み。奥は〈バリスティクス〉のSBSキットに、〈パウエル〉の板を装着。

焚き火好きのさとちんさんは、道具に強くこだわりアリ。焚き火台は、直径約45cmもある大型の〈サンゾクマウンテン〉のマウンコル。それを囲んでいる風防はアメリカのブランドのものを『アマゾン』で購入した。

〈ロータスベル〉のエアビームバッドは、骨組みがエアフレーム構造になっており、ペグで固定後に空気を入れて膨らませる。ただし全体が八角形で1角につき3本のガイラインがあり、ペグ打ちが24本と多いのがひと苦労。

Style No.

23

MEMBER

muuu_campさん

LOCATION

@西湖自由キャンプ場

SITE SPEC

■テント：ロータスベル／エアビームバッド ■タープ：ノルディスク／カーリ20 ■テーブル：キュービーイング／オリジナル ■チェア：アウトプットライフ／エアーグランプソファ、キャンプオンパレード／フォールディングチェア ■焚き火台：ソロストーブ ■ランタン：Dr. ホッピー／ウッドランタン ■クーラーボックス：アイスランドクーラー ■バーナー：コベア／キューブ

直径が3mもある大型テントは、センターポールがないため室内がさらに広く感じる。そしてこの大空間を独り占めという贅沢さ。〈ミニマルワークス〉のインディアンハンガーに着替えやアウターを掛け、自宅さながらの空間に。

モノトーンでまとめられたリビング。〈ノルディスク〉のタープは5×4.2mという大きめのモデルを贅沢に使用。素材はテントと同じポリコットンで統一感を持たせた。センターを少し高めに張っているので見た目の美しさはもちろん、座ったときの視界も開けた印象に。

大迫力で居住性抜群。個性的なテントで作るグランピングスタイル。

玉ねぎ型のグランピングテントで有名な〈ロータスベル〉。エアビームバッドは従来モデルとは異なり、パーソナルユースサイズでフレームにエアーを入れ立ち上げるのが特徴。同ブランドのラインナップ内では小さめのサイズで既に完売済みだが、ダブルベッドが余裕で入るほどの広さを持つ。ポリコットン素材で雰囲気も申し分ない。またテントの隣には重厚感のあるファニチャーを揃えたリビングスペースをレイアウト。〈アウトプットライフ〉のエアーソファーに〈キュービーング〉のオーダーテーブル、〈キャンプオンパレード〉のチェア、テーブル上のユニークなオイルランタン、すべて素材をウォールナットで統一した。ここまでひとりで徹底的に作り上げるこだわりは脱帽のひとこと。

センターにスタンドが付いたテーブルは〈キュービーイング〉でオーダーしたもの。天板はウォールナット。ランタン型のオイルランプは〈Dr.ホッピー〉のウッドランタン。これもウォールナット素材を使用。

シングルチェアは〈キャンプオンパレード〉のフォールディングチェア。素材もウォールナットなのが◎。丸いサイドテーブルは〈ヘリノックス〉のテーブルオー 。こちらの天板もウォールナットで揃えた。

キッチンカウンターは、〈イケア〉のタオルスタンド2つをベースにスノコ状にした1×4材を天板にしている。もとはシルバーだったものをブラックにリメイクしたそう。コの字型、S字型のレイアウトも可能。

GOOD ITEM このギア使える！

デザインも機能面も優秀な蚊取り線香ホルダー

〈モット〉のウッドスモーカーは、スピーカーのようなビジュアルがユニーク。本体底に蚊取り線香のストックが入り、パーツはすべて磁石で接続。蚊取り線香がズレることがなく、フタが外れて中身が飛び出る心配もない。

2

3

1

1.ドイツ〈ボーメックス〉社のオイルトーチは地面に直接刺して使用する。専用のオイルを注いで点火するだけで幻想的な雰囲気に。　**2.**〈ダッチウエストジャパン〉のログフープ。未使用時は薄く畳めるので、大きさの割に持ち運び時はコンパクトな点が優秀。　**3.**屋内外問わず使える〈アウトプットライフ〉のエアーグランプソファ。クッションがエアー仕様で弾力性抜群で、3シーターは大人が余裕で寝転べるサイズ。ボーダーのクッションとムートンは〈イケア〉で購入。

 Photo／Taizo Shukuri　Text／Mihoko Odamaki

ミリタリーテイストの構成で自然に溶け込んだサイトを作り上げていた4人は、よく一緒にキャンプに行くという地元の友人同士。ギアを持ち寄っても統一感が保たれているのは、好みが近い仲間とのグルキャンだからこそ。

配色の妙で作り出される、程よいミリタリー感

Style No. **24**

今も昔も軍モノに魅了される男子諸君は多いはず。こちらのサイトではそんな男の嗜好を叶えつつ、ゴリゴリしすぎない配色で適度なミリタリーテイストを取り入れていた。ロースタイルのリビングは、ミリタリーカラーの座面に張り替えられた〈カーミットチェア〉を使いつつ、〈イナウト〉のテーブルがセレクトされており、ウッドのナチュラルなカラーが柔らかな印象をアップ。また、定番のタンではなく、チャコールで統一された〈イエティ〉のクーラーボックスとバケツ、〈アルテック〉のアルミコンテナなども、ミリタリーテイストに溶け込む絶妙なカラー。オリーブ系やカモフラだけの直球スタイルが苦手な人にも参考にしやすいサイトコーディネートだ。

MEMBER

せい兄さん
go_mad_053さん
garlic_is_goodさん
Daisuke424さん

LOCATION

@不動の滝自然広場オートキャンプ場

SITE SPEC

■テント：ヒルバーグ／ナマッジ 3GT ミルスペック、ヒルバーグ／スタイカ ■シェルター：テンマクデザイン／サーカス TC ■テーブル：イナウト／スタンダードテーブル ■チェア：カーミットチェア ■焚き火台：サンゾクマウンテン／マウンコル ■ランタン：ジェントス／エクスプローラー、コールマン／ルミエール ■クーラーボックス：イエティ／タンドラ 60 ■バーナー：プリムス／ IP-2290

2

1

1. 〈イエティ〉で揃えたクーラーボックス2つと薪入れとして使うバケツは、どちらもチャコールカラー。手前のアルミコンテナはドイツの〈アルテック〉製で、ヨーロッパの航空貨物輸送にも採用されているほど丈夫。
2. 〈イナウト〉のスタンダードテーブルとカーミットチェアでロースタイル&ウッディにまとめたリビング。

ユニークなデザインのアイアン製の焚き火ギアで人気を集める〈サンゾクマウンテン〉はギアの名前も個性的。それぞれ、焚き火台はマウンコル、ハンガーはショック、薪バサミはザリ、火吹き棒は鏂（きす）。

GOOD IDEA
このテクいただき！

手持ちのCB缶を高見えさせるお手軽カスタム。

一見〈MSR〉のCB缶?と思いきや、こちらは灯油など燃料用ボトルの上下をカットしリメイクしたカバー。サイズもピッタリで手軽にCB缶をグレードアップできる。缶の上部には〈スノーピーク〉のフォールディングトーチを装着した。

5

4

3

8

7

6

3.電子機器の充電や冬場にホットカーペットを使う際に重宝しているポータブル電源の〈スアオキ〉。USBが4つ、AC、DC、シガーソケット、車のバッテリーに対応するジャンプスタート端子の5つの出力方式を搭載。　**4.**〈マーシャル〉のブルートゥーススピーカーは、1.2kgと軽量ながら音質のよさと丸一日使用できる充電の持ちが◎。アンプメーカーらしく高音や低音の調整も可能。　**5.**廃盤品の〈プリムス〉IP-2290は、ダッチオーブンも載せられる五徳の大きさとコンパクトなサイズ感でいまだファンが多いツインバーナー。五徳までの高さが約35cmでロースタイルにも使いやすい。　**6.**カヌーでの旅を想定してデザインされた〈ヒルバーグ〉のスタイカ。シルナイロン使用で乾きが早く、撤収時に急いで畳んでもコンパクトに収納できる。　**7.**ナチュラル系のサイト作りに選ばれることの多い〈テンマクデザイン〉のサーカスTCだが、サンドカラーの色合いはミリタリーテイストにもマッチ。　**8.**〈ヒルバーグ〉のナマッジ3GTは、入手するのが難しいミルスペック。こちらはテントコレクターの香港の知人に譲ってもらったものだそう。

Style No. **25**

MEMBER

Fumioさん
Rieさん

LOCATION

@ふもとっぱら

SITE SPEC

■テント：コディアックキャンバス／フレックスボウVX　■タープ：DDハンモック／DDタープ　■テーブル：ハイランダー／ロールトップテーブル、キャンプマニアプロダクツ／アイアングリル　■チェア：ヘリノックス／タクティカルチェア、フェストキャンプ／エッチングチェア　■焚き火台：コールマン　■ランタン：ベアボーンズリビング／エジソンペンダントライト、オプティマス／300CP、デイツ／ハリケーンランタン　■クーラーボックス：オレゴニアンキャンパー／ソフトクーラー、コールマン×アーバンリサーチ　■ジャグ：マルキジオ／オイルドラム　■バーナー：スノーピーク／ホームアンドキャンプ、ソト／ST-301

黒の〈ヘリノックス〉のチェアはLサイズ。座面サイズが大きいので座り心地がよく、よりリラックスできる。ベージュはスタンダードモデル。奥に見えるラックは〈キャプテンスタッグ〉の木製3段ラック。キッチンカウンターの拡張として活用中だ。

シンプルなギアとアイデアで作る使い勝手のいい機動性の高いサイト。

レクタタープをまるでロッジの屋根のように張っていたFumioさんのサイト。〈DDハンモック〉のタープはハンモックのフライとして活用できるよう設計され、タープ中央にロープ用のループが付属するほか、縁のループも多めと個性的。そんな自由度の高さを活かして作った屋根はシンプルなカラーでも目を引く。またファニチャーは撤収時にコンパクトになるものが多く、キャンプ慣れしている様子が伺える。散らかりがちなアウター類の保管場所はテントの天井収納部分とプチプラアイテムを活用し脱ぎ着しやすい仕様にしているのも優秀。キッチンカウンターやテーブルなども、アイテムそのものよりも使い方や工夫といったアイデアが光るサイトだ。

1.テントの室内には天井収納用のネットが取り付けでき、以前はアウター置き場として活用していた。今はトラベル用の折り畳みハンガーと付属のデイジーチェーンを使い、アウターを吊るしている。　2.テントの室内は広々とした空間、半分は子どもが遊べるようにリビングスペースとして確保、もう半分にマットを敷いて子どもと大人2人が寝られるように寝具をセッティング。3.〈コディアックキャンバス〉のフレックスボウは6人用の幕。生地は撥水加工が施されたコットンダック100%で両サイドの三角メッシュ窓がポイント。

〈DDハンモック〉のDDタープは4×4mのレクタ型。素材はナイロンを採用し非常に軽量なモデル。急にキャンプが決まった時でもサッと持ち出せ、ロープループの数が多く、張り方がいろいろ工夫できるのため便利。

4.薪ラックはメルカリで購入した個人作家ものをチョイス。組み立て式で持ち運び時は薄くなるので重宝するそう。　5.焚き火スペースは〈フェストキャンプ〉のエッチングチェアに〈キャンプマニアプロダクツ〉のアイアングリル、〈コールマン〉の焚き火台をセット。ランタンは〈デイツ〉のハリケーンランタン。6.迷彩柄のアイテムは〈オレゴニアンキャンパー〉のクーラートートバッグ。2Lのペットボトルが立てたまま6本入る収納力を持ち、ソフトクーラーには珍しいロールトップ仕様。7.ソフトクーラーを置いているテーブルは折り畳み式の小さなテーブルの上に〈キャプテンスタッグ〉のCSクラシックスフリーボードを乗せている。手前は定番の〈トラスコ〉のトランクボックス。　8.タープ下の灯りは〈ベアボーンズリビング〉のエジソンペンダントライトを3つ繋げてレイアウト。USBバッテリーは〈ザ・ノース・フェイス〉のサコッシュにしまいスマートに見える工夫も。　9.キッチンカウンターはホームセンターで買った天板に〈DOD〉のテキーラレッグを流用。ギンガムチェックライナーのピクニックバスケットがサイト全体のいいアクセントになっている。

シェルターの内側には遮光性の高いコーティングが施されているので、強い日差しの日も快適性を損なわない。最大使用人数4人の床面積600×450cmのおかげで、余裕のあるレイアウトが実現した。背面も跳ね上げることが可能。

Style No.
26

MEMBER

blue_anotherskyさん

LOCATION

@本栖レークサイドキャンプ場

SITE SPEC

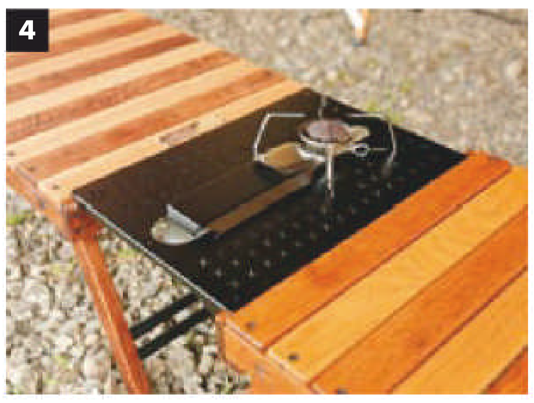
■シェルター：ヘリノックス／Tac. フィールド6.0　■テーブル：TheArth／しま次郎、ブラックデザイン／ハレテーブル　■チェア：カーミットチェア／ネイタルデザイン別注　■クーラーボックス：イエティ／ローディ　■コット：ヘリノックス／タクティカルコット　■バーナー：イワタニ／タフマル、ソト／ST-310

3

2

1

5

4


1.愛用しているクーラーボックスは、圧倒的な堅牢性と保冷力を誇り、一生モノと呼び声が高い〈イエティ〉のローディ。〈ロゴス〉のチェア、オットマンと寸法がほぼ同じなので、キレイに配置できた。　**2.**テーブルは台湾発のブランド〈ブラックデザイン〉で、両端にオプションパーツを取り付けて拡張。チェアは、ともに〈カーミットチェア〉。右は、〈オールドマウンテン〉の生地に張り替え、肘掛けを〈オールドマウンテン〉×〈デバイスワークス〉のヒジワルでカスタム。左が〈ネイタルデザイン〉別注のもの。**3.**〈TheArth〉のしま次郎の中央にぴったり収まる〈アナキャン〉のテーブル、メタヘキテを組み合わせた。　**4.**テーブルを繋ぐのは、〈ブラックデザイン〉のBXプレート。〈ソト〉のシングルバーナーST-310をセットできる仕様。　**5.**コットのそばに置いた〈スノーピーク〉のシェルフコンテナには、人気キャンパーのミヤザキさんが開発した話題のテーブルミヤパレットをセットしているところに注目。

キッチンラックはインスタグラムでakatonbo516さんにオーダーして作ってもらった〈h&0〉。バーナーを置くスペースやゴミ箱やタオルを引っ掛けられるハンガー付きで使い勝手抜群。

ギアのカスタムで快適な空間を演出。

年間60回もキャンプ場へ足を運ぶというblue_anotherskyさんのサイトは、〈ヘリノックス〉のタクティカルサプライから登場した大型シェルター、Tac.フィールド6.0が主役。大人4人でも快適に過ごすことができる空間がレイアウトにゆとりを持たせ、すっきりとした印象を与える。そして、シェルターのコヨーテ×ブラックのカラーリングとリンクさせたウッドとアイアンのギアが、まとまり感を演出。そのギアセレクトの目に立つ点は色味だけではない。それは、ほとんどのアイテムをカスタマイズして利便性を高めているところ。テーブルの拡張パーツ使いやオーダーメイドのキッチンラックなど、自身が使いやすい最適なサイズにアップデートすることで、ストレスなく心地よく過ごせる。

Photo／Taizo Shukuri　Text／Showgo Komatsu

Style No.
27

MEMBER

野々村さん
ツーさん
けっけさん
しんごさん

LOCATION

@ふもとっぱら

SITE SPEC

■テント：ローベンス／クロンダイク、テンマクデザイン／サーカスTCビッグ、ケシュア／ツーセカンズ ■タープ：TheArth／幕男 ■テーブル：ハイランダー／ウッドロールトップテーブル、ゼロデイ／ドーナツテーブル ■チェア：ヘリノックス／コンフォートチェアXL、コールマン／レイチェア、クオルツ／コンパットライト スマートチェアオーバーサイズ ■焚き火台：ペトロマックス／ファイヤーボウル ■ランタン：コールマン／パワーハウス、コールマン／デュアルフューエル ■クーラーボックス：コールマン／スチールベルト ■バーナー：ユニフレーム

GOOD ITEM
このギア使える！

中央に七輪を設置してみんなで囲める
洗練されたミニマルなデザインのテーブル。

北欧家具からインスパイアされたという〈ゼロデイ〉のドーナツテーブルは『風街道具店』で入手。ローチェアにぴったりの高さがちょうどいい。中央には〈本間製鉄所〉の七福輪S260をセットしている。

ユニークな形や機能を持つ 3つのテントが注目の的に。

中学校の同級生で集まったサイトには、個性豊かなテントが3張りも揃う。〈テンマクデザイン〉の名作、サーカスTCを大型化したサーカスTCビッグは、今年9月に発売されたばかりの新作だ。これまでの機能に加えて、5カ所のベンチレーションが搭載され、上部が解放できるように。〈ケシュア〉のツーセカンズはモデル名のとおり、一瞬で設営できるポップアップテントだが防水性や防風性に優れた頑丈な造りで長く愛用できそう。〈ローベンス〉のクロンダイクはベル型の形状がアイキャッチ。独自のポリコットン素材を採用し通気性がよく、その質感がレトロな印象に導いてくれる。しかし、昔なじみの仲間が集まれば、個性のあるテントでも休む暇なく盛り上がる夜を迎えそう。

1.〈テンマクデザイン〉の人気作、サーカスTCがサイズアップして、最大収容人数8から10人と大型にアップデート。手頃な価格と設営のしやすさ、使い勝手のよさ、というのが人気の理由。 **2.**スイスを拠点にする〈ローベンス〉のクロンダイクはベル型のシルエットが特徴。天井の上部に煙突用の穴が備わっているので、薪ストーブ入れて使うことができて、冬キャンプにも最適だ。 **3.**右下は、ホームセンター〈ナフコ〉のオリジナルコンテナ、ティアモス600。この日はひとりがチェアを忘れてしまったが、堅牢な造りのためイスの代わりとして使用していた。小物類を置いているアイアンテーブルは〈フリーダ〉のもの。 **4.**〈ハイランダー〉のロールトップテーブルを、それぞれが持参したチェアで囲む。

2

1

4

3

団らんの場所に張ったタープは〈TheArth〉の幕男。湾曲したカーブが特徴的で、その美しさが人気の理由のひとつ。フランスのブランド〈ケシュア〉のテント、ツーセカンズも張ってある。

毎年大人気の〈ネイバーフッド〉と〈ヘリノックス〉のコラボアイテム。Eシェルターは2018年発売モデルで、大人10人も収容可能で、天井高2.4mと居住性も抜群。収納バッグがバックパック型なのはさすがのひと言。

Style No.
28

MEMBER

jyun01さん
くうにんさん
りくにゃんちゃん

LOCATION

@GO OUT CAMP vol.15

SITE SPEC

■テント：ヘイムプラネット／バックドア　■シェルター：ヘリノックス×ネイバーフッド／Eシェルター　■チェア：ヘリノックス／コンフォートチェア、チェアホーム ミニ　■テーブル：ユニフレーム／焚き火テーブル、プリムス／アジャスタブルテーブル、ヘリノックス／タクティカルテーブル　■ランタン：ジェントス／エクスプローラ　■クーラーボックス：スタンレー／クーラーボックス 28.3L　■焚き火台：スノーピーク／焚き火台 M　■ジャグ：スタンレー／ウォータージャグ　■バーナー：スノーピーク／ギガプレートバーナー　■コット：ヘリノックス／コットワン

2

3

1

1.寝室は〈ヘイムプラネット〉のバックドア。大人5人ほどが寝られる空間ながら、5分程度で設営が完了するというから驚き。　**2.**シェルターのポール上部は十字型になっているので、天井部分を広げ有効面積が大きくなる役割を果たす。またカラビナやS字フックを使い、吊り下げ収納に活用できるのも◎。　**3.**〈ユニフレーム〉のフィールドラックは専用の天板をセットして使い勝手を向上。ジャグ台には折り畳み式のプラスチック製スツールを使い、〈スノーピーク〉の折り畳み可能なバケツを使用。車の積載にも優しい。

5

4

4.リビングは小さめのテーブルを多用し、状況によってレイアウトチェンジできるように。〈ユニフレーム〉の焚き火テーブルの上には〈スノーピーク〉のシングルバーナーを置き、座ったまま調理可能。　**5.**シェルフコンテナの収納に〈h&o〉の専用ラックを『トランクゼロ』で予約して購入。車から降ろしたまま下段も有効に使える便利なアイテム。

設営のラクさも居住性の高さも叶える、ギア選びのお手本。

キャンプ中の居住性の高さを追求した結果、大型幕を選ぶ人は多い。しかし大きくなれば設営にひと苦労するのは必至。逆に設営のラクさを選ぶとコンパクトなサイズに。こんな悩みで頭を抱えた人は多いはず。そんな時に参考にしたいのがこちらのサイト。まだ小さい子どもがいるため居住空間は広く防寒対策まで叶うリビングが欲しいところだが、設営に手間は掛けられない。そこでjyun01さんファミリーが選んだのは、下部にガイドテープが付き設営の簡単な大型2ポールシェルターと、エアフレーム構造のテント。3人家族ながらキッチンがすっぽり収まるリビングを手に入れ、寝室も広々とした5人用モデル。見事どちらも妥協せず、短時間で完成する快適空間を手にした。

2家族のテントを脇に固めて配置することで、リビングやキッチンスペースにゆとりを持たせていた。天気がいい日なら、タープ下にキッチンを作らず外に出すのも、広々としたリビングをレイアウトするポイントだと言える。

Style No.

29

MEMBER

イカちゃんファミリー
タテちゃんファミリー

LOCATION

@Tiny Garden Festival 2019

SITE SPEC

■テント：ノルディスク／ユドゥン 5.5、レイサ 6　■タープ：ヒルバーグ／タープ 20　■テーブル:テントファクトリー／グランドテーブル　■チェア：ヘリノックス×ビッグアグネス／チェアワン、スノーピーク／テイクチェア　■ランタン：スノーピーク　■クーラーボックス：コールマン　■バーナー：コールマン、ユニフレーム／ツインバーナー

差し色が映える ウッディなギア構成。

人数の多いグルキャンでは、ギアが増えがちでサイト内が雑然としてしまうのが困りもの。だが、2家族でのキャンプを楽しんでいたこちらのサイトは、背景に馴染むウッド製のギアを多く使い、圧迫感を感じさせない空間となっていた。そんな木製家具の中でも、キッチンラックやテーブルはイカちゃんファミリーさんのお父さんが製作したもので、使いやすい高さと大きさが考えられたサイズ感が秀逸。さらにキッチン横の収納にはワイン箱やリンゴ箱を利用し、よりナチュラルさをアップ。一方で目を引くのは、〈ヒルバーグ〉のタープ20を筆頭に、差し色として赤いギアが用いられていること。アースカラー中心のサイトに引き締まった印象を生み出していた。

2

1

1.工務店に努めるイカちゃんファミリーさんのお父さんが、廃材で製作したキッチンラック。サイドの台を外し高い台のみでも使えるように設計されている。バラバラに分割できるので収納もコンパクト。　**2.**リビングは、〈テントファクトリー〉のグランドテーブルと、〈ヘリノックス〉と〈ビッグアグネス〉限定コラボモデルのチェアワンを並べ、ロースタイルでくつろいでいる。

4

3

7

6

5

3.テントは北欧ブランドの雄〈ノルディスク〉のレイサ6（左）とユドゥン5.5（右）。トンネルテントの代表格レイサ6は、人数に合わせインナーテントを着脱できる構造で、シェルターとしても使用できる。2ポールテントのユドゥン5.5はTC素材を使用しており結露への強さが魅力。　**4.**CB缶仕様で手軽に本格的な調理ができる〈ユニフレーム〉のツインバーナーは大人数のキャンプにも最適。重量は3.9kgで折り畳めばアタッシュケースのように持ち運べるボックス型になるため、キャンパーの使用率が高い。　**5.**こちらもイカちゃんファミリーさんのお父さんが製作したテーブル。天板として使っているのはホームセンターで1000円ほどで購入したOSB合板。　**6.**手軽に持ち運べる〈トイモック〉のハンモックは工具不要で組み立てられる。アウトドア気分をより盛り上げてくれること間違いなし。　**7.**コンテナとして使うボックスには、ワイン箱（上）とリンゴ箱を利用。自作のウッド製キッチンラックとも相性バッチリ。

 Photo／Taizo Shukuri　Text／Mitsuto Matsunaga

Style No. 30

MEMBER

anotherskyy373さん

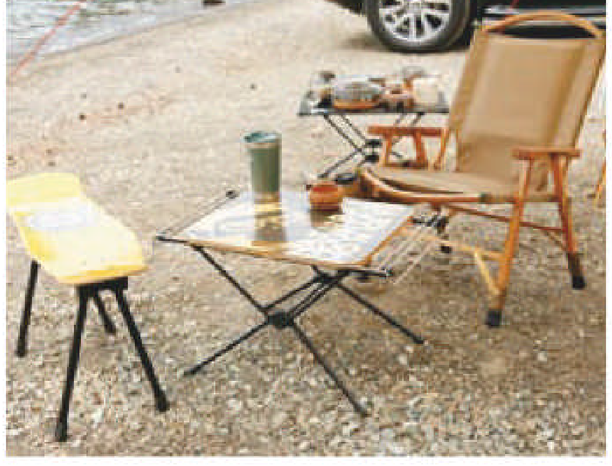
LOCATION

@本栖レークサイドキャンプ場

SITE SPEC

■テント：MSR ／ファストスタッシュ　■タープ：サンセットクライマックス／ゼロワン　■テーブル：ヘリノックス／タクティカルテーブル、38 エクスプローラ／ミヤパレット、カーミットチェア／カーミットテーブル　■チェア：カーミットチェア　■クーラーボックス：イエティ／ローディ　■コット：ヘリノックス／タクティカルコット　■ジャグ：イエティ／グローラー　■バーナー：ソト／ ST310 ブラック

2



1

1. 〈カーミットチェア〉は〈ナチュラルマウンテンモンキーズ〉×〈バリスティクス〉のマイスターシート「クラック柄」でカスタム。座面と背面が繋がったデザインで座り心地が格段にアップする。座面のすき間がなくなり背中が冷えない。　**2.** 〈ヘリノックス〉タクティカルテーブルの脚に装着したミヤパレットの天板は〈ナチュラルマウンテンモンキーズ〉のオリジナルプリント入り。スケボーのデッキには〈バリスティクス〉のSBSキットを。

ガレージブランドで個性と使い勝手をアップ。

SNSに投稿するキャンプシーンが人気を集めるanothersky373さんのテントサイト。〈ヘリノックス〉のタクティカルコットや〈MSR〉のファストスタッシュなど王道ブランドが並ぶなか、サイトからひと味違う雰囲気が醸し出されているのはガレージブランドのギアが多く取り入れられているからだろう。ロースタイルキャンプの定番である〈カーミットチェア〉は、自身のブランドである〈ナチュラルマウンテンモンキーズ〉が、〈バリスティクス〉とコラボし製作したマイスターシートでカスタム。また、焚き火まわりは無骨なスチール製ギアでファンが急増中の〈サンゾクマウンテン〉でまとめられ、オリジナリティと実用性が追求された仕上がりとなっている。

必要最低限とも言うべきギアのみで構成された塚原さんのサイトは、まさにシンプル・イズ・ベスト。このシンプルさゆえに幕男のシルエットの美しさが際立ち、さらにはミリタリーを基調としたギアの男臭さも引き立つ。

3

4

5

3.シンプルな構造で素早い設営・撤収が可能な〈MSR〉ファストスタッシュ。メッシュ素材が多用されたインナーテントは出入りのしやすい大型の開口部を搭載。フライはシェルターのように設置し野外との一体感を感じやすい。　**4.**スタイリッシュなサイトを演出してくれる〈サンセットクライマックス〉のタープ01（ゼロワン）は、白の幕体ながらUV遮蔽率99.8%という高い遮光性を誇る。耐水圧は9880mmでタフな環境でも問題なし。**5.**コットはオプションのコットレッグで高さを上げ、ベンチとしても使える。

8

7

6

6.〈カーミットチェア〉の後ろ足に装着されたエクステンションは、〈ナチュラルマウンテンモンキーズ〉×〈バリスティクス〉のノビタ。座面と背もたれの角度が起き上がり、より楽な着座姿勢に。　**7.**焚き火まわりのギアは〈サンゾクマウンテン〉で揃える。ケトルを吊り下げ直接火にかけることもできるショックは、カギ爪型のフックが特徴的なランタンハンガー。男前な三角形焚き火テーブルのデルタスは、シーズニングすればBBQグリルとしても使用できる。こちらは〈ナチュラルマウンテンモンキーズ〉のロゴを入れたオリジナルバージョン。　**8.**〈ヘリノックス〉テーブルワンソリッドトップにはキッチン周りのアイテムをまとめて配置。

Style No. **31**

ワーゲンバスで囲んだ隠れ家的テントサイト。

ヴィンテージ家具をメインに作ったリビング。クッションシートが付属する〈DOD〉、〈ゴーイングファニチャー〉、〈キャプテンスタッグ〉のベンチを持参し、それぞれ連れてきた愛犬も一緒に座ることができるように。

通称ワーゲンバスの愛称で知られる〈フォルクスワーゲン〉のタイプ2。〈ウェストファリア〉が内装を手掛けたキャンピングカー仕様の車体も多く、キャンパーなら一度は乗ってみたいクルマのひとつだろう。そんなワーゲンバスでキャンプを楽しんでいたこちらの3組は、各自持ち寄ったギアを中央に配置したリビングがメインスペース。その周囲を囲うようにクルマを配置したことで壁ができ周りの目を気にすることなくくつろげる。一方で、それぞれのクルマが適度に離れているため寝る際はそれぞれのプライベート空間が保たれる。このベストな配置はもちろんテントでも応用可能だ。グループキャンプで隠れ家的なテントサイトを作りたい人は参考にすべし。

MEMBER

ideeファミリー
諭吉ファミリー
8823ファミリー

LOCATION

@ならここの里

SITE SPEC

■テント：ラクレ／ A フレームテント ■タープ：オガワ／ユーティリティタープ ■テーブル：ハイランダー、カステルメルリーノ ■チェア：ゴーイングファニチャー、キャプテンスタッグ 、DOD ■クーラーボックス：ドメティック／ ACX35G、エルロン、オルカクーラー ■ジャグ：リトルブラウンジャグ ■バーナー：コベア／キューブ

LEFT

1

1.向かって左、'68年製のタイプ2はウェストファリアーが手掛けたキャンパー仕様。上には大人ひとりが寝られる広さのポップアップテントが付く。　**2.**スライドドアを開けると助手席後ろにキッチンのシンクが付いていたが、今は外してペグボードを設置。ボトルやランタンといったギアの収納場所として活用中。そのため、クルマの外に〈ハゴ〉のラックやクーラーボックスを出し、キッチンスペースを設けた。　**3.**後部座席のベンチを寝かせテーブルを下げるとベッドになり、大人2人が寝られるほどのスペースを確保できる。

3

2

CENTER

4.中央にあるのは'65年製のタイプ2。アーリーバスと呼ばれ運転席横のガラスが2枚、後部座席の扉が観音開きの仕様になっている。扉の内側が収納棚になっているのも非常に便利。　**5.**助手席の後ろにはシンクが付いていたが外し、空になったキッチンスペースは小物入れとして活用している。下段には冷蔵庫が付いているが、こちらは前オーナーが別で取り付けたものだそう。　**6.**座面にはデニム生地が使われているのも特徴的で、ほかの同タイプバスの座席に比べて座ると生地が柔らかく、ベンチを倒してベッドにすると寝心地バツグンだ。

4

リビング上のタープは〈オガワ〉から出ていたユーティリティタープ。約30年前のもので、当時日本のテントメーカーが出していた中でも最大級の大きさを誇るモデルだそう。

6

5

RIGHT

7

9

8

7.右に置かれていたのは'69年式のバスで、こちらもポップアップテントが付く。レイトバスと呼ばれるモデルの特徴は、運転席横のガラスが1枚、後部座席の扉がスライド式になっている点だ。　**8.**もちろん車内はキャンパー仕様で、ベンチを倒せばベッドとして使える。シートの下にも収納が付き、細々したものを入れるのに便利。　**9.**外には〈ハゴ〉のラックやヴィンテージのアイロン台でキッチンを配置。〈ティリー〉のランタンや〈バーラー〉のクッカーストーブなど古い火器類に混ざり、〈コベア〉のキューブも愛用中。

Style No. 32

MEMBER

hiiiiiiiro.campさん
いずみさん
ひろとさん
りほさん

LOCATION

@GO OUT CAMP vol.15

話題のシェルターをいち早く投入。色味を合わせたシンプルレイアウト。

巨大なグリーンのシェルターが遠くからでも目立つこちらのサイト。このモデルは『エイアンドエフ』プロデュースの新しいアウトドアブランド、〈サバティカル〉のスカイパイロットというモデルだ。それだけでも気になるギアだが、このグリーンは限定発売のレアな色。もう手に入らないことから、かなりレアな幕をゲットしたと言える。リビングを作っていたタープや〈ヒルバーグ〉のテントとの色味もぴったりマッチし、サイト全体に統一感が生まれていた。また、それぞれ汎用性の高いアイテムを持ち込んでいたため、必要最低限のギアだけでサイトが完成。多すぎず少なすぎないアイテム数で作ったシンプルなレイアウトも、このシェルターをひと際目立たせている。

GOOD ITEM このギア使える！

**スライド式の2WAY！
便利すぎる天板。**

〈ボンファイヤーゴーサイド〉というインスタブランドの天板は、2枚の板を閉じれば蓋として、開けばテーブルに変身する。しかもスライド式なので、天板の上に荷物を置いたまま使える便利なアイテム。

SITE SPEC

■テント：ニーモ・イクイップメント／ギャラクシーストーム 3P、ヒルバーグ／サイタリス　■タープ：TheArth／幕男　■シェルター：サバティカル／スカイパイロット　■チェア：カーミットチェア、ヘリノックス／コンフォートチェア、チェアツーホーム、DOD／グッドラックソファ　■テーブル：ノラズテーブル　■ランタン：ティリー／972XB　■クーラーボックス：コールマン／スチールベルトクーラー、イエティ／ホッパーフリップ　■ジャグ：ミンテージ、マルキジオ／オイルドラム　■バーナー：イワタニ／焼き上手さんα

Photo／Taizo Shukuri　Text／GO OUT

〈サバティカル〉のスカイパイロットは、TC素材のワンポールシェルター。4本のサブポールで前後左右に広がるような設計だ。前後の壁を跳ね上げたりフルに締め切ったり、4種類の設営方法ができる構造。

シェルター内は寒さ対策のためカンガルースタイルに。〈ニーモ・イクイップメント〉の3人用テントを寝室用に設営し、〈スノーピーク〉と〈トヨトミ〉がコラボしたレインボーストーブを使えば、万全の状態が完成。

幕男の下は4人のリビング。〈バイヤーオブメイン〉のメインヘリテージコットを置き、いつでも昼寝ができるようくつろぎスペースも完備。リビング近くに焚き火スペースを配置し、どこにいても会話ができるレイアウト。

1. 〈ペトロマックス〉の焚き火台、アタゴ。三層構造で用途によって高さが調整できる。また、換気口が付くので焚き火台ながら火力調整ができるという超便利なモデル。これがあればダッヂオーブン料理も楽しくなりそう。　**2.** 〈イエティ〉のロードアウトシリーズから発売されたばかりのゴーボックス。バケツの愛用者も多いが、この収納ボックスも人気沸騰の予感。蓋裏に収納ポケットが付き、センターの仕切り、小分けボックスが付属する。　**3.**以前は自宅で使っていたというアイアンラックをキャンプで活用。ネットオークションに出品していた個人作家から購入したもの。下段は薪置きに使うアイデアも真似したい。　**4.**前室の広さが使い勝手のいいサイタリス。見た目以上に寝室が広い4人用モデル。

ロールトップ式のノラズテーブルに合わせ、ロースタイルでまとめたリビング。左奥に見えるベンチは〈DOD〉のグッドラックソファで、クッションカバーが付属するため座り心地も抜群。

重厚なムードが漂うオールブラックのツーリングキャンプ。

Style No. **33**

MEMBER
宮澤武士さん

LOCATION
@ふもとっぱら

SITE SPEC
■テント：ムラコ／ブラックピーク　■タープ:ムラコ／ヘキサタープ　■テーブル:ノーブランド　■チェア：ヘリノックス×バートン　■焚き火台:ヨカ／クッキングファイヤーピット

ソロキャンプを堪能していた宮澤さん。ギアからコーディネートまで、すべてをブラックで統一しているのは、愛車の〈ハーレーダビッドソン〉に合わせている。その佇まいは大自然の中でよく目立ち、ほかのキャンパーからの視線を集めていた。存在感抜群のドーム型テントは、〈ムラコ〉のブラックピーク。40Dの軽量高強度なリップストップナイロンを採用し見た目を裏切らないタフな仕様。この大きさで重量は約3.5kg軽量モデルなので、ツーリングキャンプにもぴったりだ。このテントと合わせて購入したのが、同じく〈ムラコ〉のヘキサタープ。こちらもウルトラライトで、折り畳むと手のひらに収まるほどコンパクトになるんだとか。

GOOD IDEA
このテクいただき！

引っ掛けて干せるツーリングネット。

バイクの荷台に装着する荷造り用のツーリングネットをタープポールに引っ掛けておき、洗い物などをフックで干している。積載に使うアイテムでさえも有効活用するアイデア術は、荷物を最小限に抑えるツーリングキャンプで役に立つ。

2

1

1.〈ヨカ〉のクッキングファイヤーピットは、これまでのキャンプを物語る味わい深い表情を見せてくれた。重量3kgとやや重さが気になるものの、片付けが簡単でラフに扱えるところがお気に入りのポイントだとか。　**2.**これまでは2人用テントを使用していたが、贅沢に広いサイトを作るため、4人用である〈ムラコ〉のブラックピークを購入。収納時は横幅があるがコンパクトにまとまるのでバイクにも積みやすい。　**3.**キャンプの醍醐味のひとつである焚き火の下準備をするために使うナイフは〈モーラナイフ〉。ノコギリは『アマゾン』で購入したもの。この日の夜は鮎の串焼きをする予定だと話す。　**4.**愛車は〈ハーレーダビッドソン〉のスポーツスター 48　2019年式。今まではグループキャンプがメインだったが、ソロキャンプをはじめるために、しばらく乗っていなかったバイクを今年5月に購入。　**5.**『アマゾン』で買ったコンパクトに収納できるテーブル。基本的にテントやタープ以外のギアは、コンパクトさを重視して選んでいる。

草木のグリーンに堂々と鎮座したブラックのギアが、大自然の中に違和感を創出し、圧倒的な存在感を誇示する。ここまで徹底してオールブラックに徹底しているサイトも珍しい。このソリッドさは都会的ニュアンスを感じさせる。

5

4

3

Style No.
34

MEMBER

kazsh（カズッシュ）さん

LOCATION

@ふもとっぱら

SITE SPEC

■テント：プレテント／ TFS ヨトプラス　■テーブル：キュービーイング／オーダー　■チェア：カーミットチェア　■ランタン：ルーメナー、マウンテンリサーチ／アナルコランタン　■クーラーボックス：イエティ／ローディ　■コット：アマゾン　■ジャグ：スタンレー／ウォータージャグ　■バーナー：イワタニ／焼き上手さんα

走行距離15万km以上という〈トヨタ〉のFJクルーザーは、当時逆輸入モデルだった2010年式。ラゲッジルーム＋ルーフキャリアがあるので、家族でキャンプに行く際も積載は問題なし。

「白」へのこだわりが詰まったサイトにトンネルテントの進化系を発見。

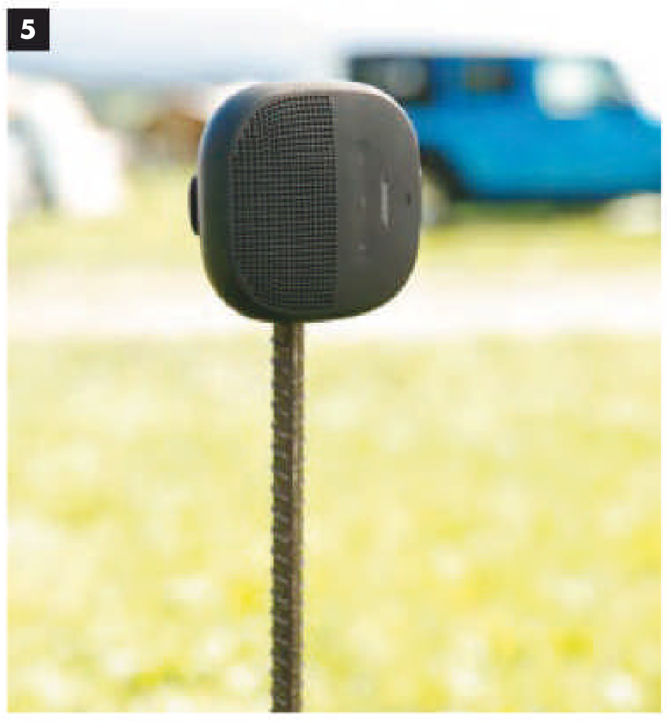
大物ギアから小物まで「白」を中心にまとめたカズッシュさんのサイト。そのなかでも真っ白の幕体がスタイリッシュな〈プレテント〉TFS ヨトプラスが圧倒的な存在感を放っていた。同ブランドは、中国の老舗テントブランド〈フリースピリッツテント〉と香港のビジュアルデザイナーであるタラ・ポーキー氏が設立したレーベル。その新作テントであるTFS ヨトプラスの特徴は、天候や気温に合わせてスタイルを自在に変化させられること。４方向すべてのパネルがポール付近からそれぞれ独立して開閉できる構造となっており、シェルター、タープ、テントの機能をこれひと張りで果たしてくれる。トンネルテントの進化系といえる唯一無二のデザインをとくとご覧あれ。

1.パネルを下ろせばプライベートもしっかり確保でき、大型のメッシュ窓もあるので夏場も快適。この日は付属のインナーテントを外しコット寝スタイルに。脇に置かれた〈イエティ〉の白いバケツは本国サイトから直接購入。　**2.**通常のトンネルテントと違い、壁面をまるごと跳ね上げることができるので開放感が段違い。テント自体のポールは2本で設営もしやすい。

色で選んだというコットは『アマゾン』で購入。奥のハンガーラックは〈ミニマルワークス〉のインディアンハンガー。パーツにはショックコードが付いているので組み立て・撤収も簡単。

〈キュービーイング〉でオーダーしたテーブルは、テントサイトに合わせ脚を白に塗装してもらった。キャンドルを使う〈マウンテンリサーチ〉アナルコランタンは炎がゆらめき幻想的。

トンネルテントの新たな可能性を感じさせる〈プレテント〉のTFSヨトプラス。なんと言っても魅力は、環境に合わせて張り方を変えられるトランスフォームっぷり。こちらは3方向を開け放ったシェルタースタイル。



3.〈バリスティクス〉のティッシュケースもマルチカムスノーを選び、「白」へのこだわりを追求。**4.**〈スタンレー〉のジャグを載せているのは〈ゴードンミラー〉のフォールディングステップ。カー用品店『オートバックス』が展開する同ブランドからは、アウトドアやガレージにフィットするギアがリリースされており、キャンパーにも人気が高い。**5.**IPX 7の防水仕様で背面にストラップの付いた〈ボーズ〉マイクロブルートゥーススピーカーはアウトドアにもピッタリ。スピーカースタンド代わりに利用しているのは、なんとホームセンターで売っている鉄筋だそう。

パップテントを思わせる三角スタイルで、ソロでもダブルでも使用可能。さらにタープとしても使えるという、拡張性バツグンのAテントを連結した。高撥水仕様のTC素材で、雨にも強く焚き火もできる巨大会場に。

Style No. **35**

MEMBER

Wrnbrand JP CLUBのみなさん

奥が霞むほどの長さは、果たして全長何メートルあるのやら。いくら曇り空とはいえ、日中で中がここまで暗いのは、Aテントの生地圧があってこそ。極めて高レベルな遮光性は、真夏の日除けとしても大いに期待できる。

LOCATION

@ふもとっぱら

SITE SPEC

■テント：ウィーアーノットブランド／Aテント、Cテント　■テーブル：プリムス／アジャスタブルテーブル、アウトプットライフ／ウッドロールトップテーブル、ブラックデザイン／ハレテーブル　■イス：カーミットチェア、オンウェイ／ローチェア　■焚き火台：自作、スノーピーク／焚き火台　■クーラーボックス：アイスランドクーラー、イエティ／タンドラ、イグルー／トレイルメイト　■コット：Tコット　■バーナー：ソト／ST-310、イワタニ／焼き上手さんα、スノーピーク／ホームアンドキャンプバーナー

わずかな手間で
ポールに収納棚を。

鍵やライターなど、キャンプ中に失くしてしまいがちな細かなモノを入れておくのに便利な3段トレーは、『イケア』購入の木皿にポールと同径で穴を空け、ネジで固定した手軽なD.I.Y.アイテム。ポールの活用術として、ぜひ参考にしたい。

韓国の気鋭レーベルを中心に作り上げた スーパービッグなモンスターサイト。

近寄りがたいほどの存在感を放つ、前代未聞の超巨大サイトを発見。これは体育館？　はたまたアーミーたちの宿営地？　答えは、春のGO OUT CAMPでも話題を集め、『#謎のテント』でインスタグラムを騒がせる韓国発インディペンデントレーベル〈ウィーアーノットブランド〉のユーザーオフ会の会場。そして迫力満点のこのシェルターは、同ブランドのAテントを5つ連結させた姿だった。もはやサイトと言うより施設とでも言うべき壮大なスケールは圧巻。さらにその他のギアにも韓国モノを取り入れつつ、日本のガレージブランドや欧米老舗メーカーも別け隔てなく使用。そのボーダレスな佇まいにキャンプの国際化を感じさせる、国境なきキャンプ団のアジトに潜入。

各自持ち寄ったいくつものギアを連結し、要所要所にコンロやバーナー、そして各種ライティングを設置。長テーブルと長イス代わりに使うコットをレイアウトした、そこかしこでBBQが行われる宴会幕に。

入り口から反対側の一番奥には、まるでVIPルームのような焚き火ゾーンが。奥の3脚は〈カーミットチェア〉。手前2脚は〈キャンプオンパレード〉で、向かって左は肘掛けを自作でカスタマイズしている。

3

2

1

6

5

4

1.手前に置かれたテーブルは、台湾発ガレージブランド〈ブラックデザイン〉のハレテーブル。そこからアイアン製のエクストラ天板で、ヴィンテージの日本製トランクへと橋渡し。出自不問の柔軟な道具選びは見習いたい。　**2.**アイアン×ウッドの2段ラックには、〈ペトロマックス〉の名品HK500など、クラシック然とした佇まいのギアをレイアウト。　**3.**〈ソト〉のバーナーやミルなどが置かれた〈38エクスプローラー〉のミヤパレットは、コーヒースタンドとして活躍。こういったホスピタリティの出し合いが、グループキャンプには必要不可欠。　**4.**玉ねぎ型のフォルムが可愛らしいこちらのテントも、シェルターと同じ〈ウィーアーノットブランド〉製。通称Cテント。ボトムパネルは、ほぼフルオープンにすることが可能で、インナーテントもあり。　**5.**シェルター内にズラっと並べられていたコットは、韓国軍が実際に使用しているというミルスペックギア〈Tコット〉。驚愕の速さで展開・収納が可能。しかも耐荷重800kgというから驚き!　**6.**組み立て方で変形可能なガス管でフレームを組み、ワイヤーを通しメッシュの火皿を設置したD.I.Y.の焚き火台。収納性も◎。

Photo／Taizo Shukuri　Text／Satoshi Yamamoto

Style No. **36**

MEMBER

hanahana80さん
hanahana87hahaさん
凛花ちゃん
晴花ちゃん
芹花ちゃん

LOCATION

@山伏オートキャンプ場

SITE SPEC

■テント:モス／アウトルック、MSR ／フューリー　■シェルター：ヘリノックス×ネイバーフッド／ E シェルター　■テーブル：スノーピーク／アイアングリルテーブル スリム、アレキサンダーリーチャン×ペレグリンデザインファクトリー／ SK8 テーブル　■チェア：カーミットチェア、ヘリノックス／タクティカルチェア、キャプテンスタッグ／アルミ背付きベンチ　■ランタン：プリムス／エクスカイザー 3240、3230、ケーラー／マイナーズセフティーランプ　■クーラーボックス：イエティ／タンドラ　■バーナー：スノーピーク／ホームアンドキャンプバーナー

ゴールドのギアは炭酸水メーカー。専用カートリッジを使うソーダストリームが有名だが、こちらはガス缶を使用。〈アールケ〉というスウェーデンのブランドだというから、珍しいのも納得だ。

ギア好きに一目置かれる、即完売のEシェルター。

hanahana80 さんは、大のギア好き。限定アイテムにも目がなく、それを物語るのが〈ヘリノックス〉×〈ネイバーフッド〉のEシェルターだろう。2017年、2018 年の2度にわたって限定リリースされたが、いずれも即完売。シンプルにして特徴的なフォルムに物欲をくすぐられ、6 × 4.5m を誇るスペースは大人10人が過ごすにも余裕の広さ。その開放感もさることながら、内部にフライシート不要でテントを張ることができ、寝室としても機能する。即完売というのも納得だが、hanahana80さんのサイトからは、そうしたアイテムが続々と見つかる。ゆえに、その多くが販売を終了しているが、気になる人はヤフオクからイーベイまで、くまなくチェックしてほしい。

ギア好きが真っ先に注目するのが、やはりベンチだろう。アルミ背付きのベンチは〈キャプテンスタッグ〉の現行モデルだが、カバーはリリース後に即完売した〈ホリデーインザマウンテン〉のプロダクト。

hanahana80さんのサイトでは、コーヒーギアも個性的。何より気になるドリッパーは〈コーヒーレジストリー〉。3点間接式によって高さの調節ができ、組み立て式なことからコンパクトに収納できる。

2

1

4

3

1.〈アレキサンダーリーチャン〉×〈ペレグリンデザインファクトリー〉のSK8テーブルはラックとしても重宝している。収納されているポーチは〈アウトドアリサーチ〉のパデッドセル。惜しまれつつも廃番になっていたが、旧ロゴもそのままに復刻された。　**2.**グリーンとブラウンのバイカラーが渋いソフトクーラーは〈L.L.ビーン〉。レギュラー缶6本を収納できるサイズだが、丈夫さゆえに電化製品入れとして活用しているそう。　**3.**クーラーボックス台として使用しているのは〈カウブックス〉のボックス。収納と台を兼ね、一石二鳥の使い方だ。　**4.**2股のガス缶は〈ネルデザインワークス〉に依頼したオーダーメイド。ガス缶カバーは〈ホリデーインザマウンテン〉の2018年モデル。

コラボモデルであるEシェルターは現在入手困難だが、同じタイプなのが〈ヘリノックス〉の現行品であるTac.フィールド6.0。同等の広さがあり、さらには2人での使用が想定されたTac.フィールド4.もリリースされている。

多くのキャンパーが憧れる〈モス〉のアウトルックだが、こちらはかなりの希少品。というのもグリーンにピンクのパイピングは、恐らく特注品。唯一無二のカラーというわけだ。

〈MSR〉のフューリー。現在も入手可能なモデルだが、フライの色がレア。現行品は蛍光オレンジなのに対し、hanahana80さんが所有するのは過去に販売されていたタンカラー。

Style No. **37**

MEMBER

yamassoさん
あきささん
もかちゃん
しょうたくん

LOCATION

@ふもとっぱら

SITE SPEC

■テント:ローカスギア／カフラシル ■タープ:キャンバスキャンプ／キャンバスシェルター ■テーブル:ハイランダー／ウッドロールテーブル ■イス:ヘリノックス／タクティカルチェア、タクティカルサンセットチェア ■ランタン:コールマン／200A、シアーズ／476.74550、コールマン／軍モノ ■クーラーボックス:シアトルスポーツ、AOクーラーズ、イグルー ■コット:ワイルドワン／オリジナル ■ジャグ:イグルー／ヴィンテージ ■バーナー:ホエーブス／625

アースカラーの配色にヴィンテージギアが見事にマッチ。

アースカラーでまとめられたサイトに並ぶのは、どれもこだわりのあるギアばかり。ナチュラルな色合いが温かみを感じさせるタープは、無漂白のコットン100%生地を使用した〈キャンバスキャンプ〉のキャンバスシェルター。5×5mの正方形というサイズ感が気に入りネットで購入したのだそう。〈ヨカ〉のパネルシェルフに載るのは、アメリカのデパートである〈シアーズ〉が〈コールマン〉のOEMでかつてリリースしていた'68年製のランタンと'74年製の200A。極めつけはいまだ現役で使用しているというストーブの〈ホエーブス〉625だろう。ほかにも〈イグルー〉のヴィンテージメタルジャグなどアウトドア通もうなるセレクトは要チェック。

工具不要で組み立てられる〈ヨカ〉のパネルシェルフもウォールナットカラーに自ら塗装した。下段においてあるランタンは、右から'68年製の〈シアーズ〉と'74年製の〈コールマン〉200A。

味のあるヴィンテージの脚立2脚に、ホームセンターで購入し塗装した板を渡しラックに。マニアに人気の〈イグルー〉のヴィンテージメタルジャグは、大阪の『イレクターズ』で入手。

〈ハイランダー〉のロールトップテーブルは、現行版より色味が濃くサイズも大きめな旧モデルを使用。チェアは〈ヘリノックス〉チェアワンとハイバック仕様のチェアツーをセレクト。

ブラウンやサンド系のカラーをセレクトし、ナチュラルなトーンでまとめたサイト構成だ。コットンテントで有名な〈キャンバスキャンプ〉から出ているタープもコットン100%の生地。高い遮光性を持ち、夏場でも涼しく過ごせる。

1.本来はオープンシェルフに使うボックスを、食器やランタンなどの割れ物を収納するコンテナに。取っ手部分は物をかけるのにも便利。　**2.**クーラーボックスはすべてソフトクーラーで揃える。手前の〈イグルー〉はランチボックスとしても使える手頃なサイズ感だ。樹脂製インナーケースは取り外し可能でメンテナンスもしやすい。　**3.**オーストリア製ストーブの〈ホエーブス〉 625も『イレクターズ』で購入。ノズルを交換することでガソリンと灯油の両方が使用でき、シンプルな構造で壊れにくいため、かつて昭和の登山愛好家に好んで使われたギア。こちらは'60～'70年代製造と見られるが、いまだ現役で活躍中。　**4.**シリコンコーティングが施されたリップストップナイロン使用の〈ローカスギア〉カフラシル。4人収容可能な広さで750g（幕体のみ）という驚異の軽さを誇る。玄人からも支持を集める同ブランドの中でも、人気モデルのひとつ。

テントは片側を跳ね上げ、タープ風にアレンジした。珍しいA型ということに加えて、張り方を自在に変えられることから密かに現在もファンが多いモデル。連結できる点も特徴のひとつで、こうして複数使いをする人が多い。

一見ひとつのテントに見えるが、同じモデルをふたつ繋げて設営している。もとの形がユニークなことに加え自身のアイデアも加わり、唯一無二のサイトに。ポールにトレッキングポールを活用しているセンスも真似したい。

Style No. **38**

MEMBER

Sawa48さん

LOCATION

@BOCH a camp by camper

SITE SPEC

■テント：ヒルバーグ／ムドゥス　■テーブル：REI ／バンブーテーブル、ペレグリンデザインファクトリー×アレキサンダーリーチャン／リープソウスケートテーブル　■チェア：バイヤーオブメイン／メインラウンジャーチェア　■ランタン：マイナーズランタン、キャルウィン／軍モノ　■クーラーボックス：イエティ／ローディ　■ジャグ：ウェアエバー　■コット：L.L.ビーン／アルミコット

手前のランタンは『本多商店』で購入した〈マイナーズランタン〉で、上は〈チャールウィン〉の軍用ランタン。〈バイヤーオブメイン〉のチェアは座面がクッションシートの珍しいモデル。すべてヴィンテージモノだ。

張り方の自由度が高い〈ヒルバーグ〉のテントは高さも広さも心地よいバランス。

既に廃番となっている〈ヒルバーグ〉のムドゥス。海外のサイトで発見して購入したこのテントは、単体でも不自由のない広さだが、同型モデルをプラスしリビングスペースを広めに確保したレイアウトになっている。このムドゥスは〈ヒルバーグ〉には珍しいA型テントというだけでなく、同ブランドの大型モデルに見られる、ジッパーで連結ができるエクステンション仕様になっているのが特徴。レアものなので揃えるのは難しいが、連結スタイルはかなり目を引く。ファニチャーは木製で統一され、ミリタリー系ギアとビビッドなカラーの小物が差し色になっている。テーブルはあえて高さを変えることでサイトに動きが出る。これも真似したいテクニックだ。

1

3

2

1.〈イエティ〉のクーラーの下は〈キャンプマニアプロダクツ〉のアイアン製テーブル。 **2.**〈イエティ〉のジャグ、ランブラーは氷入れとして使用。下はマイクロチェアの座面にアルミの鉄板を乗せて耐久性と安定感をアップ。小さくても座面がへこまないので重いものも乗せられる。　**3.**ノーブランドのスツールは小物置きに。上はどちらも〈ミステリーランチ〉の小物入れで、下のかごはアメリカのヴィンテージのミルククレート。知人から譲り受けたもので食器やカトラリー類を収納。高さがあるのでスタッキングできるのも便利である。

6

5

4

4.テントの中は2人用のインナーテントが付き、イエローとグリーンのコントラストが効いている。　**5.**〈ペレグリンデザインファクトリー〉×〈アレキサンダーリーチャン〉のリープソウスケートテーブルは両サイドに猫の切り抜きが入り、シェラカップなどが引っ掛けらる作りが便利。手前は'90年代に人気を集めたギアケース〈アウトドアリサーチ〉のパテッドセルに、奥はジャグとして使用している日本製のアルミケトルでこれらも年代モノ。　**6.**〈REI〉のバンブーテーブルの上に置かれているのは、〈パイロミッド〉のパイロデュオ。アルコールや固形燃料を入れて使うグリルで、熱燗やパンを焼いたりできる。特に気に入っているギアのひとつ。

 Photo／Taizo Shukuri　Text／Mihoko Odamaki

Style No. **39**

MEMBER

まさとさん
えみさん
さくたろうくん
れんたろうくん

LOCATION

@Tiny Garden Festival 2019

SITE SPEC

■テント：ヒルバーク／アトラス、ゴーライト／シャングリラ５　■タープ：MSR ／ジング　■テーブル：アウトプットライフ／ウッドロールトップテーブル、スノーピーク／アイアングリルテーブル、ペレグリンデザインファクトリー×アレキサンダーリーチャン／ SK8テーブル　■チェア：カーミットチェア、バリスティクス／エクディシスベンチ　■クーラーボックス：イエティ／ローディ、F.C.リアルブリストル×コールマン　■コット：コールマン　■バーナー：イワタニ／タフまる

広々とした幕下に有名ブランドが集合。

〈ヒルバーグ〉に〈ゴーライト〉、〈ホリデーインザマウンテン〉や〈F.C. リアルブリストル〉など。アウトドアとファッションの両軸から、プレミアムなブランドでまとめたハイセンスサイト。タープには特徴的な７つ角のシルエットが美しい〈MSR〉の名作ジングをセレクト。メーカー推奨定員６～12人という大型幕の下に、大きめのリビングテーブルとキッチンテーブル、ミニテーブル、さらにチェア２脚とベンチ２脚を展開した、グラマラスなセッティングが人目を引いた。こんな広々としたサイトなら、元気盛りの６歳児さくたろうくんも、まだよちよち歩きのれんたろうくん２歳もストレスなく遊べそう。火器もガスコンロひと口だけに絞っているので安心。

2

1

1.〈ヒルバーグ〉の中でも最大級の大きさを誇るドームテントであるアトラスに、エクストラ前室を継ぎ足したフルサイズ仕様。　**2.**中には、本来別に立てるはずだった〈ゴーライト〉のシャングリラ5を設営。想像以上の寒さと雨を凌ぐため、急遽カンガルースタイルに変更して夜を越すことにした。

〈カーミットチェア〉２脚と右奥の〈バリスティクス〉のベンチは、〈ホリデーインザマウンテン〉の生地で張り替え。テーブルは家庭用レベルの安定性を誇る〈アウトプットライフ〉で、子連れキャンプでも安心。

5

3

4

3.コンロは〈イワタニ〉のタフまる単機使い。フード販売も豊富なフェスキャンプなら、火器の類は最小限でOK。家族でフェス飯を堪能するのも楽しいはず。　**4.**ゴミ箱は〈オレゴニアンキャンパー〉のポップアップ式。蓋付き、トップにはハンギングチェーン付きで、見た目も使い勝手も◎　**5.**サブクーラーには〈F.C.リアルブリストル〉×〈コールマン〉のコラボレーションモデルをチョイス。さらにクーラーの脚として使用したスツールは〈ステューシーリヴィンジェネラルストア〉という、ファッション感度の高い組み合わせに。

ハイスペックかつグッドデザインなサイトセッティングに、タープから吊り下げられたテレサのライトやちょこんと置かれたフィギュアなど、キッズたちのキュートなアイテムが見え隠れ。素敵な思い出になりますように。

8

7

6

6.ジングが作る大きな影の外側にも、子どもたちが遊べるよう〈コールマン〉のコットをレイアウト。ポカポカの日差しを浴びながら、愛する我が子との昼寝も楽しめる。　**7.**高級家具顔負けのクオリティで羨望の眼差しを集める〈アウトプットライフ〉のテーブルを、売り切れ続出の〈ホリデーインザマウンテン〉のロゴが囲むプレミアムなリビングセット。しかもうち2脚は〈カーミットチェア〉。まさに大人の贅沢仕様。　**8.**収納の定番、折り畳みボックスには、大人ストリートたる〈F.C.リアルブリストル〉のロゴプリントが映える。

コンパクトなタープを低めにセット。そこに合わせてファニチャー類もロースタイルで揃えた、目線の低いリビングコーディネイトがリラックス感あり。濃い影と温かな表情を作り出す、タープのポリコットン素材も雰囲気良好。

Style No. **40**

MEMBER

Gaa Seeさん

LOCATION

@BOCH a camp by camper

SITE SPEC

■テント：MSR ／スーパーフュージョン3　■タープ：タトンカ／ 2TC　■テーブル：ブルーリッジチェアワークス／カロリナスナックテーブル　■チェア：カーミットチェア、ペレグリンデザインファクトリー×バリカンズ／エクディシスベンチ　■ランタン：プリムス／ IP-2245A　■クーラーボックス：イエティ／タンドラ、シアトルスポーツ／ソフトクーラー　■ジャグ：MSR ／ドロメタリーバッグ　■バーナー：プリムス／ EX-ULT-2A

1.〈モス〉が消滅した2001年の翌年から、〈MSR〉名義でリリースされたスーパーフュージョン。〈モス〉の大型モデルであるタイタンをベースとするれっきとした継承モデルだけに、そのプレミア感は高い。広い造りの前室がお気に入りだそう。　**2.**先日復刻版が発売された〈アウトドアリサーチ〉のパッドセルも、こちらはオークションで購入したオリジナルモデル。カトラリーやガジェット類を収納している。　**3.**かさ張るウォータージャグには、〈MSR〉のドロメダリーバッグ10Lモデルを使用。収納性を踏まえたナイスアイデア。

4.〈ブルーリッジチェアワークス〉のテーブルに、〈カーミットチェア〉、〈バリカンズ〉×〈ペレグリンデザインファクトリー〉のベンチといった、新旧入り交じるリビングセット。右奥に見えるのは〈ペレグリンデザインファクトリー〉のチクタクスツール。　**5.**〈ホリデーインザマウンテン〉のオットマンは、〈バリカンズ〉のカゴバッグやバッテリー、水筒などの台座として使用している。

コンパクトな中に大きなこだわり。

定番的な人気を博す〈タトンカ〉タープの中でも、もっとも小さなモデルである2TCを使用。それに合わせてギア類もミニマムに抑えた、コンパクトなリビングセッティングに。とはいえもちろん、そのセレクトには多大なるこだわりがあった。中でも特に目を引くのが、色カタチともに偉大なる父〈モス〉の面影を纏ったスーパーフュージョン3。現行ブランドである〈MSR〉においても、カタログ落ちしてから10数年が経過し、今やプレミアムな価値の伴うレアモデルだ。そのほかのギア類に関しても、クラシックルックなモノとモダンなモノをバランスよく配合。控えめながらも玄人感のあふれるセレクトには、キャンプ上級者であるほど好反応を示すはず。

Photo ／ Taizo Shukuri　Text ／ Satoshi Yamamoto

全体のトーンだけでなく、ギアの選び方やディスプレイの仕方も非常にシンプル。リビングを囲むようにテントをレイアウトし、クルマに簡単に取り付けられるタープ用のカージョイントを活用してサイト全体をコンパクトに。

Style No. **41**

MEMBER

石川健史さん
和可菜さん
航くん
真帆ちゃん

LOCATION

@山伏オートキャンプ場

SITE SPEC

■テント：ゴーライト／シャングリラ 4、ヒルバーグ／ウナ　■タープ：ヒルバーグ／10UL　■テーブル：ペレグリンデザインファクトリー／ドンキーテーブル、ウィングテーブル　■チェア：カーミットチェア、スノーピーク／ Take !チェア ロング　■クーラーボックス：ドメティック／ ACX35G

選び抜かれたギアで、こなれ感あるサイト。

〈ヒルバーグ〉のウナとタープ 10UL、〈ゴーライト〉のシャングリラ４と幕アイテムはすべてシルナイロン製で統一された石川さんのサイト。使い込んだテントのフライにありがちなベタつきがまったくないのが特徴で、片付けの際もパパッと袋に詰め込めるのがメリット。子どもがまだ小さいため、設営と撤収の時短にかなり役立っているそう。タープの片側は〈キャプテンスタッグ〉のカージョイントで固定し、リビングだけ外に設置してテントなしの車中泊というスタイルも可能になっている。テント、ファニチャー、食器類にいたるまで素材は違えどトーンが揃えられ、時短を追求しつつも見た目と使い勝手が完成されたレイアウトは、ファミリーキャンプで大いに参考になる。

2

1

5

4

3

1.今夜の寝床はコンパクトなウナ。　**2.**奥のカーミットチェアは〈ウィンディーアンドレイニー〉の特注生地に張り替え。　**3.**今は亡きブランド、〈ゴーライト〉。設営が簡単&シンプルで居住性も高いワンポールテント。インナーがイエローの〈ヒルバーグ〉シリーズとの親和性は抜群。　**4.**〈ドメティック〉の冷蔵庫はCB缶も使え、夏場はかなり重宝する。重さがあるので、台は〈テンマクデザイン〉のワークテーブルを活用。隣は〈ウィンディーアンドレイニー〉のマウンテンサイドバッグ。〈無印良品〉のステンレスワイヤーバスケットがぴったりはまり、アクリル製ロールトップ付きでホコリや濡れの心配も無用。　**5.**カゴは〈プエブコ〉。網目が大きいカゴは洗い物がそのまま入るのが便利。脇の黒いケースは〈ホグロフス〉で、濡らしたくないキッチンペーパーを入れている。円盤のような形のやかんは〈ユニフレーム〉のステンレスミニケトル（現在は廃盤）。湯切りがとてもいいのでお気に入りだ。

　Photo／Taizo Shukuri　Text／Mihoko Odamaki

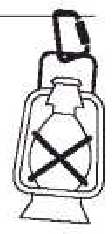
前後を跳ね上げることで、タープとしての使い方もできる。素材にタフな75Dリップストップポリエステルが採用され、負荷が掛かる部分は補強が施されているので、長く愛用できそう。

〈カーミットチェア〉は、〈ナチュラルマウンテンモンキーズ〉×〈バリスティクス〉のシートに張り替え、〈オールドマウンテン〉×〈デバイスワークス〉のヒジワルの肘掛けをプラス。さらに、〈インアバンス〉のワンズテーブルも付けたフル装備。

国内未展開のブランドを使って世間からさりげなく一歩リード。

〈ヘリノックス〉の軽量シェルター、Tac.フィールド4.0をベースにしたサイト。そのシェルターは、人気のパップテントのようなシルエットがカッコいい。重量が約4kgと軽量なのも嬉しいポイント。2台のコットを並べても、荷物を置けるほどのスペースが確保でき、Y字型のポールが採用されているので、全閉しても室内は狭く感じない。そして、注目したいのが、ほかキャンパーと被りにくいギア選び。特に、コリアンブランドのファニチャーは珍しく、テーブルやラックなどで一歩リードしたサイト作りをしている。人気チェア〈カーミットチェア〉は、座面と肘掛けをカスタマイズしていて、サイドに缶やスマホを置けるテーブルを取り付けているところも見逃せないポイントだ。

Style No. **42**



MEMBER

kazu1102pichaさん
machapinさん

LOCATION

@ふもとっぱら

SITE SPEC

■シェルター：ヘリノックス／Tac.フィールド4.0　■テーブル：レトロス　■チェア：カーミットチェア　■ランタン：デイツ／レイルロードランタン、コールマン／ルミエールランタン　■クーラーボックス：イエティ／ローディ、ホッパーフリップ　■ジャグ：イエティ／ランブラー

1.韓国発のアウトドアブランド〈レトロス〉のテーブル。天板にイラストがデザインされ、キャンプ気分を盛り上げてくれる。現在国内では展開されていないため、代行サイトを利用して購入しているそうだ。　**2.**シェルターは、〈ヘリノックス〉のフィールドTac.4.0。コット2台を縦に並べて置けるほどの広さがあり、室内を広く使える。内側に遮光性の高いコーティングが施されているので、シェルター内の温度は快適。　**3.**扇風機は韓国ブランド〈クレイモア〉。脚が取り外せる仕様で、上から吊ったり、サイズが合う別の脚に変えたり、と自由な使い方ができる。　**4.**中央の棚も〈レトロス〉のもの。脚が華奢で、天板の金具にはめ込むタイプ。コンパクトに収納できるのが特徴だ。金具は真鍮素材が使われ、高級感を漂わせている。天板手前に付いているハンガーが便利。

2

1

4

3

いかにもミリタリーファンといったヘビーデューティーなリビングコーディネイトは、年間30回以上のキャンプ回数を誇るというヘビーキャンパーならでは。使い勝手やデザイン性だけでなく、堅牢性も重視したセレクトに。

Style No. **43**

MEMBER

free_daruさん

LOCATION

@本栖湖レークサイドキャンプ場

SITE SPEC

■テント：ヒルバーク／アラック２　■タープ：ヒルバーク／タープ UL20　■テーブル：キャンプマニアプロダクツ／グリルスタンド　■チェア:カーミットチェア、バリスティクス×ペレグリンデザインファクトリー／エクディシスベンチ　■ランタン：ソーラーパフ　■ランタンハンガー：サンゾクマウンテン／ショック　■クーラーボックス：アイスランドクーラー　■ジャグ：イエティ／ランブラー　■バーナー：イワタニ／タフまる

タフ&ラフなハイエンドギアでヘビーデューティーを体現。

〈ヒルバーグ〉に〈カーミットチェア〉、〈バリスティクス〉×〈ペレグリンデザインファクトリー〉など、キャンプビギナーにとっては垂涎のギアで固めた上級者。コヨーテブラウン、オリーブドラブ、迷彩柄で揃えた、オトコ心をくすぐるカラーコーディネイトも秀逸だ。中でも特に目を引くのが、昨今注目の〈アイスランドクーラー〉の迷彩柄三連星。話題性バツグンのブランドバリューに圧倒的な保冷性、そしてそのヘビーデューティーな佇まいが、オーナーのキャンプスタイルを如実に体現している。また写真右側に写っているオリーブドラブの大型バッグは、沖縄で購入した米軍払い下げのパラシュート袋。シュラフやマットなどのギアをひとまとめに収納する。

メインテーブルにはこちらも無骨な〈キャンプマニアプロダクツ〉のファイアグリルを使用。さらに両サイドには、〈スノーピーク〉シェルフコンテナと〈キャプテンフリーダム〉のメタル天板を組み合わせたサブテーブルを設置している。

1.メインバーナーは〈イワタニ〉のタフまる。家庭用カセットコンロさながらの簡易性に、ダッチオーブンも乗せられる堅牢性を備えつつ、ミリタリーオイル携行缶さながらのキャリングケースも付属する無骨なひと品。　**2.**テントはキャンプファン憧れの〈ヒルバーグ〉アラック2。シリアスな山岳登山用に設計された、どんな悪天候にも耐えうる正真正銘のヘビーデューティーモデルだ。　**3.**ステンレスジャグは最強クーラーの異名を持つ〈イエティ〉製。カトラリーなどをまとめたマルチカムのツールキャリーは〈ダイス〉のアイテムと、小物類のセレクトまで抜かりなし。**4.**奥に見えるスクエア型のギアコンテナは〈バリスティクス〉。言わずもがな、同ブランドと〈ペレグリンデザインファクトリー〉とのコラボベンチとの相性も◎。

2

1

4

3

 Photo／Taizo Shukuri　Text／Satoshi Yamamoto

Style No. **44**

MEMBER

shunpei_1123さん

LOCATION

@本栖レークサイドキャンプ場

SITE SPEC

■テント：ヒルバーグ／サイタリス　■タープ：TheArth／幕男　■テーブル：TheArth／シマ美、38 エクスプローラ／ミヤパレット　■チェア：カーミットチェア　■ランタン:レイルロードランタン、スケーターズランタン　■クーラーボックス：イエティ／ローディ　■ジャグ：ダルトン／ミルク缶

シンプルでいて快適、かつ細やかな工夫も。

独特の張り線のタープに構造・性能ともに最高峰レベルのテントの組み合わせはまさにベースキャンプ的で硬派な雰囲気を漂わせていたshunpei_1123さん。サイトの核となるテントとタープにミリタリー調のギアを合わせ、ヴィンテージものもさり気なくアクセントとして活用。メインテーブルの中央には程よい高さのランタンハンガーを合わせ、ティッシュケースなどサッと使いたいものや迷子になりがちな小物を引っ掛けている。また〈カーミットチェア〉はシートの張り替えだけでなく、肘掛けに〈デバイスワークス〉のヒジワル、後ろ脚に、着座姿勢と座り心地が変わる〈ナチュラルマウンテンモンキーズ〉のノビタを装着するなど快適性を追求した細かなこだわりも垣間見える。

2

1

1.中央の〈イエティ〉は日本未発売時に購入したゴーボックス。右は〈オレゴニアンキャンパー〉のポップアップトラッシュボックス。テーブルは〈デバイスワークス〉コラボのミヤパレット　**2.**〈TheArth〉のシマ美に〈サンゾクマウンテン〉のショックをプラス。イスの座面は〈ナチュラルマウンテンモンキーズ〉のマイスターシートにチェンジ。

Photo／Taizo Shukuri　Text／Mihoko Odamaki

テントの赤とのコントラストが美しい白のタープは幕男で、〈グラインドロッジ〉のロゴがポイント。テントの出入り口がタープ下になるよう設営されている。手前に見えるウォータージャグを置いているスツールは〈ヨカ〉。

6

5

4

3

3.コンテナはドイツ軍御用達の〈セグロ〉。かなりの年代モノらしくでネットにて購入。折り畳み式になっており、未使用時はコンパクトに収納できる。 **4.**ミヤパレットは天板の下にボルトが付き、カメラの三脚が取り付けられるというユニークな発想のテーブル。取り付けたキッチンツールケースは〈デバイスワークス〉のオリジナル。右はGO OUT onlineで販売した〈ネイタルデザイン〉コラボのギアコンテナ。 **5.**サイタリスは、あらゆる環境下で活用できる4人用モデル。 **6.**ボトルを置いた〈アナキャン〉のメタヘキテは棚のほか1段のテーブルとしても使用可能。天板と脚がバラバラになるので持ち運び時はコンパクトになる。インスタのDMでオーダーした。

リンクコーデのお子様ふたりは、なんとも子育てが賑やかそうな双子ちゃん。月に2回は平均してキャンプを楽しむというパパとのソトアソビも、これからますます本格的に楽しめそう。この日はSUPに挑戦し満足気。

Style No.

45

MEMBER

yk.peace.1982さん
リンカちゃん
モモカちゃん

LOCATION

@本栖レークサイドキャンプ場

SITE SPEC

■テント：ヒルバーク／ナロ 4GT　■シェルター：オガワ／アポロン　■テーブル：ブラックデザイン／ハレテーブル、38 エクスプローラ／ミヤパレット　■チェア：カーミットチェア、ヘリノックス／タクティカルチェア ミニ　■ランタン：コールマン／スポーツマン、ルミエール　■クーラーボックス：オルカクーラーズ／ 20Quart　■ジャグ：リマ／ステンレスジャグ ムート 10　■バーナー：ソト／ ST-310、イワタニ／タフまる

ブラウンとブラックで統一された、シンプルかつグッドセンスなリビング構成。お子様ふたり用の〈ヘリノックス〉が、モノにこだわるパパの審美眼を物語る。ジャグやマグなどの細かなアイテムセレクトにも要注目。

サイトの差し色としても機能する赤のポールとガイライン。特にガイラインの視認性向上は、子連れキャンパーたちは必見のテクニック。

ラグジュアリーなだけじゃない、細かなテクにも要注目。

トンネル型テント・シェルターの決定版との呼び声も高い、〈オガワ〉のアポロンを母屋に使用。その開放感あふれる広大なスペースに寝床以外のすべてを集約した贅沢なサイト作りで、コアキャンパーが集まる本栖レークサイドキャンプ場の中でも、ひときわ目立っていた御一行がこちら。中でも特に、リビング中央に鎮座する、エクストラアイアンプレートで繋いだ〈ブラックデザイン〉ハレテーブルの存在感はバツグン。全体的にベーシックなアイテムでまとめたくつろぎの空間を、よりラグジュアリーな雰囲気へと格上げしてくれている。またアポロンのサイド跳ね上げに使用された赤のポールも主張性あり。合わせてガイラインの色も赤に変更する辺りは大いに参考にしたい。

3

2

1

6

5

4

1.ハイエンドクーラーボックスの急先鋒〈オルカクーラーズ〉の20QTモデルを3色使用。大容量モデルひとつではなく、コンパクトモデルを複数そろえ、中身によってカラーを使い分けた。　**2.**〈リマ〉のジャグは〈無印良品〉のラックと併用して使用。〈プライウッド〉で購入した籠バッグにはコーヒー道具一式が。　**3.**棚と2本のハンガーが一体となった〈キャプテンフリーダム〉のアイアンラダーラックには、鍋やコーヒーミル、ルミエールランタンなどをレイアウト。使い勝手も収納性も高い、お気に入りのアイテムだそう。　**4.**テントは〈ヒルバーグ〉の4人用モデル、ナロ4GT。赤や緑のイメージが強いブランドながらもコヨーテブランを選択し、シェルターとの色味同調を図っている。　**5.**スマートフォンなら24回分、さらにPCの充電も可能だという〈アイミュート〉の大容量モバイルバッテリー。LEDライト付きで使い勝手高し。　**6.**ズラっと並んだ〈ブラックデザイン〉ハレテーブルの端には、新鋭ガレージブランド〈アナキャン〉のメタヘキテMを2段サイドテーブルとして使用。特注で脚が伸縮するようアレンジしたスペシャル仕様。

 Photo／Taizo Shukuri　Text／Satoshi Yamamoto

タープもテントと同じブランド〈ヘルスポート〉のピティホーンタープをチョイス。テント同様に耐燃素材が採用されているので、タープの下で焚き火をしても、燃え移る心配はない。4.35 x 2.9 mと、やや小さめが使いやすい。

Style No. **46**

MEMBER

akiyanoutさん ファミリー

LOCATION

@ふもとっぱら

SITE SPEC

■テント：ヘルスポート／ギムレファミリー ■タープ：ヘルスポート／ビティホーンタープ ■テーブル：ユニフレーム／焚き火テーブル、ピタゴラベース／フィールドスタイル ■チェア：カーミットチェア、ヘリノックス／タクティカルチェア ■スツール：EIスツール ■焚き火台：スノーピーク／焚き火台S ■ランタン：ヴェイパラックス／ヴィンテージ ■クーラーボック：イエティ／ローディ、AOクーラーズ／キャンバス24pc

コンパクトになるギアを中心に選んで妥協なきサイト作り。

カーキのカラーリングが男らしくも、光沢感が上品さを醸し出している、〈ヘルスポート〉のテントとタープを張っていたakiyanoutさん。リビングと寝室に分けられる2ルームテントはファミリーキャンプに最適で、オプションの2人用インナーテントを購入すれば拡張することもできる。派手な色味のギアを使用せず、アースカラーやウッドのギアでサイトを構築し、落ち着いた雰囲気にまとめたのがポイント。ギアのセレクト基準は、愛車の積載量が多くはないので、コンパクトになるものが中心。ネット通販のほうが安価に手に入ることもあるが、ショップに直接足を運んで店員さんと話をしつつ実物を触り、サイズや使い勝手を考慮しながら買っているそう。

ハンガーは、京都府大山崎にある『風街道具店』で買ったカゼハンガー。引っ掛ける部分がV字になっていて前後に掛けられる。〈サンゾクマウンテン〉のショックケースにまとめて収納が可能。

〈スノーピーク〉の焚き火台Sには、風防としてサイズがぴったりの〈アシモクラフト〉のアシサークルをセット。使い込んでいることを証明する変色が、いい味わい深さを醸し出している。

中央のメインテーブルは、毎年愛知県で開催されているイベント、フィールドスタイルで見つけて買った〈ピタゴラベース〉。天板と脚がバラせるので、サイズの割にコンパクトに収納できる。

Photo／Taizo Shukuri　Text／Showgo Komatsu

4

3

2

1

1.キッチンツール置きは〈ユニフレーム〉のフィールドラックでひとまとめ。カゴは〈プエブコ〉で、ランタンケースは〈C&C.P.H〉。色のトーンを合わせて組んでいたのがオシャレ。　**2.**2台重ねたコンテナは〈ダルトン〉で、その上にあるキッチンツールケースは〈LAHD&B.C.〉。右のゴミ箱は〈オレゴニアンキャンパー〉。収納系はアーシーなカラーリングでまとめて、統一感を演出。　**3.**テントは、1951年に設立されたノルウェーブランド〈ヘルスポート〉のギムレファミリー。トンネル型の曲線が美しく、耐燃性と耐水性を備えた生地を採用している。　**4.**室内は2ルームで、大きすぎず小さすぎない、手頃なサイズ感がナイス。前室には大きな窓が備わり、通気性も問題なし。その広い前室を荷物置きとして活用。

Style No. **47**

MEMBER

あーやファミリー

LOCATION

@GO OUT CAMP vol.15

SITE SPEC

■テント：ザ・ノース・フェイス／モライン33　■シェルター：オガワ×カナディアンイースト／ツインピルツ フォーク ブラック　■テーブル：自作　■チェア：カーミットチェア、キャプテンスタッグ／アルミ背付きベンチ　■ランタン：モスキーランタン、コールマン／ルミエールランタン、クイックランプ、マイナーランプ　■クーラーボックス：イエティ／タンドラ　■焚き火台：ペトロマックス／ファイヤーボウル　■バーナー：コベア／キューブ　■ジャグ／ミンテージ

家族５人分、これで完結。使い勝手のいいシェルター。

リビングとしても機能し、コットを入れると寝室としても使えるシェルター人気はここ数年で倍増している様子。さらに、あーやさん一家のようにシェルター内に小さめのテントを入れたカンガルースタイルは、寒さ対策のほかプライベート空間を保てると大人気のレイアウト。このカンガルースタイルを可能にした〈オガワ〉のツインピルツフォーク ブラックは、韓国のブランド〈カナディアンイースト〉とのコラボモデル。前後の壁、左右に扉が付き夏場でも風通しがよく快適。寝室用テントのほか家族５人のリビングキッチンも収納できるほどのサイズがあるので昼夜の寒暖差や急な天候の変化にも対応可能。これさえあれば快適にキャンプが楽しめる万能選手だ。

2

1

3

1.焚き火スペースは陣幕で風除け兼目隠し。〈ペトロマックス〉のファイヤーボウルの上には〈アシモクラフト〉のタキビノアシを置き風防代わりに使用した。　**2.**手前の壁を跳ね上げ、タープのように使いリビングを配置。チェアはブラックの座面で統一し、テントとのカラーを合わせた。　**3.**キッチンにしたアイアンラックは、脚のみメルカリで購入。立って調理できる高さが使い勝手よし。天板はホームセンターで買った木材を自ら塗装し、使い込んだような味を出している。バーナーを囲んだ風除けは旦那さんが作ったもの。

寝室にするテントは〈ザ・ノース・フェイス〉のモライン33で、3シーズン用のコンパクトなモデルだ。シェルターに入る大きさのものを探し『イーベイ』で見つけたそう。中は大人ひとりと子ども3人がちょうどいい大きさ。

GOOD ITEM
このギア使える!

取り外せる脚は、汎用性バツグン。

広島にあるインテリアショップ『ディコトミック』オリジナルのF字クランプは、天板を挟み込んでテーブルやラックとして使える脚パーツ。簡単に取り外しできるので、アウトドアでも活用できる部品。

6

7

5

4

4.東京にある雑貨屋『エフィム』で見つけた投光器。3段階に明るさが調整でき、USB充電もできる便利アイテム。ベージュのボディーカラーもサイトコーディネートにひと役買っている。　**5.**〈ミンテージ〉のジャグは端材で自作した脚に、壊れてしまったテーブルの天板を乗せた台を使用。外で汚れてしまうアイテムに、余り物を有効活用するというナイスアイデア。　**6.**ログキャリー兼薪置きは〈K&R〉というインスタブランドのもの。取っ手が付き薪を包んで持ち運べる点も優秀。スタンドは2本の脚を広げて使うので、収納時は薄くなる。　**7.**鉄杭をゴールドに塗装したハンガー。蚤の市で見つけた古いトランクとも相性抜群だ。

Style No. **48**

MEMBER

はるるファミリー

LOCATION

@山伏オートキャンプ場

SITE SPEC

■テント：MSR ／エリクサー4　■シェルター：テンマクデザイン／サーカス 720DX　■テーブル：ノーブランド、スノーピーク／マイテーブル　■チェア：スノーピーク／ローチェア 30、ヘリノックス×ペンドルトン／コンフォートチェア、キャンプアウト／アルミ背付きベンチ　■焚き火台：ソロストーブ／レンジャー　■ランタン：ルーメナー、ジェントス／エクスプローラー　■クーラーボックス：イエティ／タンドラ　■コット：アウトプットライフ／イージーコット　■バーナー：スノーピーク／ホームアンドキャンプバーナー、イワタニ／焼き上手さんα

GOOD ITEM

このギア使える！

下段が有効活用できる便利すぎるラック。

コンテナの定番〈スノーピーク〉シェルフコンテナを、さらに使いやすくしてくれる〈h&o〉のシェルコンラック。スタッキングすると取り出しづらかった下の段へのアクセスが容易に。

話題のギアで作るスタイリッシュなファミキャンサイト。

〈テンマクデザイン〉サーカス720DX の下に居住スペースをすべて配置し、一体感がありながら機能的なレイアウトを構築していたはるるファミリー。サーカス720DX は、フラップを跳ね上げてタープとして、フラップを閉じてシェルターとしてと多彩なアレンジが効く、あらゆるキャンプシーンに対応してくれる便利な幕。4名まで収容可能なインナーテントも付属しているが、こちらのサイトでは〈MSR〉のエリクサー4 を設置したカンガルースタイルに。インテリアには、〈スノーピーク〉のホームアンドキャンプバーナー、シェルフコンテナの利便性を上げてくれる〈h&o〉のシェルコンラック、ポータブル電源の〈パワーアーク〉、〈ソロストーブ〉のレンジャーなど今年話題のギアが目白押し。

〈スノーピーク〉の名品ローチェア30は、その名の通り座面の高さが30cmでロースタイルにぴったり。座面・背もたれが一体型の構造で、腰を包み込むような座り心地が最高。

燃焼効率が高く煙がほとんど出ない〈ソロストーブ〉のレンジャーは、限定色の黒をネットで偶然見つけ一目惚れ。サイドテーブルは〈スノーピーク〉のマイテーブルをチョイス。

〈ユニフレーム〉のフィールドラック2つを使いギアを整理。中央のOD色のケースは〈トラスコ〉プロテクターツールケースXLで〈イワタニ〉焼き上手さんαがぴったり収納できる。

クロスフレームを外側に持つ〈テンマクデザイン〉のサーカス720DXは、広々とした室内空間が特徴。フラップ部を跳ね上げて設営することで、リビング、寝室、ギアの収納スペースを、シェルター内に創出している。

4

3

2

1

1.天板を脚に差し込むラックは、ネットで見つけ購入。雑貨屋で買ったバスケットに細かいギアを収納している。　**2.**リビングのテーブルは個人作家にオーダーしたもの。8枚の板を差し込み天板とすることで自立する。テーブル上のポータブル電源〈パワーアーク〉は626Whと大容量なうえ、キャンプシーンにも馴染む豊富なカラバリが魅力。　**3.**今年1番の反響を呼んだと言っても過言ではない〈スノーピーク〉のホームアンドキャンプバーナー。カセットコンロらしからぬスマートな佇まいと、CB缶の装着部分に五徳とバーナー部がすべてしまえるコンパクト収納がキャンパーの心をわし掴みに。　**4.**サーカス720DXの中に〈MSR〉エリクサー4のインナーテントを設置し寝室としていた。

Style No. 49

MEMBER

YOKOさん
Joggyさん

LOCATION

@BOCH a camp by camper

SITE SPEC

■テント：MSR ／ストームキング　■タープ：MSR ／アウトフィッターウィング　■テーブル：ホリデーインザマウンテン／アナルコテーブル、キャンプマニアプロダクツ／ラックテーブル　■チェア：カーミットチェア ■ランタン：ゴールゼロ／マイクロミニランタン　■クーラーボックス：イエティ／ローディ ■ジャグ：ウェアエバー　■バーナー：プリムス／ 2280、2243、スパイダーキット ■コット：ヘリノックス／タクティカルコット

伝説的テントのDNAとモダンセンスをMIX。

年間キャンプ数なんと、週1以上の50回を数えるというハードコアキャンパー夫妻。数多く所有する幕体の中でもこの日は、伝説的テントメーカー〈モス〉の正規継承者として知られる、〈MSR〉のテント＆タープを使用。そのDNAを受け継ぐタン×レッドのカラーリングは、やはり何度見てもカッコいい。とはいえ決して懐古主義で終わらないのがこのおふたり。〈ゴールゼロ〉のLEDランタンや〈ヘリノックス〉のタクティカルコットなどのモダンギアも取り入れつつ、一方で〈ホリデーインザマウンテン〉や〈カーミットチェア〉などのレトロデザインも要所に散りばめている。必要な機能性と楽しむためのアイテム選びを両立したセレクトスキルを披露してくれた。

キッチンには〈キャンプマニアプロダクツ〉のラックテーブルを使用。〈笑'ズ〉のテーブルに使用される金属天板を敷き、火器の使用や熱々のクッカーなどの直置きにも対応。

GOOD ITEM このギア使える！

撮影用一脚をギアハンガーに

本来カメラの脚である〈エーライト〉ツィグポッドの先端に、リングとエスビナを配してマルチハンガーにアレンジ。ご覧の〈エバーウェア〉のケトルのほか、ランタンなども吊り下げられるように。

メインテーブルとキッチンを連動させた、コンパクトなリビングキッチン。両サイドに配置される〈カーミットチェア〉の座面は、〈ウィンディーアンドレイニー〉の特注生地で張り替えたスペシャル仕様。

左から、〈L.L.ビーン〉のソフトクーラー、〈ウィンディーアンドレイニー〉のコンテナ、〈イエティ〉のクーラーボックス。脚は〈ホリデーインザマウンテン〉のオットマンと〈バイヤーオブメイン〉のスツール。

大好きだという〈MSR〉のタン×レッドのカラーリングに合わせ、全体的に赤系とベージュ系の色味を多く取り入れたコーディネーションに。トータルコーディネイトまでしっかり楽しむ心配りは、キャンプ上級者の証し。

1.個人輸入で購入したという〈L.L.ビーン〉のコンパクトサイズのソフトクーラーは、ビール約6缶ほどの容量。小物入れとして使うことも。左手の白い筒状のケースはウェットティッシュカバー。　**2.**ふたりでの使用には必要十二分な大きさを誇る〈MSR〉のアウトフィッターウィングも、今や廃盤。シワのない美しい立ち姿に、夫婦のスキルが垣間見える。　**3.**対するテントは、同じ〈MSR〉でもバリバリの現役ベースキャンプテント、ストームキング。その名の通り激しい嵐にも耐えうるハイスペックモデル。　**4.**〈ヘリノックス〉のコットの上には〈ホースブランケットリサーチ〉のブランケット。サイト全体のカラーリングと合わせた色選びが巧み。　**5.**〈カーミットチェア〉の脚には純正ドリンクホルダーを装備。スマホ入れや小物入れとしても機能するスグレモノ。ちなみにチェアの張り替え生地も、〈MSR〉のイメージカラーと同色で特注されている。

Style No. **50**

MEMBER

___good.day__shizuさん

LOCATION

@本栖レークサイドキャンプ場

SITE SPEC

■テント：モス／デルトイド　■シェルター：サンセットクライマックス／タープ 04　■テーブル：イナウト／タートルテーブル、アレキサンダーリーチャン／リープソウスケートウィングテーブル　■チェア：カーミットチェア／サンセットクライマックス別注、バイヤーオブメイン／メインラウンジャーチェア　■ランタン：プリムス／ IP-2245A　■クーラーボックス：イエティ／タンドラ　■バーナー：コールマン／ピクニックストーブ 5409

花弁3枚の重なりをヒントに設計されたユニークな〈モス〉のデルトイド。タグにはシアトルの文字が刺繍され、この年代のものは人気が高い。設営も初見では3人用だが実際は2人が快適。

ギアの揃え方、組み合わせともに隙のない完璧なサイトレイアウト。

最低限のガイロープとペグダウンでセッティングするシンプルなモデルのタープを張り、サイト全体をスッキリとまとめていた___good.day__shizuさん。ヴィンテージものやレアなギアは『イーベイ』など海外サイトをチェックし、〈モス〉のテントをはじめ〈コールマン〉のバーナー、〈バイヤー〉のチェアなど偶然見つけて購入するということもしばしば。特に〈コールマン〉のアルミ製２口モデルはレアモデルで人気も高い。ヴィンテージギアは存在感があるだけにアイテムのみ目立ってしまうこともあるが、バーナーは使用に不便なくカスタムされ、調理用の鍋類もヴィンテージで揃えていることから違和感なく馴染んでいる。現行品との組み合わせが絶妙なバランスを保っていた。

Photo／Taizo Shukuri　Text／Mihoko Odamaki

自宅のリビングを超えカフェの雰囲気すら漂うインテリアに注目。ファニチャーは木製かつ同じトーンでまとめられ、タープの白との組み合わせが絶妙。あえて色柄モノを少なくすることで、チェアのストライプが映える。

1.〈コールマン〉のアルミ製2口モデルは本来、日本規格のガス缶は使用不可。しかしCB缶仕様にカスタムし、火力が強く出るよう調整済。同じくヴィンテージの〈ニルスヨハンクリスティーナ〉のケトルと〈マグナライト〉の鍋との相性も抜群。　**2.**〈イナウト〉のタートルテーブルの下には、別売りのアンダーストレージをプラス。素材はレザーと帆布の組み合わせ。小物はもちろんカトラリー入れとしても便利に使える。奥にあるランタンは〈プリムス〉のIP-2245Aに〈マウンテンリサーチ〉のグローブを取り付け。　**3.**〈サンセットクライマックス〉のウィングタープはエッジラインのインディゴブルーが効いている。　**4.**ドリッパースタンドは〈イナウト〉、ボトル類とグローブは〈ホリデーインザマウンテン〉。

『イーベイ』で偶然見つけた〈バイヤーオブメイン〉のメインラウンジャーチェアは、かなりレアなボーダー柄の座面。張り替えかと思いきや、オリジナルものだ。テーブルは〈ホリデーインザマウンテン〉のオットマン。チェアとのバランスが絶妙。

5.〈イナウト〉のボックスの間には、別売りの天板、コネクタを取り付けてキッチンカウンターとして活用。両サイドのボックスの上にはスタックボックスカバーもオン。手前にハンドルバーが付くので、シェラカップなどが引っ掛けられて便利。
6.テーブルは〈イナウト〉と〈アレキサンダーリーチャン〉。〈カーミットチェア〉の座面は〈サンセットクライマックス〉の別注品だ。

シンプルなサイトに適材適所のギア選びが映える。

年間40～50回はキャンプに行くというふ～さん御一行。ミニマルかつソリッドなギア類に要所で迷彩モノを差し込んだ、オトコマエなサイト作りに好感が持てる。さまざまな張り方のアレンジができることで人気の〈タトンカ〉1TCタープも、前を上げ後ろを低く落とした、シンプルな切妻スタイルで設営。有効面積を広く取った、使い勝手重視のリビングを展開した。ベーシックなアウトドアメーカーを主軸としつつ、ガレージブランドを適度に織り交ぜたアイテム構成も印象的。特定のブランドやスタイルに偏ることなく、あくまで使い勝手を優先しつつデザイン面もおざなりにしない適材適所のギアセレクトからも、キャンプリテラシーの高さが伺える。

Style No. **51**

MEMBER

ふ～さん
ふうがくん
ゆうなちゃん
ルナちゃん

LOCATION

@本栖レークサイドキャンプ場

SITE SPEC

■テント：シェラデザインズ／メテオライト　■タープ：タトンカ／1TC　■テーブル：プリムス／アジャスタブルテーブル、38エクスプローラ／ミヤパレット、バリスティクス／SBSキット　■チェア：カーミットチェア、キャプテンスタッグ／アルミ背付きベンチ、ニーモ・イクイップメント／スターゲイズラグジュアリー　■バーナー：スノーピーク／ギガパワーツーバーナー、MSR／リアクター　■ランタン：ティリー　■クーラーボックス：AOクーラーズ／ソフトクーラー、ドメティック／モービルクール

2

1

4

3

GOOD IDEA
このテクいただき！

自作のカモフラシールで調理家電をギアデザイン化。

向かって左は、ガス缶で使える〈リンナイ〉のポータブル炊飯器、こがまる。右は〈サーモス〉の保温調理器シャトルシェフ。ともにD.I.Y.で作成した迷彩シールでカスタマイズし、家電的なデザインを打ち消している。

1.〈MSR〉のシングルバーナーは、コリアンアウトドアブランド〈Gワークス〉のスマートスタンドを装着して使用。　**2.**〈スノーピーク〉の名作シェルフコンテナに天板を乗せてミニテーブルに。手前に置かれた〈スタンレー〉の水筒は、かつて〈ワイルドワン〉限定で発売された〈モンロ〉とのコラボレーションアイテム。　**3.**夏場のキャンプでは水場でのアクティビティがメインというふ～さん御一行。そんなときに便利なのが〈ニーモ・イクイップメント〉のスターゲイズラグジュアリー。フルメッシュ仕様なので、濡れたままでも使用できる。　**4.**メインのコンロには〈スノーピーク〉のギガパワーツーバーナーを選択。自立式でハイパワー。真冬でも火力が安定しているので重宝しているそう。

キャンパーから絶大な人気を誇る、ドイツのメーカー〈タトンカ〉のタープ。レイアウトアレンジが多彩なレクタ型かつ、遮光性の高さだけでなく火の粉にも強いポリコットン素材を使い、季節問わず使い勝手バツグンだ。

8

7

6

5

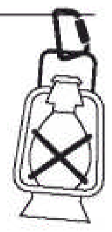
5.平面長で425×445cmという大きさを誇る〈タトンカ〉タープ1TCとはいえ、4人分のリビングセットを配置してもまだスペースに余裕あり。必要最低限に抑えたミニマムなギア構成は、キャンプ上級者の証し。**6.**ボックス類を一箇所にまとめることで、タープ下のデッドスペースを極力削減。ガス缶で冷却可能な〈ドメティック〉のポータブル冷蔵庫モービルクールも、自作の迷彩柄シールでカスタム。ちなみにこちらはベンチの張り替え生地を元にしたリアルツリー柄。　**7.**ウッドとブラックアルミのコンビテーブルを囲むチェアはカモ柄で統一。　**8.**テントは〈シェラデザインズ〉。流行りのメーカーからあえてハズしたセレクトが光る。

テントは'70年代に作られたイギリスのメーカー〈レラム〉の6人用。焚き火台、ケトル、フライパンは王道ブランドのモデル。〈レイルロードランタン〉を掛けて中央に据えたスタンドは今流行りの〈ブラックデザイン〉のもの。

ヴィンテージテント&クルマに話題のガレージブランドをミックス。

ヴィンテージテントの両サイドにワーゲンバスを停めていたゴローさんファミリー&キムさんのサイト。向かって右側がゴローさんの愛車で、左側のキムさんが乗っていたのは日本で2台あるかどうかという超レアなモデルだそう。いまどきのモデルにはないカラーリングの〈レラム〉はコットン&鉄骨テント。インナーテントはひとつだが、中に可動式の仕切りが付いているので状況に応じてワンルームにもツールームにもできる。キッチン系アイテムはラックなどは使わず、焚き火テーブルに置けるもののみに絞られている。サイト全体は一見クラシカルも実はヴィンテージ一辺倒ではなく、話題のガレージブランドや定番アイテムも揃う。新旧ギアの組み合わせは実にお見事。

Style No. **52**



MEMBER

ゴローさん
アンリちゃん
ナギくん
キムさん

LOCATION

@ならここの里

SITE SPEC

■テント：レラム／シャルドネ　■テーブル：TheArth ／しま次郎ンドル、自作　■チェア：カーミットチェア、ロナ／ビーチチェア　■焚き火台：コノストーブ　■ランタン：コールマン／ルミエールランタン、レイルロードランタン　■クーラーボックス：イエティ／グラスホッパー

1.レトロなストライプ柄のチェアは〈ロナ〉のビーチチェア。左の子ども用チェアはゴローさんのお子さんが夏休みの工作の宿題で作ったものだそう。ランタンスタンドは〈ブラックデザイン〉のシダレザクラ。　**2.**テーブルは〈サンゾクマウンテン〉のデルタスで、天板のパターンを自身でオーダーしたこだわりのアイテム。〈コノストーブ〉、〈ターク〉のフライパン、グランマコッパーケトルを合わせている。　**3.**テントの前室はキッチン&ダイニングスペースになるくらいの広さ。カーテンも当時のものそのままだ。　**4.**テーブルは自作で天板はロールトップ仕様、つなぎは革ひもを使用した。カーミットチェアの脚は〈プラットフォームロッカー〉のロッキングベース。裏面にラバーが貼られているので室内外で活用できる。

2

1

4

3

7

6

5

5.〈フォルクスワーゲン〉タイプ2、1960年式のアーリーキャンパー 13ウィンドウ。後部座席のベンチは可動式で、車内で動かせるだけでなく外にも持ち出せる。　**6.7.**キムさんの愛車、〈フォルクスワーゲン〉タイプ2は'72年型のレイトバスで車内がキャンピングカー仕様になっているウェストファリア。ハイルーフ部分だけ〈アドベンチャーワーゲン〉というアメリカのメーカーが手がけた初期のモデルで、後部のフォルムに特徴がある。中のテーブルは倒してベッドにもできる。窓が引き戸で網戸がついているのも珍しい。

Style No. **53**

MEMBER

山崎悦孝さん

LOCATION

@ならここの里

SITE SPEC

■タープ：タトンカ／ 4TC　■テーブル：DOD ／ウルトラライトパーティーテーブル　■チェア：コールマン／コンフォートチェア、ビーチチェア　■ランタン：コールマン／200A、286A、ルミエールランタン　■クーラーボックス：コールマン／ヴィンテージ　■ジャグ：コールマン／ヴィンテージ　■バーナー：コールマン／ 50A

クルマは寝床にする、という潔い選択。

キャンプ好きに起こりがちなクルマの積載問題。積載量が限られる中、自分好みのサイトを作り上げなおかつ快適さを求めるのはなかなか難しい。このサイトの持ち主である山崎さんは〈フォルクスワーゲン〉のタイプ3に合わせ、〈コールマン〉のヴィンテージギアをテントサイトの随所に混ぜ込んでいるが、古いギアほど大きくかさばってしまう。また、快眠のためコットを使いたいが、ソロキャンプなのに大きいテントを持ち出せば積載量が増えてしまう。それらをすべて解決するために選んだのが車中泊である。テントがない分荷物が減り、大きなギアを積みこめるまさに一石二鳥のアイデアだ。積載問題で頭を抱えている人は、ぜひ一度挑戦してみてほしい。

GOOD IDEA このテクいただき！

子どもが喜ぶペグマーカー。

100円均一で購入したロディーの小さな塩ビフィギュア。お腹の部分に穴を開け、ペグの頭に差し込んでマーカー代わりに。被せるだけなので設置も片付けも簡単。サイトの目印としても覚えやすくなる。

タープ下に作ったリビング中央にあるのは、〈DOD〉のテーブルで、軽量ながら大人4人が広々使えるサイズが便利。テーブルに合わせ、イス2脚もロースタイルをチョイスした。

1.〈コールマン〉の'79年製ヴィンテージジャグに合わせ、赤いバケツを水受けに使用。台はホームセンターで材料を購入し自作している。　**2.**こちらもホームセンターで買った木材で天板を作り、溶接機を使いアイアンフレームを作成。仕事柄、こうした機材を使っているため作ることができたそう。　**3.**クーラーボックスもヴィンテージで、'78年製。年代物とはいえ、1泊程度なら問題なく使用可能。　**4.**静岡で展開するD.I.Y.ホームセンター『ジャンボエンチョー』で購入したサマーベッド。脚が折り畳め本体を3つ折りにしてコンパクトに持ち運びできる。クルマの後部座席のベンチを倒すとフルフラットになるので、これをコット代わりにして車中泊する。　**5.**1967年式の〈フォルクスワーゲン〉タイプ3。'61年から'73年まで製造販売されていたモデルだ。エンジンが下に付きラゲッジルームを広く使える。またフロントフード部分も収納になっており、荷物が多く積みこめる点がお気に入り。

以前はタイプ2に乗っていたことから、車幅に合わせて購入したという〈タトンカ〉のタープ。ポールを6本使い、中央を高く上げることで屋根のように設営。コンパクトサイズのタープでも、広く影を作り出すことができる。

みつばさんが集めているという〈シュプリーム〉のアイテム。アウトドア専用ではないが、〈ルカーノ〉の脚立やLEDライト、スピーカー、〈ビアレッティ〉のエスプレッソマシーン、など野外での使用も問題ない展開が多い。

趣味と実用性を兼ね備えた、ファッションブランドとのコラボギア。

ここ数年のキャンプブームのためか、ファッションブランドとコラボレーションしてアウトドアギアを発売することが増えてきた。その中でも特に人気なのが、〈ネイバーフッド〉やGO OUT読者にはお馴染み〈ネイタルデザイン〉のギアだろう。また、キャンプ好きからも常に人気のあるブランドの〈シュプリーム〉。さまざまなメーカーとのコラボアイテムを発表し、その度に話題となっている。みつばさんはそんな人気ファッションブランドのギアを中心にテントサイトを作り上げていた。とは言っても、どのモデルも有名アウトドアブランドとのコラボが多く、スペックはピカイチ。自分好みのデザインを選びつつも、見た目重視になりすぎずしっかりと利便性も考えられているのだ。

Style No. **54**

MEMBER

みつばさんファミリー

LOCATION

@GO OUT CAMP vol.15

SITE SPEC

■テント：ザ・ノース・フェイス×シュプリーム／ストームブレイク　■シェルター：ヘリノックス×ネイバーフッド／ナノドーム　■チェア：カーミットチェア／ネイタルデザイン別注、アウトプットライフ×ペレグリンファニチャー×ネイタルデザイン　／フォールディングソファ　■テーブル：TheArth／しま次郎ンドル、しま美ンドル、バリスティクス／ SBS キット　■ランタン：コールマン／200A

1

2

3

4

5

6

1.〈ピタゴラベース〉のラックは天板のみ自分で塗装。隣にある〈バリスティクス〉のSBSキットは今年度の〈シュプリーム〉のデッキを取り付けている。　**2.**焚き火ギアは〈ミニマルワークス〉のラックに、オプションのフックを付けてハンギング。人気ガレージブランド〈アシモクラフト〉や〈ネルデザインワークス〉のアイテムが中心だ。　**3.**実は〈スタンレー〉が別ブランドとのコラボレーションで水筒を出すことは数少なく、貴重なアイテム。ナッツやお菓子を入れたガラスコンテナも〈シュプリーム〉という徹底ぶり。**4.**毎年即売り切れになる〈ヘリノックス〉×〈ネイバーフッド〉の2019年モデル。ナノドームの中は〈マックアウトドア〉のグランドシートを付けお座敷スタイルにしている。**5.**〈ソー〉のコンテナやバケツは発売されたばかりの〈ネイバーフッド〉とのコラボ。　**6.**ストームブレイクはハーフメッシュの軽量3人用テント。2018年のモデルだそう。

18+

WHAT IS AVAXHOME?

AVAXHOME -

the biggest Internet portal, providing you various content: brand new books, trending movies, fresh magazines, hot games, recent software, latest music releases.

Unlimited satisfaction one low price
Cheap constant access to piping hot media
Protect your downloadings from Big brother
Safer, than torrent-trackers

18 years of seamless operation and our users' satisfaction

All languages
Brand new content
One site

AVXLIVE.ICU

AvaxHome - Your End Place

We have everything for all of your needs. Just open https://avxlive.icu

Style No.
55

MEMBER
Nikoholic2さん

LOCATION
@ふもとっぱら

SITE SPEC
■テント：ウィーアーノットブランド／Cテント　■テーブル：TheArth／ヘキドルトン　■チェア：ザ・ノース・フェイス／キャンプチェア　■ランタン：ベアボーンズリビング／フォレストランタン　■クーラーボックス：ノーブランド　■コット：Tコット／ミルスペックコット　■バーナー：ソト／ウインドマスター

3本のサイドフレームが、3パネル構成の壁面を形成するCテント。各パネルはご覧のようにボトムをロールアップして固定することが可能。3面すべてをオープンにすれば、ウォークスルーのティピ型シェルターとしても使用できる。

玉ねぎ型のワンポールテントで広々快適なオールインワン構成に。

前ページでも掲載した韓国発〈ウィーアーノットブランド〉オフ会の参加者さん。もちろん幕は同ブランドで、使用モデルはCテントだ。1本のセンターポールと、壁面ボトムに弧を描くように通す3本のフレームで成り立つこのテント。その内部は、ティピ型テントならではの高さを保ちつつ、サイドフレームで壁面を立ち上げることにより、ティピのデメリットである壁付近のデッドスペースを極力少なくした機能的な空間に。おかげで〈TheArth〉のヘキサテーブルやコットなど、比較的大振りなギアを持ち込んでも、まだまだスペースには余裕あり。ゆったりとしたオールインワンスタイルを実現している。オトコっぽさあふれるギアセレクトにも要注目。

1.バーナーは〈ソト〉の小型マイクロレギュレーターストーブ、ウインドマスター。焼き板にはインスタグラム経由で手に入れたコバ鋼を使用。蓄熱性が高く、火を点けっぱなしにしなくてもOK。　**2.**ミリタリールックのフューエルタンクで有名な〈ヒューナスドルフ〉のアルミコンテナをサブテーブルに。〈尾上製作所〉の3段ラックをバラして脚に使い、高さを出して使い勝手を確保した。　**3.**ゴミ箱は〈オレゴニアンキャンパー〉。〈トランクゼロ〉で購入したというミリジュアリーバスケットに〈トラスコ〉のツールボックスと、オトコ心をくすぐる小物類にも目が留まる。　**4.**〈スノーピーク〉のシェルフコンテナがコーヒーテーブル。天板はインスタグラムでひと目惚れし、DMを送り直接購入した作家モノ。

テントサイトの作り込みもさることながら、やはり目を引くテーブル上の長玉レンズたち。その名前のとおり、どうやら相当なカメラホリック。そう考えると、テントを筆頭としたオトコっぽくコアなギアセレクトにも納得ができる。

 Photo／Taizo Shukuri　Text／Satoshi Yamamoto

どれを取っても主役級のギアが揃った目を見張るサイト。タープは〈ソトラボ〉のコカゲ ウィング。ミリタリーライクな無骨さを感じさせながらもシルエットが美しく、サイトを主張する。

玄人感が漂う両者の厳選したギアが光る、家族同士の交流の場。

Style No. **56**

２組の家族が和気あいあいとキャンプを楽しんでいるサイトをキャッチ。〈ヒルバーグ〉のアトラスと、〈コールマン〉のウェザーマスター ワイド２ルーム コーチを設営し、リビングは〈ソトラボ〉のタープ、コカゲ ウィングの下に設けて団らんの場所に。それを見る限り、２家族とも本気度の高いキャンプアディクトだと窺える。テントのほかに、〈カーミットチェア〉や〈イエティ〉といった高い機能性を備えた人気ブランドも愛用。しかし、使っているのはトップブランドだけではない。各所にD.I.Y.ギアが並び、既製品にはない気の利いたスペックに仕上げている。それは、キャンプを熟知しているからこそ作ることができ、ネームバリューに縛られず、なにより実用性を重視していることを表していると言えるだろう。

MEMBER

hkrファミリー
山口ファミリー

LOCATION

@Tiny Garden Festival 2019

SITE SPEC

■テント：ヒルバーグ／アトラス、コールマン／ウェザーマスター ワイド２ルーム コーチ ■タープ：ソトラボ／コカゲ ウィング ■テーブル：アウトプットライフウッドロールトップテーブル、コフラン／グリルスタンド ■チェア：カーミットチェア、キャプテンスタッグ／アルミ背付きベンチ、ヘリノックス ■焚き火台：スノーピーク／焚火台 M、ヨカ／クッキングファイヤーピット ■ランタン：ヴェイパラックス／ M320、ルーメナー ■クーラーボックス：コールマン／スチールベルトクーラー、イエティ／タンドラ

GOOD IDEA
このテクいただき！

ハンドメイドによって作り上げた使い勝手のよさを考慮したラック。

水切りのバスケット部分は、ガスボンベを下から取り付けるタイプや脚付きタイプのバーナーを設置できる仕様。また、熱い鍋などを置けるように耐熱塗料を塗ったアルミの天板を組み込むなど、かゆいところに手が届いたD.I.Y.だ。

ハンドメイドによるラックやスパイスボックスなどのキッチン周り。ソーホースブラケットで脚を作り、高さ違いのラックを完成。手前にはバーを付けて、取っ手付きのものが引っ掛けられるように工夫。

〈スノーピーク〉のシェルフコンテナの天板も自作品。ここにも耐熱塗料を使用。〈カーミットチェア〉の肘掛の下に取り付けているのは、石川県のガレージブランド〈インアバンス〉のワンズテーブル。

〈ヒルバーグ〉アトラスのテント内は、４人分のコットを設置しても、まだスペースに余裕があるほど広々。この大型サイズの割に重さ約11kgと軽量で、簡単に素早く設置することができるのが人気の秘訣。

7

3

2

1

6

5

4

1.8人が寝てもゆとりがある大型ドームテント、〈ヒルバーグ〉のアトラス。タフで軽量な素材を使用し、設営も簡単な高機能が魅力的。開口部が大きいので、シェルターとしての使うこともできる。　**2.**もうひとつのテントは、〈コールマン〉の最高峰モデル、ウェザーマスターのワイド2ルーム コーチ。４ヵ所のメッシュドアに加え、天井にもファスナーが搭載されて通気性抜群。広々とした2ルームが快適な居住性を叶える。**3.**折り畳み式のミニテーブル〈ネイチャートーンズ〉のリトルブレイクスタンド。小物を置いたり、シェラカップなどを引っ掛けたりと使い勝手がいい。　**4.**〈ヨカ〉の焚き火台の横には、その上に設置したりサイドテーブルとしても使える〈サンゾクマウンテン〉のデルタス。三角形のフォルムがほかのサイトと差をつけるにはぴったり。同じ長さの脚がそれぞれ6本付属するので、2台の高さを揃えることも可能。　**5.**〈スノーピーク〉の焚き火台の上に、〈アシモクラフト〉のアシサークルを風防としてセット。スキレットから手斧までを下げているハンガーは〈キャプテンマニア〉のもの。　**6.**〈コールマン〉のクーラーボックスは、ウッドの〈ハイランダー〉のスタンドの上に置き、〈アルテック〉のコンテナ2つは〈ユニフレーム〉のフィールドラックの上に配置した。　7.オリーブオイル缶のジャグに、〈バイヤーオブメイン〉のサイドテーブルをスタンドとして採用。

Style No. **57**

MEMBER

sj.chilloutcampさん

LOCATION

@ふもとっぱら

SITE SPEC

■シェルター：ウィーアーノットブランド／Aテント　■テーブル：DOD／テキーラフレッグ　■チェア：ニュートピア／リクライニングローチェア、イグニオ／折りたたみローチェア　■焚き火台：サンゾクマウンテン／マウンコル　■ランタン：Dr. ホッピー、ブース／ブールトゥーススピーカーランタン　■クーラーボックス：ローグアイスクーラー／ローグアイスクーラー ウィズ キャンバスシート　■ジャグ：スタンレー　■バーナー：トランギア／ストームクッカー

GOOD ITEM
このギア使える！

細かなリサーチ力で耳早ギアを迅速導入。

耳の早いキャンパーたちの間で話題を集める韓国ブランド〈ブース〉のスピーカー付きLEDランタンを導入。吊るして使えるだけでなく、付属の一脚スタンドを地面に突き刺しても設置可能だ。炎のように揺らめく光の演出もあり。

筋の通ったギア選びで玄人顔負けの無骨サイトをメイク。

続いても〈ウィーアーノットブランド〉オフ会の参加者、sj.chilloutcampさん。こちらが、前ページの同ブランドユーザーオフ会の巨大シェルターに使用されていたAテント単体の姿。天幕中央で生地が別れる２枚仕立てのデザインは、ご覧のパップテント＋シェルターのカタチで使用可能。デュオキャンプには必要十二分な広さのその幕下は、カーキカラーを基調としたミリタリーな雰囲気で統一。とはいえ決してすべて値が張るギアというわけではなく、必要な場所にはコストをかけ、そうでない場所はそれなりに抑えるという、モノ選びの本質を捉えた構成に。天性のリサーチ力と審美眼で、キャンプ歴わずか１年とは思えない無骨サイトを作り上げていた。

Photo／Taizo Shukuri　Text／Satoshi Yamamoto

ミリタリー調の佇まいでサイトセッティングに完璧にマッチするチェアは、左から〈ニュートピア〉と〈イグニオ〉のロータイプのもの。ともに3段リクライニングで雰囲気良好。それでいて値段は数千円という超高コスパ。この買い物上手!

〈ウィーアーノットブランド〉という超マニアックなテントを使用しつつ、実はキャンプ歴1年という、生まれついてのグッドセンスの持ち主。一貫性のあるギア選びとモノの本質を嗅ぎ分ける嗅覚は、ぜひ参考にしたい。

2

1

1.インナーテントの中は、大人ふたりが並んで寝られるサイズ感。若干タイトな気もするが、恋人や親子なら問題なし。
2.奥側のテント＋天幕半分と、手前側の天幕半分と壁パネル分が別生地となるAテント。ほかに、2枚の生地ともパップテントとして設営し、さらにふたつを直列で繋いだ横長レイアウトでも使用可能。この高い拡張性が人気の理由。

4

3

7

6

5

3.メインテーブルは〈DOD〉のテキーラレッグに自作の天板を組み合わせたプチD.I.Y.仕様。雰囲気あふれる佇まいに加え、底板も配し使い勝手も◎。　**4.**まだ日本上陸間もない南アフリカ生まれのクーラーボックス、〈ローグアイスクーラー〉をいち早く購入した。オリーブドラブの色味とレザーハンドルの組み合わせにひと目惚れして購入したという自慢の逸品。　**5.**半世紀以上に渡り世界中のキャンパーたちに愛され続けるアルコールバーナー、〈トランギア〉のストームクッカーが主力火器。同ブランドのメスティンや〈スタンレー〉のジャグなど、ここでも玄人的なセレクト力を発揮。台座には〈ユニフレーム〉のフィールドラックを。　**6.**愛車はランドクルーザープラド。車選びにまで統一性あり。　**7.**和柄がお気に入りだという〈サンゾクマウンテン〉のマウンコルに〈ペトロマックス〉のファイヤーボウルをセット。サイドテーブルはデルタス。

ターブとシェルター。2張りで実現する、家のくつろぎ。

Style No. **58**

MEMBER

メノファミリーの皆さん

LOCATION

@BOCH a camp by camper

SITE SPEC

■テント：ヒルバーグ／サイタリス、ウィーアーノットブランド／Ｃテント、ネイチャーハイク／モンガー、ローベンス／フェアバンクス、テンマクデザイン／パンダTC　■シェルター：スノーピーク／ランドステーション　■タープ：TheArth／幕男　■テーブル：プリムス／アジャスタブルテーブル、コールマン、モンベル／マルチ フォールディングテーブル　■チェア:コールマン、クオルツ、スノーピーク、ヘリノックス×モンロ、カーミットチェア

グルキャンを楽しんでいたメノファミリーの皆さん。特筆すべきはタープとシェルターのダブル張りだろう。タープは〈TheArth〉の幕男。５×4.2mの広さがあるとは言え、人数が多くなれば狭さを感じるのも致し方なし。そこでタープの２張りは定番だが、メノファミリーの皆さんは、まるで家のごとくキッチンとリビングを差別化。難燃コーティングがされ、グリルの使用も可能な幕男をキッチンに設定。６〜８人用の広さがある〈スノーピーク〉のランドステーションをリビングとした。無論、タープからシェルターへ料理を運ぶ手間は生じるが、その分、広々としたスペースを確保できる。食事の時間もチルの時間も、よりゆったり過ごすためのアイデアだ。

GOOD IDEA

このテクいただき！

ペグを活用した、安定性の高い防虫アイデア。

そのアイデアとは蚊取り線香立て。ペグのフック部分を地面と平行になるように曲げ、先端を蚊取り線香に刺す仕組み。そして地面に打ち込めば、しっかり安定する。鉄製の場合は溶接技術が必要だが、アルミ製ならD.I.Y.できそうだ。

1.こちらがキッチンに設定したタープの内部だ。難燃コーティングが魅力の幕尾のおかげで、〈ウェーバー〉のバーベキューグリルも使用できる。　**2.**食材や飲料に調味料、さらにはカトラリーを詰めたボックス類もタープの下へ。ちなみにクーラーボックスは、どちらもキャンパー御用達の〈イエティ〉と〈シアトルスポーツ〉によるプロダクト。

家と同様にリビングとキッチンを分ければ、ご覧のとおり、リビングに設定したシェルターが広々とする。ちなみにテーブルにセットされたチェアは、メンバーそれぞれの持ち寄り。それゆえのカラフルさが心を躍らせる。

Photo／Taizo Shukuri　Text／Kyoko Oya

グルキャンともなれば、メンバーごとに料理の得手不得手も出てくる。そうした意味でも、リビングとキッチンを分けるのは合理的。料理好きがタープの下で腕をふるい、出来上がりを待つ人たちはシェルターで会話を楽しむ。

5

4

3

8

7

6

3.リビングに設定したのは〈スノーピーク〉のランドステーション。張り方によって開放具合が多彩に調節でき、フルクローズすれば、プライベート感もしっかり得られる。　**4.**こちらは軽量さと手頃なプライスで知られる、中国発の〈ネイチャーハイク〉によるモンガー。デッドスペースを省いたインナーのデザインにより、コンパクトに見えて十分な居住スペースが確保されている。　**5.**アーチ型の大型ウィンドウが採用され、出入りのしやすさに定評のある〈ローベンス〉のフェアバンクス。インナードアと天井部にメッシュが施され、虫の侵入に強いのも魅力だ。　**6.**〈ヒルバーグ〉のサイタリスからインナーのみを使用し、日除けには〈テンマクデザイン〉の焚火タープTC　ウィングをセット。　**7.**火の粉が舞っても穴が開きにくい独自素材を採用し、天井の高さと広さから人気を博す〈テンマクデザイン〉のパンダTC。やや重めながら、快適性は抜群だ。　**8.**韓国発の〈ウィーアーノットブランド〉によるCテント。その名のとおり、ポールのしなりによってCの字にオープンするシルエットが特徴だが、ここをクローズさせれば、ワンポールテントとして使用できる。

大型の2ポールシェルターは〈ニーモ・イクイップメント〉のヘキサライト6P。個性的な形が人気を呼び、この大きさなのに軽量で設営も簡単。さまざまな張り方が可能で、天候に合わせて自由自在に変えることができるのも魅力だ。

Style No. **59**

ユニークなフォルムのシェルターとテントで個性を主張。

こちらのサイトでまず目に留まるのは、発売と同時に在庫が枯渇した〈ニーモ・イクイップメント〉の２ポールシェルター、ヘキサライト６P。561 × 470cm と大型で、大人数用のタープとしても使える人気作。なにより、インパクト抜群のルックスがポイントだ。そんな見た目のよさと広さを兼備している幕内は、奥にキッチンやクーラーボックスなどを配して、中央をリビングにレイアウト。それでもまだ余裕が残るほど。据えているテントは、同ブランドのメタ 2P と、〈オガワ〉のピルツ 9。ともにシルエットが独創的で、シェルターとテント２張りが並んでいる様子はまさに圧巻。オリジナリティのある大物ギアを選ぶだけで、簡単にほかのサイトと差をつけることができる。

MEMBER

カトケンさん
さおりさん
ヨースケさん
エリカさん

LOCATION

@Tiny Garden Festival 2019

SITE SPEC

■テント：ニーモ・イクイップメント／メタ 2P、オガワ／ピルツ９　■シェルター：ニーモ・イクイップメント／ヘキサライト 6P　■テーブル：ハイランダー／ウッドロールトップテーブル、ユニフレーム／焚き火テーブル、ブルーリッジチェアワークス／パークウェイピクニックテーブル　■チェア：オガワ、ヘリノックス／チェアワン、ハイランダー／ローチェア　■ランタン：ベアボーンズリビング／ビーコンライト　■クーラーボックス：イエティ／ローディ　■ジャグ：ミンテージ　■バーナー：イワタニ／タフまる、カセットフーマーベラス

2

1

1.〈スノーピーク〉のちゃぶ台に、〈イワタニ〉の人気バーナー、マーベラスを配置したロースタイル。バーナーのグリーンがテントやエアクッションなどと、さりげなく色合わせ。　**2.**テーブルや台として使えるように、コンテナの蓋の裏に天板を取り付けている。ロールトップ式なので、収納もコンパクトになる。隣のビニール製のバッグは〈ハイタイド〉のタープバッグ。

4

3

3.ロースタイルで選んだテーブルとチェア。リビングはごちゃつかせず、シンプルにレイアウトしているところが好印象だ。レッドやグリーンといったカラフルなギアがサイトのアクセントにも。　**4.**枯れ枝を現地調達して取っ手にする、遊び心満載の〈ブッシュクラフト〉のフライパンが活躍中。こちらで使用しているバーナーは、〈イワタニ〉のタフまる。

絶妙な曲線とステンレスの輝きが美しい〈ミンテージ〉のジャグに、パタゴニアのステッカーを貼ってカスタマイズ。ポップなイエローの水受けは、〈シアトルスポーツ〉。小さく折り畳んで持ち運べる。

手軽においしい燻製料理ができあがる〈ユニフレーム〉のフォールディングスモーカーがあれば、食事にプラスー品の楽しみが増える。大容量なので、大きめの食材やたくさんの量を一度に燻せる。

GOOD IDEA
このテクいただき！

ポールとチェーンで作る、どこでも設置可能な物干し。

タープポールとデイジーチェーンを使った物干し。輪っかの部分にハンガーを掛けられるので、濡れたもの同士が干渉することがない。周囲に木がないフェスキャンプなどの草原のサイトでは、伸縮タイプのタープポールや使い回しが効くデイジーチェーンがなにかと役に立つ。

6

5

5.独特な形状が目を引くテントは、アメリカを拠点にするブランド〈ニーモ・イクイップメント〉のメタ2P。本体重量が約1.5kgとウルトラライト仕様で、高い人気を博しているモデル。　**6.**こちらは〈オガワ〉のピルツ9。特徴的な八角錐のシルエットがキャンプサイトで目立ち、個性を主張してくれる。見た目のとおり天井が高く開放感に溢れている。

少人数のサイトでも大型タープを使い快適な空間をメイク。

思うままに過ごせるソロキャンプもいいが、気の知れた仲間とともに、いつもと違う場所で時間を共有するのもいいものだ。それを体現するかのように、食事を楽しむ男女４人組のグループを発見。各々がギアを持参して作り上げたというサイトは、秀逸なアイデアが随所に見受けられる。偶然なのか狙ったのか、組み合わせているテーブルはほぼ同じ高さで、広々ゆったりと食事を堪能できる。そんなリビングを覆うのは、〈ノルディスク〉の大型タープ、カーリ20。４人のサイトでは少し大きいかもしれないが、リビングがまるっとすべて収まり、結果的にまとまったレイアウトに。それぞれがギアを持ち寄るということは、キャンプ当日までの準備で、誰が何を持っていくか相談している時間でさえも、ワクワクするに違いない。

Style No. **60**

MEMBER

まっちゃんさん
えびちゃんさん
さわまいさん
なるさん

LOCATION

@Tiny Garden Festival 2019

SITE SPEC

■テント:ティクラ／ティーハウス　■タープ:ノルディスク／カーリ20　■テーブル：スノーピーク／アイアングリルテーブル、コールマン／ナチュラルウッドロールテーブル、ユニフレーム／焚き火テーブル、196／ウッドテーブル　■チェア：ニトリ、ヘリノックス／コンフォートチェア、クイックキャンプ／２人掛けフォールディングベンチ　■焚き火台：ユニフレーム／ファイアグリル　■クーラーボックス：イエティ／タンドラ、コールマン×ビューティーアンドユース　■バーナー：イワタニ／ P2243PA

GOOD IDEA
このテクいただき!

手軽なD.I.Y.で利便性と防汚性を確保したスタンド。

世界中で絶大な人気を集める〈イエティ〉のクーラーボックスをセットしているのは、端材を組み合わせて自作したスタンド。地面に直置きして汚れる心配がないだけでなく、安価な材料で手軽に作ることができるの点もオススメだ。

2

1

1.〈196〉のウッドテーブルと〈スノーピーク〉のアイアングリルテーブルを組み合わせ、調理場と食卓の動きを最小限に。アイアングリルテーブル手前にはオプションテーブルを取り付け、より広く使えるようにカスタマイズしてある。　**2.**キッチンラックは、日曜大工を趣味に持つメンバーのお父さんが作ってくれたそうだ。組み立て式で、脚は薄く折り畳めるので積載がラク。

5×4mの大型長方形のタープは、〈ノルディスク〉のカーリ20。7から10人までに対応するほど大きく、自由にレイアウトすることができる。それぞれのギアは、ウッド製のものが多いので、ベージュのカラーが絶妙にマッチした。

5

4

3

3.カリフォルニア発のキャンプギアブランド〈ティクラ〉のテント。四方にエントランスと窓が搭載され、通気性がよく、テント内からも外の景色を眺められる。　**4.**〈ユニフレーム〉のファイアグリルは、使い込んで味わい深い表情を醸す。その隣に〈マーキュリー〉のキャンバスバケツを配置し、焚き火道具を収納した。　**5.**〈196〉ウッドテーブルの下段に、同じ長さのオプションテーブルをつけて収納スペースに。この一台だけでも4人で使えるほど広い。ナチュラルなウッドのカラーが優しいが、この色はすでに廃盤になっている。

〈キャンパーズコレクション〉のUVヘキサゴンタープはUVコーティングが施され、紫外線を90%以上カット。付属のポールにはじめからランタンフックが付いているところも、日本ブランドならではの気配りが見える優秀ギアだ。

国内外のブランドをバランスよくセレクト。

〈ヘリノックス〉や〈コールマン〉、〈イエティ〉といった海外ブランドを取り揃えているなか、国内ブランドのギアも多く取り入れていたこちらのサイト。新潟に本拠地を置く〈スノーピーク〉や〈ユニフレーム〉をはじめ、家電・家具の老舗メーカーである〈山善〉が展開する〈キャンパーズコレクション〉、アウトドアショップ『ワイルドワン』のプライベートブランド〈クオルツ〉、そして日本のアウトドアシーンを牽引してきた〈ロゴス〉のギアが並んでいた。特に、同ブランドのモダーンランタンと薪ラックテーブルの洗練されたルックスと機能性は必見。クオリティーとコスパに優れたギア選びは、ビギナーのみならずキャンプ上級者にも参考になるはず。

Style No. **61**

MEMBER

あいさん
せいやさん
けいさん
はるさん

LOCATION

@Tiny Garden Festival 2019

SITE SPEC

■テント：スノーピーク／アメニティドームM　■タープ：キャンパーズコレクション／UVヘキサゴンタープ　■シェルター：ヘリノックス／タックフィールド4.0　■テーブル：コールマン／ナチュラルウッドロールテーブル、ユニフレーム／焚き火テーブル　■チェア：ヘリノックス×ホワイトマウンテニアリング／スイベルチェア、ヘリノックス／タクティカルサンセットチェア、クオルツ／ローテートチェア　■焚き火台：ユニフレーム／ファイアグリル　■ランタン：ロゴス／バンブーモダーンランタン　■クーラーボックス：イエティ／ローディ、ロゴス／ハイパー氷点下クーラー　■コット：ヘリノックス／タクティカルコット、コットワン

5

2

1

4

3

6

1.リビングは、2段階に高さを調節できる〈コールマン〉のナチュラルウッドロールテーブルでロースタイルに。さらに〈ユニフレーム〉の焚き火テーブルをサイドに繋げ、食事はもちろん調理もでき4人がゆったりと使えるスペースを確保。　**2.**焚き火台は調理にも活躍する〈ユニフレーム〉のファイアグリル。食材や小物を置くテーブルは、アウトドアショップ『ワイルドワン』のプライベートブランド〈クオルツ〉のスラットトップテーブルを使用。　**3.**広い前室をキャノピーとして利用できる〈スノーピーク〉のアメニティドームM。アウトドアビギナーでも扱いやすく、いまだ衰えぬ人気を誇る高コスパなテント。　**4.**シェルター兼寝室として使う〈ヘリノックス〉のタックフィールド4.0。遮光性の高いドア部は、跳ね上げてタープ状に使用できるのが便利。　**5.**ゴツい見た目のジャグは、クーラーボックスとしても利用できる〈ディーライト〉のアイスバケツ。〈アイスランドクーラー〉製造によるOEM製品で保冷力は折り紙付き。　**6.**〈ロゴス〉のモダーンランタンはボディに竹を使用したデザインがお気に入り。充電式、無段階調光できる暖色LED、モバイルバッテリー機能など性能面も充実。

Photo／Taizo Shukuri　Text／Showgo Komatsu

GOOD ITEM
このギア使える！

テーブルが広く使える、ランタンハンガー。

埼玉のショップ『キャンプヒル』で購入したランタンスタンドは、韓国ガレージブランド〈オーヴィル〉のエッジスタンド。テーブルの端に挟むように取り付け、3本のポールで長さ調整できる。

Style No. **62**

MEMBER

よしさん
torajiさん
はなさん

LOCATION

@GO OUT CAMP vol.15

SITE SPEC

■テント：ヒルバーグ／アルタイ XP、アラック３　■テーブル：プリムス／アジャスタブルテーブル、モンベル／マルチフォールディングテーブル、TheArth ／シマ次郎　■チェア：ヘリノックス ／スイベルチェア、カーミットチェア、カーミットチェア、ニーモ・イクイップメント／リラックスフォールディングベンチ　■ランタン：ティリー／ガーズマン　■クーラーボックス：イエティ／タンドラ　■焚き火台：ムラコ／サテライトファイヤーベース　■バーナー：イワタニ／カセットフー マーベラス

話題のアイテムが勢ぞろいする、最新スタイル。

〈ヒルバーグ〉アルタイの限定カラーのテントに〈モンベル〉の最新テーブル、〈ニーモ・イクイップメント〉の人気チェアは今年発売されたの新カラー。毎年続々と発売されるアウトドアブランドのギアの中でも、特に注目されていたアイテムがずらりと並ぶこのサイト。それでもミーハー感が少ないのは、アイテムの機能性を最大限に活かしたレイアウトを展開していただからだろう。アルタイは夜のリビングに使うことから、あえてタープは張らずに青空リビングでくつろぐ。その分気持ちのいい日中はスターゲイザーで昼寝を楽しむ。テーブルは高さが変えられるため、子どもの身長に合わせシーン別に使い分ける。まさに外遊びを満喫するための道具選びといったところ。

2

1

1.外に置いたリビングは、〈プリムス〉のアジャスタブルテーブルと〈モンベル〉のマルチフォールディングテーブルをセット。どちらもハイスタイルでの使用も可能で、高さもぴったり。　**2.**ログキャリーは〈ハングアウト〉のものだが、天板はステンレス素材を使った新モデル。焚き火で調理したダッチオーブンやケトルをそのまま置くことができて便利。従来のウッドの天板とシーン別に使い分けることもできる。

6

5

4

3

3.入荷後すぐ、昭島にあるアウトドアヴィレッジ内『エイアンドエフ』に問い合わせ、運よくゲットできたというアルタイXPのタンカラー。12人が座れるという広い室内は子どもの遊び場にもぴったり。　**4.**トップの高さが200cmあるアルタイだが、ロースタイルでより室内を広く見せる工夫が。〈TheArth〉のテーブルを囲むようにレイアウトを作り、〈バーラー〉のヴィンテージストーブで寒さ対策も完璧。　**5.**焚き火台は〈ムラコ〉から発売されたばかりの話題作。枠組みのギミックがおもしろく、ギア好きの心をくすぐる逸品。メッシュ素材の火床のため薪は少量しか載らないがコンパクトさがお気に入り。　**6.**寝室はアラック3。家族3人でぴったりサイズだが簡単に設営できるので、小さな子どもがいるファミリーには嬉しいモデル。

タープは使わず陣幕でプライベート感を出す。幸運にも晴れ間が続いたイベント中、スターゲイザーのほか『イーベイ』で購入したイギリスのヴィンテージコットでくつろぐ。生地は破れてしまったため、自分で張り替えたそう。

テントにタープ、テーブルやラックにチェアもブラウン系で統一された物欲夫婦さんのサイト。このサイトのアクセントは、ご覧のとおりに赤。あくまでも差し色として赤を使うバランス感が、嫌みのないおしゃれさの秘訣だ。

玄人の雰囲気とセンスが同居する、サンドカラーのテント＆タープ。

見るからにハイセンスな物欲夫婦さんのサイト。外連味のないブラウンを基調に、アクセントの赤が映える。テントは〈ヒルバーグ〉のサイタリスだが、高所登山のベースキャンプにも対応する屈強さだ。大人４人が眠れるスペースに荷物を丸ごと置ける前室も備え、2人で過ごすとなれば悠々自適。タフさと広さを備えた玄人仕様でありながら、設営は初心者にも優しい自立式だ。そしてタープは〈ウィンディーアンドレイニー〉のスターライトタープ。10枚の生地パーツが織りなす正五角形は、張り方によって遮光具合も自在。シルエットの美しさはもちろん、生地が重なる中心部は星形になるように縫製され、そのデザイン性の高さから、発売直後に完売を繰り返す人気ぶりだ。

Style No. **63**

MEMBER

物欲夫婦さん

LOCATION

@山伏オートキャンプ場

SITE SPEC

■テント：ヒルバーグ／サイタリス　■タープ：ウィンディーアンドレイニー／スターライトタープ タンカラー■　テーブル：キャンプホリック／アイアンフレームシェルフ　■チェア：カーミットチェア　■ランタン：デイツ／モナーク　■クーラーボックス：シマノ／フィクセル プレミアム、シアトルスポーツ　■ジャグ：コールマン／ヴィンテージ　■バーナー：プリムス／オンジャ

ハイタイプのキッチン用シェルフは、惜しまれつつも活動を中止したガレージブランド〈キャンプホリック〉のプロダクト。脚はタフなアイアン製、さらには地面をしっかりつかむような補助脚により、抜群の安定感だ。

カーミットチェアの着せ替えジャケットは〈ウィンディーアンドレイニー〉。こちらは特別に作ってもらったという唯一無二のデザイン。レッドカラーのパイピングが特徴的だが、背もたれにはカイロを入れられるポケットも。

1.〈ヒルバーグ〉のサイタリスは雪山でも使用可能なタフさ。ちなみにカラーは、サンドとレッドにグリーンの3種類。　**2.**差し色として利いているフィールドラックは〈ユニフレーム〉のプロダクトだが、『ワイルドワン』の越谷店と名古屋店のみで発売されたという限定モデル。ジャグ台は〈ネイチャートーンズ〉の現行品だが、ジャグは1978年製のヴィンテージと、やはりレアなアイテムだ。**3.**コーヒー好きという物欲夫婦さん。湯を沸かすツーバーナーは〈プリムス〉のオンジャ、ドリッパーとミルはコーヒー好き御用達の〈ハリオ〉。

シェルターは〈オガワ〉のツインピルツ。両面オープンが可能なことからタープ風にも使える。設営のクイックさにも定評があり、8ヵ所のペグダウンと2本のポールを立てるだけ。設営に時間をかけられないファミキャンの味方だ。

Style No. 64

MEMBER

eijiさん
tomomiさん
sawaちゃん
naoくん

LOCATION

@Tiny Garden Festival 2019

SITE SPEC

■テント：マーモット　■シェルター：オガワ／ツインピルツ　■テーブル：ハイランダー　■チェア：バイヤーオブメイン／パンジーンラウンジャーチェア、ノーブランド　■ランタン：ソト／フォールディングランタン ST-213　■クーラーボックス：イグルー　■ジャグ：ソト／ウォータージャグ ST-620LV　■バーナー：ソト／ハイパワー２バーナー ST-525

コンパクトに運んで悠々とくつろげる、ツインピルツの魅力。

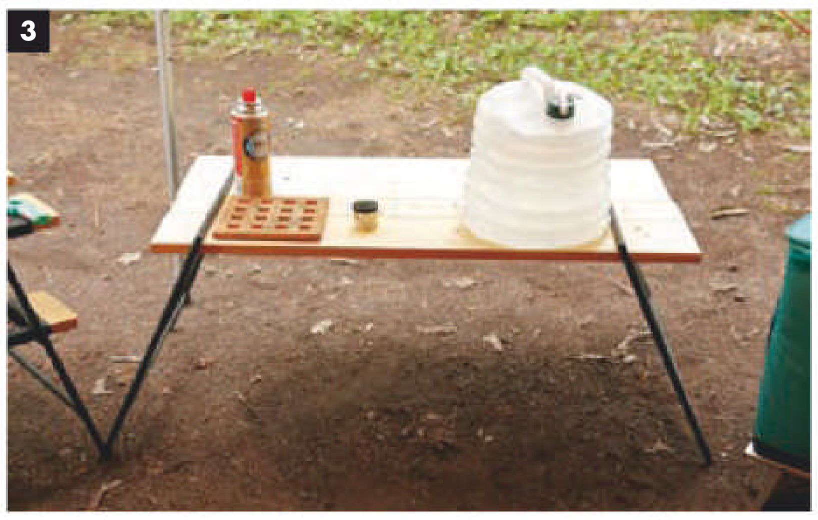
フェスキャンのネックを挙げるとするなら、駐車場までの距離。少しでも労力を軽減するための最適解がワゴンによるギアの運搬だ。〈テントファクトリー〉のキャリーワゴンは収納部の深さ 25cm、耐荷重は80kg。〈オガワ〉のツインピルツは家族４人が悠々と憩える広さでありながら軽く、収納性の高さからワゴンの内部にすっぽり収まる。ツインピルツは汎用性にも優れ、両面・片面オープンにフルクローズの３パターンが可能。eiji さんファミリーに習い、屋根の下にテントを張れば、突然の雨にも対応できる。そして特筆すべきなのが、ワンポールテントを２つ並べたようなフォルム。オプションのインナーが両端にセットでき、２部屋仕様にもできるという優れ物。

手前に見える2脚は〈バイヤーオブメイン〉のラウンジャー。後ろに見えるテーブルセットは、テーブルが〈ハイランダー〉のロールトップテーブル、チェアは『アルペンアウトドアーズ』で購入したというノーブランド。

手前に見えるサンドカラーの布製ボックスは〈ハイランダー〉のダストスタンド。生地の内側に取り付けられたループにゴミ袋をセット。ゴミ袋が露出せず、スタイリッシュなサイトを望むなら持っていたいアイテムだ。

1.寝室として持ち込んだのは山岳用のテント。山の過酷な環境にも耐えうるタフな設計はもちろんのこと、さすがの軽さかつ、多様な地形にも対応するユーティリティプレーヤー。登山をしないキャンパーでも重宝する。　**2.**『コーナン』で購入したという折り畳み式のウッドラックを用いた、真似したいアイデア。細々としたギアを詰めたボックスを収めれば、まさに引き出し感覚だ。　**3.**こちらがギアの運搬に役立つワゴン。中に収納されたコンテナは耐水性、耐寒性、さらには高度な復元性を備えた〈ブルート〉のトートボックス。

 Photo／Taizo Shukuri　Text／Kyoko Oya


3

2

1

6

5

4

1.小屋を意味するモデル名のシャックのとおり、タイニーハウスのようなかわいらしい見た目。子どもがまだ1歳ということで、壁が垂直に立ち上がっているほうが広く使える。エントランスにホームセンターで購入した蚊帳を装着。　**2.**バンブーテーブルを中心にレイアウトしたタープ下。〈オンウェイ〉のチェアはアウトドアのECサイト〈ナチュラム〉の別注品。ベージュでカラーを合わせて統一性を持たせている。　**3.**〈DOD〉のテキーラレッグに、ホームセンターで購入した板を組み合わせて作ったテーブル。高さと幅が収納ラックとして使いやすい。　**4.**左右非対称のデザインが快適な空間を作り出す〈ユニフレーム〉のレボタープ。張り方はヘキサタープだが、スクエアタープの居住性を実現した。状況に応じて張り方を変えられる。　**5.**〈DOD〉のテキーラテーブルをバーナー置きとして活用。アイアンの素材感が、〈ユニフレーム〉ツインバーナーのアルミボディと調和し、インダストリアルな雰囲気を醸す。　**6.**〈コールマン〉のソフトクーラーは2年ほど前にリリースされたもの。鮮やかな色合いが、ナチュラルなテイストにまとめたサイトによく映える。

レトロで温もりを感じさせる丸太小屋のようなテントが主役。

特徴的な〈ローベンス〉の６人用キャビン型テント、プロスペクターシャックがキャンプサイトの中でも異彩を放つ。アメリカの先駆者たちが使っていた丸太小屋をイメージしたデザインで、ヴィンテージのような雰囲気を備えている。アウターには独自開発の特殊なポリコットン素材を採用。通気性に優れ、夏は涼しく冬は暖かい、通年使えるテント。標準装備で後部に煙突ポートが備わっているので、ストーブを持ち込めば冬キャンプにも活躍すること請け合いだ。それを軸に、荷物を最小限に抑えたレイアウトですっきりとした印象。必要以上の調理器具や焚き火台なども省き、極力シンプルに仕上げている。まだ子どもが小さいので、設営と撤収は簡略に越したことはない。

Style No. **65**

MEMBER

肥田 出さん
美乃さん
瑞生くん

LOCATION

@Tiny Garden Festival 2019

SITE SPEC

■テント：ローベンス／プロスペクターシャック　■タープ：ユニフレーム／レボタープ　■テーブル：ニュートラルアウトドア／バンブーテーブル　■チェア：コールマン／コンパクトフォールディングチェア、オンウェイ／ナチュラム別注 エッチングチェア　■クーラーボックス：コールマン／ソフトクーラー　■ジャグ：キャプテンスタッグ　■バーナー：ユニフレーム ／ US1900

〈ユニフレーム〉のタープ、レボタープは、解放感ある心地よい居住スペースを美しく張ることができる。タープとテントの大物ギアを同じカラーで合わせたことで、ギア数が少ないシンプルなレイアウトにまとまり感をプラスした。

Photo ／ Taizo Shukuri Text ／ Showgo Komatsu

キレイに張られた〈テンマクデザイン〉ウィングタープの凛とした立ち姿が、視界の開けたふもとっぱらのフィールドに冴え渡る。その背後に佇む、〈ジープ〉ラングラーアンリミテッドのホワイトカラーとのマッチングも◎。

Style No.

66

MEMBER

ムトウさんファミリー

LOCATION

@ふもとっぱら

SITE SPEC

■テント:ゴーライト／シャングリラ５ ■タープ：ヒルバーグ／ UL20、テンマクデザイン／焚き火タープ TL ウィング ■テーブル：ニトリ／ウッドテーブル、ユニフレーム／焚き火テーブル ■チェア：ヘリノックス／チェアワン、ノーブランド ■焚き火台：キャプテンスタッグ／ラウンドファイアベース ■ランタン：コールマン／ 288A、バタフライランタン ■クーラーボックス：ケルティ、キャプテンスタッグ ■コット：クイックキャンプ ■ジャグ：MSR ／ドロメタリーバッグ ■バーナー：コールマン／パワーハウス 413H

控えめかつ適切なアイテム選びのシンプルスタイル。

欲張らずシンプルに、ただ純粋に家族でのソトアソビを満喫する。そんなベーシックなサイトセッティングでファミリーキャンプを楽しんでいたムトウさん一家は、適切なギアを適切な分だけ持ち込みタープ下に凝縮させた、ミニマルなスタイリングが好印象。そういった中でも、〈テンマクデザイン〉の焚き火ウィングタープや、今や希少な傑作ワンポールテント〈ゴーライト〉シャングリラ5、〈ヒルバーグ〉のUL20タープなど、こだわるべき部分にはしっかりとこだわったギア選びも見逃すべからず。ワンポールテントのデメリットをカバーするタープ使いや自由で実用的なギア使いなどは、キャンプ初心者から上級者まで、きっと見習う部分が多いはず。

5

2

1

4

3

GOOD ITEM このギア使える！

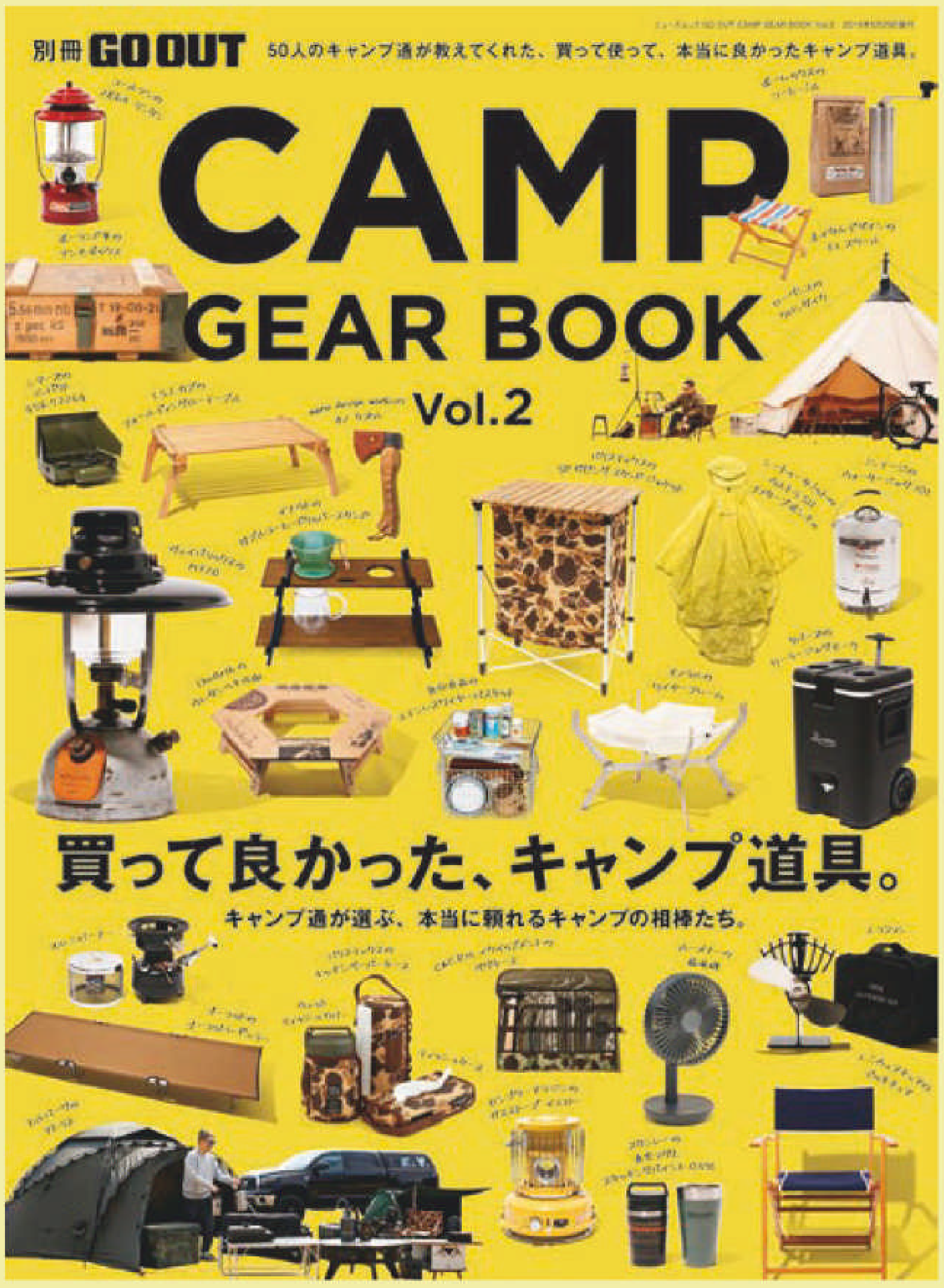
調理効率が上がる秀逸ギアを発見！

バーナー側面に直接固定できる〈キャプテンスタッグ〉のツーバーナー用サイドテーブルを設置。意外と知られていないアイテムだが、調味料なども置けて使い勝手はバツグンだそう。

1.タープ下にすべてが収まるよう配置されたリビングは、テーブルからギアラックまで一直線にレイアウトし動線を確保。 **2.**焚き火台は〈キャプテンスタッグ〉。重量はあるものの、その分安定性も高い。〈キャンプマニアプロダクツ〉の焚き火用ハンガーと組み合わせて使用。 **3.** いまいちパッと晴れなかった当日の天気を踏まえ、寝床となる〈ゴーライト〉のシャングリラ5の上には〈ヒルバーグ〉のタープをかぶせて過保護張り。前室の設定がないシャングリラシリーズには特に有効なスタイルだ。 **4.**〈キャンピングムーン〉のラックの上に置かれたのは、〈ケルティ〉のセミハードクーラー。フォールディング可能で、上蓋には便利なドリンクホルダー付き。となりは〈キャプテンスタッグ〉。レトロなグラフィックが雰囲気良好。 **5.**ジャグには〈MSR〉のドロメタリーバッグを使用。スタンドには、前述した〈キャプテンスタッグ〉の焚き火台とセットだったトライポッドを流用した。

 Photo／Taizo Shukuri Text／Satoshi Yamamoto

おしゃれアウトドア情報満載!!
GO OUTは、毎月30日発売。



買って、使って、本当に頼れるキャンプ道具が満載。

別冊GO OUT
「CAMP GEAR BOOK vol.2」
絶賛発売中

contents

キャンプ通30人が選んだ、本当に頼れるキャンプの相棒。
買ってよかった、キャンプ道具。

ファッションフィーリングなキャンプ家具なら、
このブランドにお任せ。
CAMP FURNITURE CATALOG

先達たちのマイ定番ギアから、
本当に手に入れるべきキャンプ道具を知る。
これ買って、絶対間違いない!
20人の定番キャンプ道具。

GO OUT CAMPの常連に、教えてもらいました。
「はじめてのギアの選び方」座談会。

アウトドア好きが選んだ愛車を拝見。
キャンプなクルマ決定版。

別冊GO OUT
「CAMP GEAR BOOK vol.2」
定価：本体917円 ＋税

三栄 SAN-EI CORPORATION
販売部 TEL03-6897-4611（受付時間／平日10:00～17:30） 〒160-8461 東京都新宿区新宿6-27-30 新宿イーストサイドスクエア7F www.sun-a.com/

CAMP WITH MY CAR

キャンプな、愛車。

アウトドアラバーが選んだ、自慢のクルマ。

テントサイトがカッコいい人は、クルマもイケてる場合が多い。それは外遊びもライフスタイルのひとつとして、アウトドアギアもクルマも自分の好みを最大限に反映させているからだろう。そんなオシャレキャンパーが選んだ、キャンプの相棒とテントサイトを拝見。

Photo／Taizo Shukuri Text／Takehiro Hakusui

'89 VOLKSWAGEN
Type 2 T3(Caravel)

OWNER ／ えんかずさん@ならここの里

ヴァンとワゴンのいいとこ取りから、通称ヴァナゴン。

ドイツは〈ウエストファリア〉社のカスタム仕様から、一躍キャンピングカーの代名詞ともなった〈フォルクスワーゲン〉のタイプ2。当初はいわゆる商用車としてデビューし、'50年代半ば頃から一般市場にも参画、現行第六世代まで全6期にわたり変遷を繰り返したモデル。1979年に発表された第三世代は、当時国内代理店を務めた『ヤナセ』によってカラベル名義で展開されるも、'90年にメーカーの日本法人が設立され、北米市場での愛称でもあったヴァナゴンを継承。どちらも正式名称なため、今なおその表記が混在しているのだ。

車内は前オーナー自作という3列シート仕様。2列目はベンチシートなのでゴロ寝もラクラク。テントやタープをわざわざ設営しなくとも手軽に車中泊できるのがキャンピングカーの最たるアドバンテージ。もちろんオーニングを使用すれば車外リビングもしっかり確保できる。

運転席&助手席は回転式となっているので2列目との対面が可能。雨天など悪天候時でも車内リビングを使い優雅に食事やレクリエーションを楽しむことができ、足を伸ばしてうたた寝もOK。

3列目の自作シートを倒せばベッドが完成する。シート下部がストレージにも活用できるため、シュラフやマットなどの収納も。フルフラットで大人2人＋子どもひとりなら余裕のスペースがあるとか。

カーオーニングも前オーナーが残してくれた。聞いたところ車内インテリアはキャンパーではなかったものの、仕様は完全に外遊びに寄せてくれていたとか。なんとサイクルキャリアまで付属する。

ジャグは奥様の叔父さん宅に眠っていたというミッドセンチュリー風情な国産ヴィンテージの代物。〈ユニフレーム〉のフィールドラックをベースに、ステンレスの水切りカゴで利便性をプラスした。

'70 VOLKSWAGEN
Type 2 T2 (Late Bus)

OWNER ／ TSUKAさん@ならここの里

通称アーリーレイトと呼ばれる、第二世代の最初期型。

こちらは1967年にデビューしたタイプ2の第二世代にあたる通称レイトバス。ファンの間ではアーリーレイトとも呼ばれる '71 年まで製造された初期型 '70 年式。前任となる T1 からスタイリングが一新され、1 枚に刷新されたフロントウインドシールドや各部視認性を高めた窓の形状からベイウインドウ（出窓）バスとも呼ばれている。本車はインテリアをキャンプ仕様にオーナーみずからカスタマイズ。ベンチシートにもベッドキットを用い、テントいらずで主寝室に。各種ギア類も同年代のものを合わせるなどこだわりが見て取れた。

オーナメントとしても活用できるコットン100％のレクタタープは、『キャンプオンパレード』にフルオーダーしたもの。カーサイドにポールいらずで接続できるよう工夫が凝らされている。両サイドにハンギングしたヴィンテージランタンは、〈コールマン〉の 200Aで統一していた。

後部座席のベッドを起こすとベンチシートに早変わり。既成のベッドキットを採用したとか。就寝前は夫婦水入らずで優しい葉ずれの音や虫の声を聴きながらまったりコーヒーでも。羨ましい限り。

後部座席をフルフラットに倒せば、もはや我が家と同等の快適性。暑い夏場以外は窓を少しだけ開け、外気を感じながらグッスリ就寝できる。この広さと快適性はテントにはない魅力のひとつだろう。

キッチンラックは英国は〈ハゴ〉、半透明のクローブが印象的なフランスの老舗〈キャンピングガス〉のガスランタンは共に'70年代のヴィンテージ。バーナーはシンプルな〈コベア〉のものを選択。

テーブルは'70年代頃の英国ヴィンテージ、パイプチェアも同じく英国製の'70sで蚤の市で手に入れたものとか。背後に見える2バーナーも〈コールマン〉の'70sと年代の統一も実にお見事。

'64 VOLKSWAGEN
Beetle Type 1

OWNER ／ 大石大貴さん@ならここの里

世界最多の累計生産台数を誇る、レジェンダリーモデル。

ヒトラー政権化の1930年代に生産を開始して以来、実に半世紀以上も継続展開され、世界最多の累計生産台数を数える伝説の名車ビートル タイプ1。2013年に最終型となるメキシコ製モデルのディスコン以降、後継となるニュービートルへとその座を譲った。オーナー所有の'64年モデルには、知人から譲ってもらったという同年代のルーフキャリアが装備され、クルマをメインに選び抜かれたクーラーボックスなどのギアたちもヴィンテージが中心。さり気なく色合わせすることでトータル感も巧みに演出しているところも見どころだ。

カーサイドタープを思わせるコンパクトなリビングスペース。チェアは2脚とも〈ヘリノックス〉チェアワンで揃え、子どもはまだ0歳なのでお母さんの膝の上が指定席。卓上照明には〈スノーピーク〉ノクターンを、メインランタンは〈コールマン〉シーズンズランタンをご愛用。

タープは耐水性に優れたポリコットン素材で織り上げた〈タトンカ〉の2TC。コットンを混紡することで難燃性にも優れ、かつタープにマストな遮光性、速乾性、撥水性、透湿性などをフル装備。

メイン幕は〈ヘリノックス〉のアルパインドーム2Pをセレクト。山岳テントならではの10デニールの超軽量ナイロンにチェア同様〈DAC〉社製のポールを合わせ、総重量2100gを実現したモデル。

カラーリングをクルマの色に寄せたというクーラーボックスは、〈コールマン〉のローボーイ、ジャグも同じく同社製'70s。ベビーブルーはともに当時カナダ製〈コールマン〉のみの展開だったよう。

テーブルは近所のリサイクルショップでわずか数百円で手に入れたという〈スノーピーク〉のディスコンモデル、バナーは〈コールマン〉 425の'80s。コンパクト&ヴィンテージが好みとか。

CAMPING WITH MY CAR **04**

'99 ROVER
Mini

OWNER ／ だいさん@ふもとっぱら

実に40年以上も継続展開された、コンパクトカーの代名詞。

後にローバーグループに統合される〈ブリティッシュ・モーター・コーポレーション〉が1952年に発表した、その名の通り欧州産コンパクトカーのパイオニア。必要最小限を徹底した設計は、後発となる各国の小型車にも絶大な影響を残したと言われている。この愛車は、後継となるニュー ミニ登場前夜の最後期型にあたり、丸みを帯びたデザインにはグッとこなかったとオーナーも語るように、ミッドセンチュリーならではの道具然とした趣きがしっかりと残る。ルーフキャリアは鎌倉のスペシャリティショップで手に入れたものとか。

設営、撤収がラクな〈ニーモ・イクエップメント〉のフロアレスシェルター、ヘキサライト6をタープ風情に立ち上げたリラキシンなリビングスペース。晴天に映えるミニの配色を一点差し色的に活用し、サイト全体はコヨーテブラウンでトータル感を持たせた技ありセッティング。

2ヵ月前に手に入れたというミニに合わせたルーフキャリアは、鎌倉に位置するスペシャリティショップにオーダーしたショートモデル。愛車購入まではレンタカーでのキャンプがメインだったそう。

メインの幕体はシェルターと同じく〈ニーモ・イクエップメント〉のギャラクシーストーム3Pをセレクト。ポールが全て連結されているため、ワンポールテントよりも設営がラクとはオーナー。

フォールディングウッドラックはネット通販で見つけたというノーブランド品。〈トラスコ〉トランクカーゴにはOSB合板の天板をD.I.Y.。愛車同様に必要最小限でコンパクトにまとめていた。

〈コールマン〉のナチュラルウッドロールテーブル クラシックに、ダッチオーブンや火器の使用も想定し、〈ユニフレーム〉の焚き火テーブルで机上のユーティリティスペースを加えている。

'12 FORD
E150

OWNER ／ ソンゴクウファミリーさん@ふもとっぱら

圧巻の大容量は、コマーシャルバンならでは。

とにかく荷物が大量に積み込めるクルマを探していたと話してくれたとおり、〈フォード〉が2014年まで展開していた８人乗りの大容量フルサイズバン、Eシリーズをチョイス。本国ではいわゆるコマーシャルバンとして主に物流系企業などで採用されるフルサイズモデルの代名詞でもあったが、ゴツめのステンレスグリルが特徴的な同モデルを最後に、その座をパネルバンタイプのトランジットへと譲りディスコンに。リアシートからラゲッジスペースをフルフラットにアレンジでき、さらに後方を２段に分割ことで車中泊も快適なんだとか。

当日は快晴ということで幕体は〈スノーピーク〉のアメニティドームのフライなしと〈ニーモ・イクイップメント〉ヘキサライト6Pの2幕体制。やや離れに設けたリビングには〈タトンカ〉のレクタタープを立ち上げて日差しを遮り、ゆったりロースタイルのキャンプを楽しんでいた。

ティッシュケースや虫除けスプレー、ターボライターなどなど、散らかりがちなギア類をオールインワンで一括管理可能なウォールポケットをキャンプでも活用。こちらは〈オガワ〉のものとか。

高い天井と広い居住空間、タープやシェルターの代替としても利用可能なフロアレスモデル、〈ニーモ・イクイップメント〉ヘキサライト6Pなら家族4人でもゆったりリラックスできるという。

天板は素人でも加工しやすく安価なOSB合板、脚にはホームセンターでカットしてもらったというヒノキ材を使った自作キッチンラック。ネットを検索しながら見よう見まねでD.I.Y.したそう。

メインテーブルには軽量かつ脚が折り畳める上、チェアの高さや使用シーンに合わせ天板の高さを三段階調節できる〈モンベル〉の新作アイテム、マルチ フォールディング テーブルをチョイス。

'13 LAND ROVER
Defender

OWNER ／ こーきさん@GO OUT CAMP vol.15

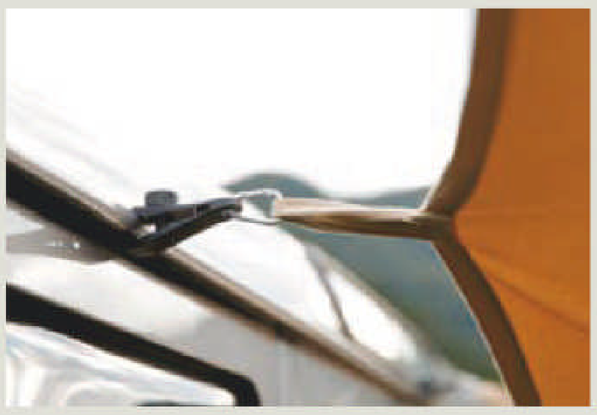
ミリタリー由来の、実力派クロスカントリー。

〈ランドローバー〉シリーズ3のマイナーチェンジモデルとして、'83年に90、110、127(ホイールサイズ)の3ラインが発表され、その内の90と110が'90年を境にディフェンダーと名付けられた。装甲車を彷彿とさせるタフなラダーフレームとアルミニウムボディが採用され、長年にわたり各国の軍や警察などへと納入されたものの、排ガス規制や安全基準などさまざまな要因から2015年に惜しまれつつディスコンモデルとなった。本車は'13年式の最終型110。3列目のリアシートを常時倒し、大容量ラゲッジスペースとして活用しているという。

プレミアムなコットンギアで知られるベルギー発〈キャンバスキャンプ〉のレクタタープは、5m四方の大判サイズ。難燃性に優れているため、幕内での焚き火も問題なし。メインのランタンはチェーンでややポジションを下げ、〈ペトロマックス〉のHK500をハンギングしていた。

リビングには〈コールマン〉のテーブルをロースタイルで配置。〈カーミットチェア〉、〈アウトプットライフ〉のベンチのほか、〈バイヤーオブメイン〉のコットも併せて配置しチェアとして機能させた。

旧きよきキャンプスタイルを思わせるレトロな三角屋根の幕体は、〈テンマクデザイン〉のペポ。かがむことなく出入りができる上、巻き上げ式の開口部はキャノピーとしても活用できるよう。



あえてポールを使わず、カーサイドを利用したタープ。ハンギングパーツは、オークションサイトで手に入れたアイテム。かなり重量のあるコットンタープでもタフなディフェンダーなら難なく対応できる。

テーブル横に〈スノーピーク〉の焚き火台を置き、調理は炭火で行うスタイル。天気がよく薪は直置きしつつ、焚き火ギアも同時にセット。火吹き用の竹筒と、グローブは〈ホリーデインザマウンテン〉。

'95 MITSUBISHI
DELICA STAR WAGON

OWNER ／ ETSUさん@西湖自由キャンプ場

フルノーマルで、パリダカを走破した実力派。

こちらは1979年にデビューしたデリカの派生モデル、スターワゴンの第二世代。商用車をベースとしながらも、同社のパジェロとともに乗用4WD車の先駆けとしてワールドワイドな支持を集めた。'86年からマイナーチェンジを繰り返しながら'99年まで国内生産された２代目は、フロントに無骨なガードを備え、角目１灯から同じく角目２灯へと進化。以降は輸出車のみの生産となったが、2000年代に台湾のCMC社へと製造販売権を完全譲渡している。ちなみに現行デリカＤ：５はパジェロ派生のデリカスペースギアの系譜に位置する。

愛車と同じコヨーテブラウンで揃えたメインの幕体は、〈ウィアーノット〉なる韓国ブランドのポリコットン製Aテント。シェルターのみのセパレート使用も可能な上、幕内は大人でも3人は余裕のスペースが確保できる。ポール使いで広がるアレンジ幅が何よりの魅力だとか。

さり気なくブラック、シルバー、ウッドで統一したインテリア。ダイヤモンドロゴ時代の〈コールマン〉製のジャグに合わせたウッドスタンドは、ネットで見つけたというノーブランド品を使用した。

パップテントを思わせるシンプル構造の幕体は、〈ウィアーノットブランド〉なる韓国ブランドのもの。おそらくフロアレスながらジャストサイズなグランドシートを合わせマットの直敷きにも対応する。

本誌のイベントでお買い上げいただいたというアイアンレッグには、やや長めの古材天板を合わせユーティリティラックに。インダストリアル風情なアルミコンテナはドイツ発〈アルテック〉社製。

ブラックとウッドを基調に、〈ハイランダー〉〈キャンプマニアプロダクツ〉と〈ブルーリッジチェアワークス〉のテーブルを連結し、〈カーミットチェア〉と〈オンウェー〉のナチュラム別注チェアを合わせた。

'07 TOYOTA
HIACE VAN

OWNER ／ 星野一馬さん@GO OUT CAMP vol.15

トランスポーターやバニングにも適した、タフネスバン。

100万キロもの過走行に耐えられるタフな設計とエンジンを備え、各国の物流企業や政府系機関、コミュニティバスなどにも採用される大型ワンボックスのハイエンド。海外輸出用モデルまで合わせると、これまで全6世代を数えるが、国内市場では2000年代に登場した第五世代が今なお現行モデルとなっている。本車は'07年式ながらフロントグリルからライトまで'80年代に展開された第三世代仕様に総入れ替え。星野さんの愛車は、ボディはコヨーテブラウン、ルーフはホワイトへとオールペンでお色直ししたというフルカスタム仕様な一台。

ハイエースにはベッドキットを導入し、車中泊にもそつなく対応。ひとりでも簡単に設営できると購入した〈コールマン〉×〈ビームス〉の自立式パーティシェードを手前に建て、〈ザ・ノース・フェイス〉のシングルウォールテント、ワオナ4にキャノピー感覚で連結したリビングスペース。

〈コールマン〉×〈ビームス〉のパーティシェードには、よく見ると〈ビームス〉のブランドロゴがモノグラムで表現された2019年の別注ギア。四隅をペグダウンすれば軒先BBQでも活躍しそう。

夫婦＋小さな子ども2人なら余裕を持ってゆったりできる幕体は、広めの前室を備えた〈ザ・ノース・フェイス〉のワオナ4。天井高が180cmほどある上、設営も簡単と星野さんも太鼓判を押す。

夫婦のチェアはシェード同様に〈コールマン〉で揃え、本来はお家のベランダで使っていた『アクタス』のフォールディングテーブルを拝借。重さが気にならないオートキャンプなら全然アリかも。

2人の子どもたちが座っていたベンチは、車内のベッドキットの一部を〈スロウワー〉のフォールディングスツールに載せただけというインスタント仕様ながら、まったく問題なく機能していた。

'14 LAND ROVER
Range Rover

OWNER ／ isseyさん＠西湖自由キャンプ場

英国の名門が誇る、ハイエンドフラッグシップモデル。

もとは〈ブリティッシュ・レイランド〉社が展開する1ブランドに過ぎなかった〈ランドローバー〉が、優れたオフロード性能と高級車同等の快適性の両立をコンセプトに、1970年に開発した高級オールパーパス4WD。3列シート装備の7人乗り、リアシートを倒せばSUPやカヤックも積載できる広大なラゲッジスペースが決め手と語る、第三世代・最後期型は、2002年まで展開された第二世代と比べ、より初代を意識した低重心フォルムが印象的。2014年には第四世代L405へとモデルチェンジが図られ、より近代的なルックスへと進化している。

設営がラクな上、十分なスペースが確保できると近年主流になりつつあるカンガルースタイルを実践したテントサイト。タープ代わりに立ち上げたシェルターは、最大16人に対応する〈MSR〉パビリオンを、インナーには〈ザ・ノース・フェイス〉のバスティオン4という組み合わせ。

〈シマノ〉のハードクーラーと〈シアトルスポーツ〉のフロストパックは、食材の種類でしっかり使い分け。〈スノーピーク〉のシェルフコンテナも自作の木製天板を載せ、より利便性を高めている。

すのこ状の天板を2段備えたアイアンラックは、本来はシューズラックとして全国の『コストコ』で展開され、5年ほど前にキャンプ好きの間で話題となったアンダー3000円という高コスパギア。

4シーズン&極地対応のエクスペディションテントのUSA企画モデル。同ブランド製テントのシンボルカラーでもあるカナリーイエローのフライをあえて使わず、シェルターインで単体使用。

チェアは〈キャプテンスタッグ〉のアルミベンチに〈ヘリノックス〉という定番のファミリースタイル。〈スノーピーク〉アイアングリルテーブル、〈バガボンド〉のテーブルの木製天板はともに自作。

'95 TOYOTA
LAND CRUISER 80

OWNER ／ kazuさん@ふもとっぱら

日本が世界に誇る、タフネスクロスカントリー。

1950年代にデビューして以来、各国軍や政府系機関などでも採用される日本を代表する名クロスカントリーモデル。その中でも '80〜'90年まで展開されたステーションワゴンサイジングの60系、さらにひと回り大きく北米などの海外市場を中心に '89〜'97年まで展開された80系は、ディスコンモデルとなった今なお根強い人気を誇っている。本オーナーは80系ボディに60系の丸目を移植し、ミリタリーグリーンにオールペン。〈ペンドルトン〉×『フレックスドリーム』のコラボパーツを使い車内のインテリアをメロウに飾っていた。

こちらのサイトも最大16人対応の大型シェルターにフライレスでインナーテントをインストール。〈MSR〉のパビリオンをタープ風情にフルオープンし、同じく〈MSR〉のエリクサーで寝室を確保した。大人でも腰をかがませることなく出入りできる快適性が何よりの利点だとか。

焚き火エリアには、〈ヘリノックス〉のチェアに〈キャンプマニアプロダクツ〉のグリルスタンド、〈ハングアウト〉のログキャリー、〈アイアンクラフト〉のイタダキなど無骨なオトコギアが並ぶ。

『コーナン』のラック2段と3段を組み合わせたパントリーラックに、オークションサイトで手に入れたD.I.Y.のシェルフコンテナや350ml缶が16本入るというアイランドクーラーを配置している。

メインテーブルには天板の高さを調整できると人気の〈プリムス〉のアジャスタブルテーブル、チェアは2脚とも〈ホリデーインザマウンテン〉のアナルコチェアを使用した贅沢なロースタイル。

少人数用としてコンパクトにまとめたリビング。ゴロ寝&ゲスト用のベンチとしても機能するコットは、『ワイルドワン』のPBとして多くのキャンプファニチャーを展開する〈クオルツ〉のアイテム。

'17 Mercedes-Benz
G350d

OWNER ／ Persimmonさん＠本栖湖キャンプ場

NATO軍お墨付きの確かな堅牢性。

その名をドイツ語でオフローダーを意味するゲレンデヴァーゲンに由来し、1979年にNATO軍正式採用の軍用車を民生用にアレンジするかたちでデビューした〈メルセデス〉を代表するロングセラー、Gクラス。インテリアなど細部にマイナーチェンジを繰り返しながらも、当初の設計を一貫して継承し、発売から40年を数えた今なお何ひとつ変わることのないクラシカルなコンポーネントで根強い人気を集めている。近年ではSUV的な色合いが際立ってはいるものの、そのコンセプトはあくまで対悪路仕様の本格オフローダーなのだ。

天井高をかなり高めに設定し、サイドを巻き上げることで広い視界を確保したリビングには、〈鎌倉天幕〉のタープ530DLをチョイス。〈イエティ〉のクーラーボックスはじめ、〈スノーピーク〉のシェルフコンテナなど収納ギアの高さを揃え、アクセス性を高めているのがわかる。

ユニークな形状に4つのメッシュパネルも備えた大判タープは、各社のOEMも展開する信頼のファクトリーブランド、〈鎌倉天幕〉のタープ530DL。〈DAC〉社製のポールが2セット付属。

メインテーブルは国産ガレージブランド、〈TheArth〉の定番モデル、ヘキ男とヘコ子にネイティブパターンのUVプリントを施した特別仕様「しま男ンドル」と「しまンドル」のダブル仕様。

〈トラスト〉のコンテナに〈イエティ〉のクーラーボックス、〈スノーピーク〉シェルフコンテナ、さらに〈スロウワー〉のスツールを噛ませた〈シアトルスポーツ〉フロストパックと完璧な高さ調整がお見事。

水道水がまるでミネラルウォーターのようにまろやかになると言われているセラミック製のコーヒーフィルターは、およそ400年もの歴史に裏打ちされた有田焼の技法を引用した話題の逸品だ。

CAMPING WITH MY CAR 12

'18 JEEP
Wrangler JK

OWNER ／ SHIMさん@GO OUT CAMP vol.15

ミリタリー由来の、実力派クロスカントリー。

もともとは軍用車両として'40年代に開発され、その民生仕様としてシヴィリアンのイニシャルCを冠したCJ。さらにその後継機としてクライスラーより'87年にデビューしたのがこのラングラーだ。ほぼ10年周期でフルモデルチェンジを繰り返し、本車を含む第四世代は2018年に発表され、シリーズ初のハイブリッド車もラインナップ。キャンプや釣りなど外遊び好きというオーナーならでは、オフロードタイヤに履き替え、テールランプにはガードを装着。印象的なサンドベージュのカラーリングはゴビと名付けられた限定仕様とか。

寝室とリビングの2シェルター体制での贅沢セッティング。立ち上げたレクタタープは〈タトンカ〉 4TC、シェルターはともに〈ニーモ・イクエップメント〉のヘキサライト6P。愛車のテイストに倣い、コヨーテやマルチカムなどミリタリーオマージュなギアが随所に見られたサイト。

チェアは〈ヘリノックス〉で統一し、サイト全体のテイストを揃えていた。テーブル類は〈キャンプマニアプロダクツ〉のアイアングリル2サイズで無骨にまとめ、幕内灯には〈ジェントス〉をチョイス。

キッチンテーブルは〈アディロンダック〉、ブラックのアイアンラックは『ワイルドワン』で入手した。クーラーは〈オレゴニアンキャンパー〉と〈コールマン〉の2種類を食材ごとに使い分けている。

2幕体制のシェルターはともに〈ニーモ・イクエップメント〉のヘキサライト6P。初代コラボのマルチカムパターンに加え、今季デビューしたマルチカムアリッドパターンを追加購入したという。

防寒対策のためにインストールしたというインナーテントも〈ニーモ・イクエップメント〉のギャラクシーストーム。暑い場合は直敷した〈サーマレスト〉のマットの上にエアマットを重ねてご就寝。

'16 SUZUKI HUSTLER

OWNER ／ Yujiさん@GO OUT CAMP vol.15

外遊びにもジャストな、遊べる軽の新境地。

セダンとSUVのクロスオーバーとしてデビューしたKeiの後継車として開発され、2014年の発表以降、わずか1年足らずで累計販売台数10万台を突破した軽規格のクロスオーバーSUV。平成29年度「全国発明表彰 発明賞」を受賞するなど、その快進撃はデビューから5年目を迎えた今なお止まるところを知らない。本車は2016年に新車で購入し、〈イノー〉のルーフラックで積載量を高めるとともに、キャンプを始めるきっかけにもなったとか。角ばった無骨なスタイリングのほか、後部座席のフルフラットシートも決め手になったという。

キャンプ歴3年にして年間15本というなかなかのハイペース。カラーリングとデザインで選んだというタープは、デザートウォーカーなる新興アジアブランドのもの。手前に見えるコンテナボックスは〈ソー〉、アルミコンテナは〈ダルトン〉を使用。小物の収納に重宝するとか。

チェアは〈DOD〉のローローバーを2脚セット。ジャグにはオリーブオイル缶を、クーラーボックスは〈コールマン〉のスチールベルトと、メタル×ブラックがサイトを彩るアクセントカラーとなっていた。

ロープ止め金具などの名称で展開される鉄製杭を3つ組み合わせユーティリティハンガーに。1本わずか数百円でホームセンターなどで購入可能。テーブルは〈ハイランダー〉のものをチョイス。

〈ダルトン〉のアルミコンテナのベースは、『スポーツアルペン』のPBとしてさまざまなギアを展開する〈イグニオ〉のメタルラック。火種など小物類はアンモボックスとツールボックスとまとめていた。

デュオキャンということで、メインの幕体は〈ヘリノックス〉×〈ネイバーフッド〉アルパインドーム2Pをチョイス。後者らしいタイガーストライプカモのフライが印象的な2016年のコラボモデル。

CAMPING WITH MY CAR **14**

'95 SUZUKI
Jimny JA11

OWNER ／ 小杉将史さん@GO OUT CAMP vol.15

悪路もものともしない、軽規格の本格オフローダー。

〈ジープ〉を端緒とするトラディショナルなオフロード4WD車の系譜に位置する〈スズキ〉発の軽規格。1970年のデビューから近年フルモデルチェンジで話題を集める4代目まで、各世代にそれぞれマイナーチェンジモデルを数種有している。本車は'95年式の第二世代第三期型をリフトアップし、ルーフとリアに車外キャリアを備え、ブラックのオールペンを施したカスタム仕様。キャンプ場だけでなく、悪路を踏み分けソロ野営にもトライしているといい、前任は〈いすゞ〉ビッグホーンだったというオーナーの思考が容易に伺える1台である。

〈オガワ〉の幕体からテーブル、チェア、小物、収納類までブラックで統一したモダンなセッティング。タープは漆黒のエクイップメントで一躍その名を知らしめた国産ガレージブランド、〈ムラコ〉のヘキサウルトラ。通称「小川張り」でテントの前室風情に立ち上げているのが見て取れた。

ハンモックを思わせる浮遊感と、身体を預けるだけで自動的にリラックスポジションへと移行するオートリクライニング機能を備えた〈ニーモ・イクエップメント〉のスターゲイザーを愛用中だ。

メインチェアは定番の〈カーミット〉、テーブルは『ワイルドワン』のPBブランド〈クオルツ〉。火器類はソトレギュレーター 2バーナーはじめ、〈コールマン〉デュアルフューエルなどシルバーに。

奥に見えるウィール付きキャリーボックスと一点差したホワイトが映えるジャグは〈スタンレー〉をチョイス。ノーブランドというクーラーボックスもしっかりモノトーンで統一。素晴らしい徹底ぶりだ。

〈オガワ〉のワンポールテント、ピルツ7のフライのみをフロアレス状態で立ち上げ、〈DOD〉のコットと〈ナンガ〉のシュラフをインストール。幕体から寝具まですべてブラックというこだわりぶり。

Editor in chief
Mitsuru Takeshita

Editor
Masashi Echigo
(RIDE MEDIA&DESIGN inc.)
Shiyori Kawamura
(RIDE MEDIA&DESIGN inc.)

Advertising staff
Gakuji Onozato
Tomoaki Suzuki
Yasuyuki Abe
Yui Okutani
Mamoru Takahashi
Kotoe Nakahata
Moe Noguchi
Hiroaki Takahashi

Designer
Nanami Kitajima
(RIDE MEDIA&DESIGN inc.)

Producer
Shigeru Kita

Creative Director
Osaka Umeda(60MW)

ニューズムック
THE CAMP STYLE BOOK vol.14
2019 年 12月 2日発行

発行人：星野 邦久
編集人：竹下 充
印刷所：図書印刷株式会社
発行所：株式会社三栄
〒 160-8461 東京都新宿区新宿 6-27-30 新宿イーストサイドスクエア 7F
広告 tel：03-6897-4622
編集 tel：03-6303-1609（ロクマルマガジンワークス）
受注センター tel：048-988-6011 fax：048-988-7651
販売 tel：03-6897-4611

定価：本体 1000円 + 税

■本誌掲載記事・写真などの無断掲載、複写を禁じます。

web.goout.jp
GO OUT の公式ウェブサイト、毎日更新中!!
公式 SNS も絶賛稼働中です。

公式Facebook
GO OUT Magazine
GO OUT Online
GO OUT CAMP

公式twitter
@ GOOUT magazine
@ goout_onlie
@ goout_camp

公式Instagram
@ gooutjpn
@ gooutonlinejpn

WELCOME TO A&F COUNTRY

A&F

www.aandf.co.jp

klean kanteen PENDLETON LODGE MYSTERY RANCH Chaco BAREBONES BYER CSI HELINOX HOME DECO & BEACH eagle creek KAVU COGHLAN'S VASQUE OUTDOOR RESEARCH

pacsafe DARN TOUGH ETHNOTEK HALA ChicoBag HENNESSY HAMMOCK HILLEBERG THE TENTMAKER cocoon Kirkham's YETI UltrAspire